医療法人社団

筑波記念会

2018年度年報

2018.4-2019.3

筑波記念病院
筑波総合クリニック
つくばトータルヘルスプラザ
つくばケアセンター
つくば訪問看護ステーション

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

INDEX

Fiscal year 2018

医療法人社団 筑波記念会　概要 …… 2
基本理念・基本方針 …… 2
筑波記念会 組織図 …… 2
筑波記念病院 組織図 …… 3
沿革 …… 4
施設概要 …… 5
筑波記念病院 …… 5
筑波総合クリニック …… 7
つくばトータルヘルスプラザ …… 7
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 8
診療部門 …… 10
循環器内科 …… 10
消化器内科 …… 12
血液内科 …… 14
神経内科 …… 16
代謝内科 …… 18
呼吸器内科 …… 20
消化器外科 …… 22
呼吸器外科 …… 24
心臓血管外科 …… 26
脳神経外科 …… 28
整形外科 …… 30
形成外科 …… 32
婦人科 …… 34
眼　科 …… 36
耳鼻咽喉科 …… 38
皮膚科 …… 40
小児科 …… 41
精神科 …… 42
麻酔科 …… 44
放射線科 …… 46
病理診断科 …… 48
リハビリテーション科 …… 50
救急科 …… 52
リウマチ科・アレルギー科 …… 54
腎臓内科 …… 54
乳腺甲状腺外科 …… 54
泌尿器科 …… 54
もの忘れ診療科 …… 55
内　科 …… 55
筑波記念病院　研修医 …… 56
業績集 …… 57
論文 …… 57
書籍 …… 58
学会・講演・セミナー等 …… 58
診療支援部門 …… 66
看護部 …… 66
薬剤部 …… 74
放射線部 …… 76
リハビリテーション部 …… 78
臨床検査科 …… 84
臨床工学科 …… 86
栄養科 …… 88
医療相談室 …… 90
臨床心理 …… 92
地域医療連携部 …… 94
委　員　会 …… 97
病院運営管理会議 …… 97
医療安全管理委員会 …… 97
医療安全対策チーム …… 98
転倒転落対策 WG …… 101
感染対策管理委員会 …… 102
感染対策チーム …… 104
労働安全衛生委員会 …… 107
防火防災管理委員会 …… 107
臨床研修管理委員会 …… 108
臨床研修運営チーム …… 109
医療従事者研修管理委員会 …… 111
職員研修運営チーム …… 111
地域医療研修運営チーム …… 112
診療管理委員会 …… 113
救急診療運営チーム …… 114
外来診療運営チーム …… 115
手術部運営チーム …… 115
ICU 運営チーム …… 116
リハビリテーション運営チーム …… 116
病院機能改善管理委員会 …… 117
医療ガスチーム …… 118
がん化学療法運営チーム …… 119
輸血運営チーム …… 119
診療録チーム …… 120
臨床検査運営チーム …… 121
補助人工心臓管理チーム …… 122
栄養チーム …… 122
栄養サポートチーム（NST） …… 124
摂食嚥下ケアチーム …… 125
褥瘡対策チーム …… 127
クリティカルパス・DPC チーム …… 128
地域医療サービスチーム …… 129
企画広報運営チーム …… 130
倫理委員会 …… 131
治験審査委員会 …… 132
薬事委員会 …… 133
筑波総合クリニック …… 134
つくばトータルヘルスプラザ …… 136
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 140
つくば訪問看護ステーション …… 141
筑波記念病院 統計 …… 142
患者統計 …… 142
科別外来患者数 …… 142
救急車搬送患者記録 …… 143
ドクターヘリ搬送患者数 …… 144
平均在院日数（一般病棟） …… 144
入院延べ患者数 …… 145
新入院患者数 …… 146
手術件数（入院・外来） …… 147
手術件数（入院のみ・時間帯別） …… 148
病床利用率 …… 148
主な指導料・管理料 …… 149
地域がん登録部位別件数 …… 150
院内・院外　研修・講演会一覧 …… 151

医療法人社団 筑波記念会　概要

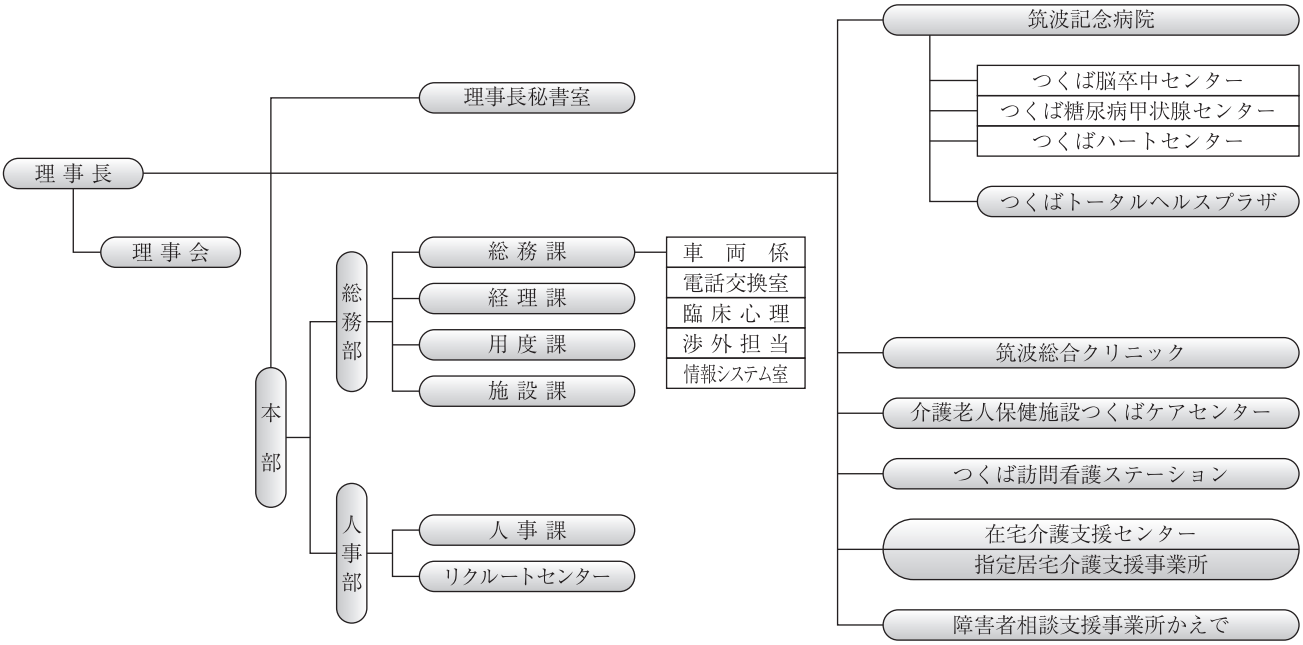
基　本　理　念

誠意を以って最善をつくす

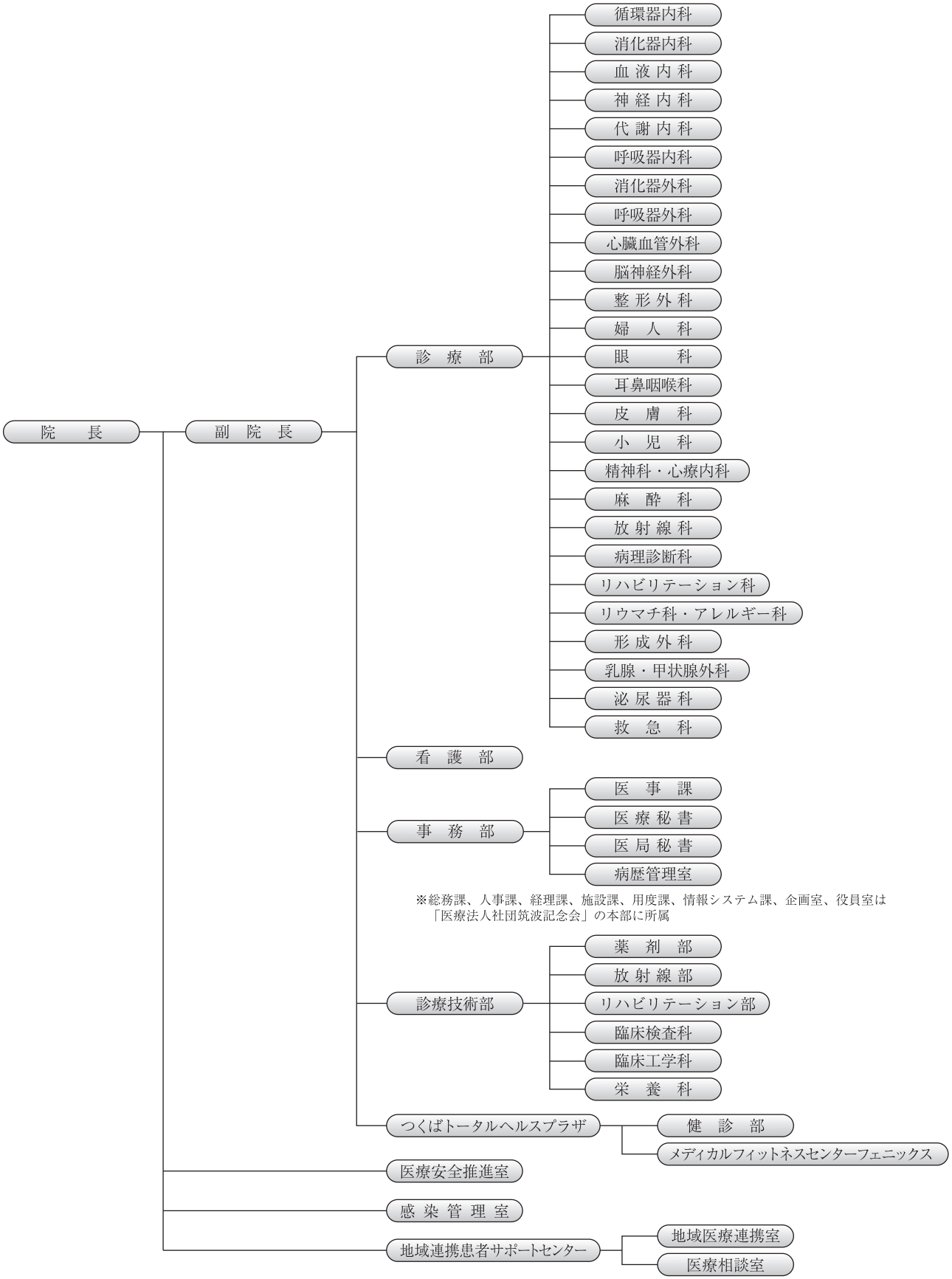
基　本　方　針

1．患者と社会に奉仕する
2．最新、最高の総合医療を提供する
3．患者の権利と意向を尊重する
4．地域の医療・保健・福祉に貢献する
5．地域社会での良好な職場環境を提供する

筑波記念会　組織図



筑波記念病院　組織図


院　長
副　院　長
診　療　部
循環器内科
消化器内科
血 液 内 科
神 経 内 科
代 謝 内 科
呼吸器内科
消化器外科
呼吸器外科
心臓血管外科
脳神経外科
整 形 外 科
婦　人　科
眼　　科
耳鼻咽喉科
皮　膚　科
小　児　科
精神科・心療内科
麻　酔　科
放 射 線 科
病理診断科
リハビリテーション科
リウマチ科・アレルギー科
形 成 外 科
乳腺・甲状腺外科
泌 尿 器 科
救　急　科
看　護　部
事　務　部
医　事　課
医 療 秘 書
医 局 秘 書
病歴管理室
※総務課、人事課、経理課、施設課、用度課、情報システム課、企画室、役員室は
「医療法人社団筑波記念会」の本部に所属
診療技術部
薬　剤　部
放 射 線 部
リハビリテーション部
臨床検査科
臨床工学科
栄　養　科
つくばトータルヘルスプラザ
健　診　部
メディカルフィットネスセンターフェニックス
医療安全推進室
感 染 管 理 室
地域連携患者サポートセンター
地域医療連携室
医療相談室

沿　　革

1982	2	筑波記念病院開設
		保険医療機関指定
	4	生活保護法医療機関指定
	5	第二次救急医療機関指定
	6	労災保険医療機関指定
1983	2	筑波健康推進センター開設
		人間ドック及び健康診断実施
		日本体力医科学研究所開設
1984	8	結核指定医療機関指定
1985	1	託児所「アイビー保育園」開設
1986	1	医療法人社団筑波記念会認可
1987	12	筑波記念病院附属第一病院開設
1989	8	附属第一病院廃止、筑波記念病院に吸収合併
1992	2	中央管理棟完成
	3	在宅介護支援センター開設
	10	つくば訪問看護ステーション開設
1994	11	「つくばトータルヘルスプラザ」、メディカルフィットネスセンター「フェニックス」開設
1996	6	老人デイケア施設「ピンクハウス」開設
1997	7	ホームページ開設
1998	4	老人保健施設「つくばケアセンター（現２号棟）」開所
1999	4	指定居宅介護支援事業所開設
		クリティカルパス導入
	12	難病医療協力病院指定
2000	12	つくば市より事業委託 病後児保育「ピーターパン」開設
2001	3	病児家族宿泊施設「ファミリーハウス」開設
	8	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（一般病院Ｂ（200 床以上））認定取得
	9	茨城県地域リハ・ステーション指定
2002	7	「つくばクリニック（眼科）」開設
	10	茨城県訪問リハビリテーション・ステーション指定
2003	6	地域医療連携室設置
	7	介護老人保健施設「つくばケアセンター」リニューアルオープン
	8	療養病棟「けやき」開設
	11	開放型病院指定
2004	4	臨床研修病院指定
	6	セカンドオピニオン外来開始
	7	DPC（診断群分類・包括評価）開始
	9	回復期リハビリテーション病棟「ひのき」開設
2005	5	外来専門クリニック「筑波総合クリニック」開設
	9	「つくばケアセンター」内に訪問リハビリテーション事業所開設
2006	1	県南スポーツ医科学センター認定
		茨城県地域リハビリテーション研修推進支援センター指定
	9	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.5）
2008	4	特定健康診査・特定保健指導機関登録
	5	高機能医療センター開設
2010	7	ドクターヘリ受入開始
2011	1	回復期リハビリテーション病棟リニューアル
	11	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.6）
2012	3	「つくばトータルヘルスプラザ」リニューアル
	9	地域医療支援病院　承認
	10	メディカルフィットネスセンター「フェニックス」指定運動療法施設認定
		「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション下妻出張所開設
2013	2	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション桜川出張所開設
	10	障害者相談支援事業所「かえで」開設
2014	4	筑波記念病院附属「アイビー保育園」新築移転
	5	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション土浦出張所開設
2015	9	筑波記念病院「Ｓ棟」竣工
2016	4	「つちうらハートクリニック」開設
	8	日本医療機能評価機構認定基準（機能種別版評価項目 3rdG：Ver.1.1）認定更新
2017	1	（主たる機能：一般病院２、副機能：リハビリテーション病院）
	11	DMAT 指定医療機関指定
		筑波記念グループが誕生し、新たに医療法人恵仁会加わる
2018	3	「つちうらハートクリニック」閉院
	10	社会福祉法人 筑波記念会が誕生し、新たに筑波記念グループに加わる
	11	茨城県女性が輝く優良企業認定制度に認定

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

施　設　概　要

筑波記念病院

管理者：長澤　俊郎

〒300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-1212　FAX 029-864-8135

ベッド数　487 床　　一般病床：387 床（ICU 8 床　7 対 1 病棟 327 床　回復期リハビリテーション病棟 52 床）

療養病床（医療保険適用）：100 床（療養病棟 51　地域包括ケア病棟 49 床）

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、アレルギー科、リウマチ科、血液内科、心療内科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

基準情報

地域医療支援病院	特定疾患（一般・小児）治療研究機関
ＤＰＣ対象病院	生活保護法第 49 条規定医療機関
日本医療機能評価機構　3rd6:Ver1.1 （主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）認定	難病医療協力病院
第二次救急指定病院	原子爆弾被爆者指定医療機関
臨床研修病院指定（基幹型）	自立支援医療機関（精神通院）
茨城県指定地域リハ・ステーション	医療機関検診実施指定病院
労災保険二次健診等給付医療機関	DMAT 指定医療機関・AMAT 病院

施設基準（基本診療料）

一般病棟入院基本料　急性期一般１（７対１）	感染防止対策加算１　地域連携加算　抗菌支援加算
療養病棟入院基本料２	患者サポート体制充実加算
診療録管理体制加算２	総合評価加算
医師事務作業補助体制加算２チ（100 対 1）	後発医薬品使用体制加算１
急性期看護補助体制加算３（50 対 1）	病棟薬剤業務実施加算１
療養環境加算	データ提出加算２イ
療養病棟療養環境加算１	入退院支援加算１イロ
無菌治療室管理加算１	特定集中治療室管理料３
重症皮フ潰瘍管理加算	回復期リハビリテーション病棟入院料１
栄養サポートチーム加算	地域包括ケア病棟入院料２（療養病棟）
医療安全対策加算１	

施設基準（特掲診療料）

がん性疼痛緩和指導管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
救急搬送看護体制加算	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
開放型病院共同指導料	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
がん治療連携指導料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
薬剤管理指導料	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
医療機器安全管理料１	補助人工心臓
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
持続血糖測定器加算	頭蓋内腫瘤摘出術等
検体検査管理加算（Ⅰ），（Ⅱ）	肺悪性腫瘍手術等
ヘッドアップティルト試験	経皮的カテーテル心筋焼灼術
画像診断管理加算１，２	靭帯断裂形成手術等
ＣＴ撮影（６４列以上のマルチスライスＣＴ）	水頭症手術等
ＭＲＩ撮影（３テスラ以上）	肝切除術等
心臓ＭＲＩ撮影加算	食道切除再建術等
冠動脈ＣＴ撮影加算	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術
外来化学療法加算２	人工関節置換術
無菌製剤処理料	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む。）及び体外循環を要する手術
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設術
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	輸血管理料２　貯血式自己血輸血管理体制加算
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者リハビリテーション料	麻酔管理料（Ⅰ），（Ⅱ）
集団コミュニケーション療法料	病理診断管理加算１
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	

諸指定

日本リハビリテーション医学会研修施設	日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設
日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院	日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設
日本脳神経外科学会専門医研修（連携）施設【筑大の連携施設。研究プログラムの１施設】	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本消化管学会胃腸科暫定指導施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	一般財団法人日本作業療法士協会　作業療法士臨床実習指導施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関	日本医療薬学会認定日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本医療薬学会認定日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本神経学会専門医准教育施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設
日本消化器病学会認定専門医制度認定施設	呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	植込型補助人工心臓実施施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本呼吸器学会認定施設	茨城県肝疾患専門医療機関
日本血液学会認定血液研修施設	茨城県広域スポーツセンター事業協力医療機関
IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設	茨城県指定地域リハ・ステーション

公益社団法人　日本理学療法士協会　生涯学習制度（新人研修プログラム）臨床指導施設	茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター
日本脈管学会認定研修指定施設	茨城県指定小児リハ・ステーション
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	茨城県指定訪問リハビリテーション・ステーション
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院	マンモグラフィー検診施設画像認定施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	日本認知症学会教育施設認定

筑波総合クリニック

院長：飯田　要

〒300-2622　茨城県つくば市要65　　TEL 029-877-1221　FAX 029-877-1191

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科、放射線科

つくばトータルヘルスプラザ

施設長：中原　朗

〒300-2622　茨城県つくば市要1187-299　　TEL 029-864-3588　FAX 029-864-8585

諸指定

厚生労働大臣認定健康増進施設	日本脳ドック学会認定脳ドック施設
全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施機関	厚生労働省指定運動療法施設
日本総合健診医学会認定優良総合健診施設	日本総合健診医学会及び日本人間ドック学会認定人間ドック健診専門医研修施設
健康評価施設査定機構認定人間ドック・総合健診・特定健診・特定保健指導施設	

介護老人保健施設 つくばケアセンター

管理者：小關　　迪

〒300-2622　茨城県つくば市要 76　　TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション

〒300-2622　茨城県つくば市要 76（介護老人保健施設 つくばケアセンター内）

TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　下妻出張所

〒304-0051　茨城県下妻市小島 695　ブリランテ下妻 105

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　桜川出張所

〒300-4414　茨城県桜川市真壁町椎尾 1632-1

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　土浦出張所

〒300-0812　茨城県土浦市下高津 1-19-33

サービスの種類

介護保健施設サービス（入所）
介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護（ショートステイ）
介護予防通所リハビリテーション・通所リハビリテーション（デイケア）
介護予防訪問リハビリテーション・訪問リハビリテーション

定員等

入所定員	100 名（介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護も含む） 療養室　　個室　12 室、4 床室　22 室
通所定員	40 名（介護予防通所リハビリテーションも含む）

基準情報

生活保護法等指定介護機関
茨城県指定訪問リハ・老健ステーション
全国老人保健施設協会実地研修指定施設

施設基準等

入所

介護保健施設サービス費（Ⅰ）	ターミナルケア加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	再入所時栄養連携加算
夜勤職員配置加算	かかりつけ医連携薬剤調整加算
短期集中リハビリテーション実施加算	所定疾患施設療養費
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
栄養マネジメント加算	認知症情報提供加算
低栄養リスク改善加算	入所前後訪問指導加算
療養食加算	地域連携診療計画情報提供加算
経口維持加算	褥瘡マネジメント加算
初期加算	排泄支援加算

口腔衛生管理体制加算	施行的退所時指導加算
口腔衛生管理加算	退所時情報提供加算
外泊時費用	退所前連携加算
緊急時治療管理	訪問看護指示加算
在宅復帰・在宅療養支援機能加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）

短期入所療養介護

介護老人保健施設短期入所療養介護費（Ⅰ）	送迎加算
介護老人保健施設介護予防短期入所療養介護費（Ⅰ）	重度療養管理加算
個別リハビリテーション実施加算	在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）
療養食加算緊急	短期入所受入加算
サービス提供体制強化加算	緊急時治療管理
夜勤職員配置加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	

通所リハビリテーション

通常規模型リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
6時間以上8時間未満の前後延長サービス	介護予防通所リハビリテーション費
リハビリテーション提供体制加算	理学療法士等体制強化加算
入浴介助加算	重度療養管理加算
リハビリテーションマネジメント加算（Ⅰ～Ⅲ）	中重度者ケア体制加算
短期集中個別リハビリテーション実施加算	社会参加支援加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	運動器機能向上加算
生活行為向上リハビリテーション実施加算	選択的サービス複数実施加算
栄養改善加算	事業所評価加算
口腔機能向上加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）

訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算
介護予防訪問リハビリテーション費	社会参加支援加算
短期集中リハビリテーション実施加算	リハビリテーションマネジメント加算(Ⅰ)～(Ⅳ)
事業所評価加算	

協力医療機関

筑波記念病院
筑波総合クリニック
大久保歯科医院

診　療　部　門

循 環 器 内 科

【総括】

1．2018 年度実績報告

2018 年度、循環器内科は筑波大学循環器内科から小川孝二郎が派遣され、1 名増員となった。つくばハートセンター、筑波総合クリニックには、在籍医師の増減はなかった。外来患者数、入院患者数はともに前年と同様の実績を達成した。治療実績は冠動脈インターベンション 197 例、経皮的末梢動脈インターベンション 11 例と前年実績をわずかに上回った。カテーテル心筋焼灼術 87 例と前年実績と同等であった。体内式ペースメーカおよび ICD の移植は合計 31 例と前年実績を上回った。また、今年度より開始した植え込み型心電図計移植は 4 例であった。以上、全ての実績が前年と同等か上回ることができた。これは病診連携の強化がもたらした結果であると考えている。前年の課題であった心不全患者の在院日数は 20.2 日とまだ目標である 14 日を超えているものの、前年度の 34.3 日から大幅な短縮を達成できた。入院患者の高齢化を考慮すれば、かなり良い実績であると考える。国内外の学会での発表を積極的に行うことができたが、論文発表が少なかった。

2．2019 年度の課題・目標

冠動脈および末梢動脈インターベンション件数はここ数年伸び悩んでいたが、今年度は増加に転じた。協力診療所からの紹介患者の獲得に力を注いだ結果が出てきたと評価しているので，来年度も件数が増加できるよう引き続き協力診療所と緊密な連携が取れるような方法を考えていく。不整脈部門では前年と同様の実績が続いているが、こちらも協力診療所からの紹介患者を増やせるように努力する。心不全治療の平均在院日数の短縮ができたが、さらなる短縮を目指して、職種横断的な心不全治療チームの立ち上げを行いたい。学会発表は今後も積極的に行い、発表内容の論文化にも力を入れていく。

［文責：榎本強志］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
小關　　迪	筑波記念会 会長・総院長	常（HP）
榎本　強志	院長補佐	常（HP）
井川　昌幸	循環器内科診療部長	常（HP）
我妻　賢司	つくばハートセンター長	常（HP）
新居　秀郎	循環器内科診療科長・集中治療部科長	常（HP）
内田　靖人	循環器内科診療医長	常（HP）
井藤　葉子		常（HP）
沼田るり子		常（HP）
小川孝二郎		常（HP）
松倉しほり		常（HP）
青沼　和隆		非（HP）
朴　　要俊		非（HP）

【手術件数】

分　　類	件　数
経皮的冠動脈ステント留置術	201
経皮的カテーテル心筋焼灼術	87
経皮的冠動脈形成術	2
経皮的血管形成術	9
ペースメーカー移植術・交換術	26
植込型除細動器移植術・交換術	5
植込型心電図計移植術	4
その他の手術	2
総手術件数	336

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	255	6.2
050130	心不全	163	20.2
050070	頻脈性不整脈	118	8.1
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	46	17.3
040080	肺炎等	38	18.5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,567	2,572	2,586	2,641	2,660	2,325	2,909	2,513	2,727	2,864	2,573	2,609	31,546

消 化 器 内 科

【総括】

1．2018 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2017年度の当科入院のべ患者数は18,432、新入院患者数1,000、外来受診者数25,306であり、前年の2017年度とほぼ同規模であった。

②内視鏡診療では、胃内視鏡施行数3,469件および大腸内視鏡施行数1,954件であり、どちらも前年度比で減少した。これは筑波大学からの後期研修医1名の派遣が減員された影響であると分析している。

③学会での発表に関しては、これまで同様に安定した実績が保たれた。

④論文執筆では、小林真理子医師が日本消化器病学会雑誌へ症例報告を上梓した（筆頭著者）。なお本論文は2018 年度の優秀論文賞を受賞し本学会にて表彰されると言う快挙を成し遂げた。

⑤学会専門医関係では、岩井健太郎医師が肝臓学会専門医を取得した。

2．2019 年度の課題・目標

①来年度は内視鏡件数を少なくとも2017年度の実績まで回復させること。さらには、胃内視鏡4,500件および大腸内視鏡2,500件を目指す。2018年度の目標であったが未達成の消化管悪性腫瘍に対するESD100件、ERCP年間300件も早急にクリアできるよう努力する。

②病－診連携・病－病連携を強化する。具体的には、紹介患者数年間 1,000 例越えをこれからも維持し（2017 年度：1,030 例、2018 年度：1,102 例）、月平均 100 例以上（年間 1,200 例以上）の紹介患者さんを受け入れられるような体制への整備を図る。

［文責：池澤和人］

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	98	12.7
060020	胃の悪性腫瘍	87	16.6
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	51	21.3
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	49	7.9
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	42	18.7
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	39	23.6
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	37	18.4
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	35	20.5
060380	ウイルス性腸炎	35	6.1
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	33	9.8

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
池澤　和人	副院長・医局長・消化器内科診療部長	常(HP)
添田　敦子	消化器化学療法診療科長・化学療法部長	常(HP)
越智　大介	消化器内科診療医長・内視鏡センター長	常(HP)
小林真理子		常(HP)
大塚公一朗		常(HP)
岩井健太郎		常(HP)
白石　貴久		非(HP)
山本　祥之		非(HP)
鈴木　宏清		非(HP)
杉山　弘明		非(HP)
萩原　悠也		非(HP)
永渕　美帆		非(HP)

【手術件数】　※ ESD は除く

名　称	件　数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	674
内視鏡的胆道ステント留置術	87
内視鏡的乳頭切開術	50
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ切除術	44
内視鏡的胆道結石除去術	33
内視鏡的消化管止血術	30
食道・胃静脈瘤結紮術・硬化療法	28
結腸内視鏡的止血術	19
下部消化管ステント留置術	17
大腸 ESD	15
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	13
胃瘻造設術	8
その他の手術	31
総計	1,049

【内視鏡検査数】

上部消化管内視鏡	総数	3,469
検査のみ	(経口)	3,308
	(経鼻)	
治療内視鏡	食道 ESD	2
	胃 ESD	40
	胃 EMR	4
	EVL	28
	止血術	30
	胃瘻造設・交換	31
	異物摘出術	13
	胃、十二指腸ステント留置術	8
	胃･十二指腸狭窄拡張術	5
	食道ステント留置術	4

下部消化管内視鏡	総数	1,954
検査のみ		1,246
治療内視鏡	ESD	15
	EMR	674
	止血術	19

ERCP	総数	198
治療内視鏡（重複あり）	EST	50
	EPBD	28
	ステント留置	87
	砕石除去術	33

全内視鏡総数	5,621

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,923	2,060	2,098	2,053	2,152	1,936	2,317	2,162	2,171	2,223	2,042	2,169	25,306

血　液　内　科

【総括】

2018年度は医師数が1名減となったこともあり、入院・外来患者数とも前年度よりは減となり、病棟のベッド稼働率も低下した。平均在院日数は依然として20日を超えた状態が持続した。学術業績については研修医の学会発表に力を入れた結果、5件の発表に至り内2例で日本内科学会関東地方会奨励賞をいただくことができた。

2019年度は常勤医が1名減となりさらにマンパワーが低下するが、他院からの御紹介を原則としてすべてお受けする方針は堅持したいと考える。在院日数については長期入院患者数のコントロールが困難であるため、むしろ短期入院の患者数を増やしてベッド回転を上げる方向で対処したい。学術業績については日本血液学会認定施設基準が厳しくなり、今年度は血液内科関連の内容で日本内科学会もしくは日本血液学会で3件以上の発表を行うことが必須となった。論文については学術論文提出を一本予定している。造血幹細胞移植については2017年度をもって当院は臍帯血移植認定施設の資格を返上したため、同種移植症例は事実上筑波大学にほとんどすべての症例を依頼することとなった。自家移植・同胞からの造血幹細胞移植は今後も症例があれば積極的に実施する方針である。

［文責：佐藤祐二］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長澤　俊郎	管理者・院長	常(HP)
佐藤　祐二	副院長・血液内科診療部長	常(HP)
福田　匡芳	血液内科診療医長	常(HP)
鈴木　幸恵		常(HP)
一色　雄裕		常(HP)
田岡　謙一		非(HP)
小松　恒彦		非(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
130030	非ホジキンリンパ腫	236	22.7
130060	骨髄異形成症候群	79	25.7
130010	急性白血病	72	29.8
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	61	26.4
040080	肺炎等	25	18.1
130050	慢性白血病、骨髄増殖性疾患	24	20.5
040081	誤嚥性肺炎	19	22.5
130080	再生不良性貧血	18	41.6
110310	腎臓または尿路の感染症	13	16.5
130090	貧血（その他）	9	16.7

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
770	726	809	789	798	758	821	729	828	802	793	861	9,484

神　経　内　科

【総括】

1．病棟診療

前年度と同様に常勤医 1 人体制であり、長期療養病棟への他院からの転院及び急性期病棟から転棟する一部と回復期リハビリテーション病棟を主に担当した。

てんかん、内科疾患に伴う神経系障害等の急性期病棟の入院は他科に担当していただき、神経内科で併診する形式を継続させていただいた。

2018 年度の入院診療数と疾患内容は次のようになった。

神経内科入院患者数は 17 名、コンサルテーション 159 件であった。疾患内容は内科疾患に伴う神経系障害（33%）、てんかん（24%）、パーキンソン病、多系統萎縮症、認知症、筋ジストロフィー、髄膜炎であった。

高度な専門的治療が必要な急性期神経内科疾患は、適切な診療体制の医療機関へ紹介した。他院からの転入院依頼は、看護部、地域医療連携室、リハビリテーション部と随時相談し対応した。

前年度に比べて主担当症例は数は減少したが、併診症例は、神経内科専門治療が必要な症例数は変化がなかった。コンサルテーション登録件数は、減少しているが、担当科からの電話での相談に診療対応した場合が多く、実数に著変はなかった。

2．外来診療

神経内科専門外来（年間 4,150 人、月平均 345 人、初診数 165、紹介数 119）では、神経変性疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、運動ニューロン疾患、認知症）、末梢神経障害てんかんを始めとする神経内科疾患全般を診療した。前年度に比べ初診、紹介数が増加した。既存外来患者総数の減少には、進行期の神経変性疾患が外来通院不可能となった数も含まれる。

3．学術、教育活動

第 59 回日本神経学会学術大会において発表した。また、日本神経学会準教育施設として、コンサルテーションを通じて初期研修医の診療指導を随時行なった。

4．次年度へ向けて

総合病院の神経内科であり、神経疾患だけでなく他科疾患に伴う神経障害を含む全般的診療が必要とされる。現在の体制で、可能な限り高い専門性を維持するように努力する。

［文責：星野幸子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
星野　幸子	神経内科診療医長	常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010170	基底核等の変性疾患	6	65.2
010069	脳卒中の続発症	4	26.0
010160	パーキンソン病	4	41.0
040081	誤嚥性肺炎	3	90.3
010060	脳梗塞	2	103.5
010230	てんかん	2	66.0
010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	1	222.0
01021x	認知症	1	85.0
040080	肺炎等	1	58.0
080250	褥瘡潰瘍	1	100

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
380	344	396	341	414	312	343	352	333	330	338	267	4,150

代　謝　内　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

病棟診療は常勤医が１名増員となり計４名となったため､入院患者数は倍増した。糖尿病教育､血糖コントロール入院、高血糖性緊急症、シックデイ等の入院に対応したが、内分泌疾患の入院が少なかった。病棟で他科からのコンサルテーションにより併診にて糖尿病の血糖コントロール等を行う患者数は年間 280 ～ 290 人を超え（書面ではなく口頭でコンサルテーションをうける場合もあるので実際はもっと多い)、入院中の他科患者の糖尿病管理に寄与し、退院後の逆紹介を行った。

外来診療は、人員の増加による外来枠の増加もあり、患者数は年間約 1,000 人増加した。また自宅で 24 時間持続血糖測定検査を施行する CGM 外来は、自己血糖測定の不要な簡便な機器を導入したことにより、受診件数が伸びた。さらに１型糖尿病患者を中心に血液穿刺不要な血糖測定機器（FGM）を導入し、より簡便で精密な血糖コントロールが可能となり患者の ADL に貢献した。

教育・研究は、初期研修医を毎月定期的に受け入れ、合計 10 名を担当した。代謝内分泌疾患の診断や治療のための基礎知識、検査および実際の治療技術の指導を行なった。学会発表２件、研究会発表３件行なった。

2．2019 年度の課題・目標

①４月より常勤医１名減員し、計３名に戻る予定である。また外来枠も減少するため入院患者数、外来患者数の減少が予想されるが、病診連携による糖尿病教育入院や血糖コントロール入院、内分泌検査入院等を積極的に受け入れたい。

②初期研修医および後期研修医の指導を行い、臨床研修の一環に尽力する。また臨床研究および研究業績の発表に今後も努める。

［文責：藤田利枝］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
藤田　利枝	代謝内科診療部長	常(HP)
藤原　　淳	代謝内科診療医長	常(HP)
片山　暁子		常(HP)
松田えりか		常(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック)】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,167	1,106	1,128	1,111	1,274	1,138	1,221	1,113	1,176	1,212	1,174	1,245	14,065

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
100070	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	45	13.8
040081	誤嚥性肺炎	16	22.3
100071	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）	9	17.3
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	6	18.2
110310	腎臓または尿路の感染症	6	15.3
060380	ウイルス性腸炎	5	5.2
100060	１型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	5	8.6
040080	肺炎等	4	13.3
100210	低血糖症	4	17.5
100391	低カリウム血症	4	10.8
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	3	7.7
100080	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	3	22.7
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	3	13.7
010061	一過性脳虚血発作	2	2.0
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	2	5.0
060190	虚血性腸炎	2	9.5
080010	膿皮症	2	35.5
100140	甲状腺機能亢進症	2	12.5
100380	体液量減少症	2	4.5
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	2	9.0
11012x	上部尿路疾患	2	10.5
11013x	下部尿路疾患	2	4.5
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	2	8.0
110290	急性腎不全	2	2.5
170020	精神作用物質使用による精神および行動の障害	2	1.0
180010	敗血症	2	82.0
010030	未破裂脳動脈瘤	1	21.0
010160	パーキンソン病	1	16.0
01021x	認知症	1	18.0
010230	てんかん	1	4.0
030390	顔面神経障害	1	14.0
030400	前庭機能障害	1	1.0
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	1	13.0
050070	頻脈性不整脈	1	38.0
050200	循環器疾患（その他）	1	3
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	1	2
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	1	16
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	1	18
060570	その他の消化管の障害	1	1
070330	脊椎感染（感染を含む。）	1	15
070470	関節リウマチ	1	8
070510	痛風、関節の障害（その他）	1	7
070560	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	1	15
080250	褥瘡潰瘍	1	6
100100	糖尿病足病変	1	57
100160	甲状腺機能低下症	1	28
100285	ＡＤＨ分泌異常症	1	5
100392	カルシウム代謝障害	1	11
120070	卵巣の良性腫瘍	1	7
130030	非ホジキンリンパ腫	1	11
130070	白血球疾患（その他）	1	2
130100	播種性血管内凝固症候群	1	6
160200	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	1	10
161020	体温異常	1	2

呼　吸　器　内　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

呼吸器内科は、2015 年 4 月から入院診療を開始し、2018 年度で 4 年目となった。肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、間質性肺炎などの入院・外来診療を行った。石川宏明医師、大塚茂男医師、渡邉裕子医師、大塚盛男の 4 名が常勤医師として、病院・クリニックの診療に従事し、松野洋輔医師が筑波大学呼吸器内科からの非常勤医師としてクリニックの診療に従事した。常勤医師数が 1 名減少したが、クリニックの外来診療は昨年度と同様週 4 日で行った。新入院患者数は年間 314 名（転科した患者を含む）で、昨年度に比べ 11 名の減少に留まった。一般病床と療養病床を合わせた入院延べ患者数は年間 6,431 名で、昨年度より 2,337 名減少した。病院・クリニックの外来受診者数は年間 5,311 名で、昨年度より 463 名減少した。

気管支内視鏡検査は 22 件実施したが、局所麻酔下胸腔鏡検査は 0 件であった。

2．2019 年度の課題・目標

2018 年度は常勤医師が 1 名減少したが、入院患者数は 11 名の減少に留まった。肺炎の患者数は全体の約 30% と昨年度より約 10% 減少した。これは、誤嚥性肺炎等の高齢者肺炎を他科でも診療して頂いたためと考えられる。慢性閉塞性肺疾患や気管支喘息は、昨年度と同程度であったが、肺癌が肺炎に次ぐ数となり、間質性肺炎が昨年度の約 2 倍に増加した。間質性肺炎の診療には、ステロイド薬等の使用や呼吸管理等の高度な専門的知識を要することが多いことや長期の入院を要することが多いため、担当医師の負担は大きいと考えられる。

2019 年度も常勤医師数は昨年度と同じであり、入院患者数の増加は困難な状況である。肺癌や間質性肺炎等の専門的医療を要する疾患が増加してきており、これらの疾患に対する医療の質の向上が重要となる。また、より高度な医療を要する場合は、筑波大学附属病院等の呼吸器内科と連携して行う必要がある。

［文責：大塚盛男］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
大塚　盛男	呼吸器センター長	常(HP)
渡邉　裕子		常(HP)
石川　宏明		常(HP)
大塚　茂男		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	59	14
040081	誤嚥性肺炎	46	24
040080	肺炎等	60	15
040110	間質性肺炎	43	25
040100	喘息	18	12
040120	慢性閉塞性肺疾患	13	17
110310	腎臓または尿路の感染症	10	13
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	3	25
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	3	28
040200	気胸	3	19

【外来件数】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
421	415	448	456	472	418	472	428	457	431	449	444	5,311

【入院件数】（転科した患者を含む）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
21	25	34	23	26	19	29	29	28	29	27	24	314

消　化　器　外　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

2018 年度は今まで当科で行われなかった下記手術が施行された。

＃1　食道癌に対する右開胸・開腹　食道亜全摘術

＃2　胃上部癌に対する噴門側胃切除術

＃3　早期胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術

＃4　膵腺管癌（いわゆる膵癌）に対する膵頭十二指腸切除、および膵体尾部切除

これらは 2019 年 4 月からの新体制へ向けて新しく着任した上田和光を中心に行われ、今後症例数の増加が見込まれる。

また、大腸疾患に対する腹腔鏡手術数も昨年に比べ増加し、今後は適応も拡大する方針である。現実に本稿執筆中の 2019 年 5 月現在、今まで行われなかった腹腔鏡下虫垂切除術が導入され、かつ大腸癌に対するファーストアプローチはほぼ全て腹腔鏡手術へ変わりつつある。

研修医やレジデントに対する教育･指導も近年になく充実した。特に芝田は本来心臓血管外科が専門であるが、日本外科学会の専門医を取得する目的で当科にレジデントとして 4 月に赴任し、消化管手術をはじめ、肝左葉切除や膵頭十二指腸切除の術者も上田の指導の下、全うすることができた。専門医試験も無事合格したことは言うまでもない。また、外科専攻医を目指す研修医に対しても体表･ヘルニア手術の術者としての指導も行った。

2．2019 年度の目標

2019 年度からは新体制となり、消化管疾患に対しては基本的に腹腔鏡手術でのアプローチを検討している。肝胆膵悪性疾患の手術件数の増加を目指す。

また､今までは積極的でなかった学会活動も活発に行い(既に 2019 年 7 月までに 2 件の発表が予定されている)、当科の蓄積したデーターを基に新たな知見を探索する予定である。

［文責：上田和光］

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	88	11.5
060150	虫垂炎	65	10.6
060160	鼠径ヘルニア	63	6.8
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	62	18.5
060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	61	14.1
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	57	12.5
060020	胃の悪性腫瘍	38	16.6
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	19	11.5
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	19	16.7
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	12	14.5
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	12	26.1

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
齋藤　　節	大腸外科センター長	常(HP)
坂本　俊樹	副院長	常(HP)
松井　　聡	消化器外科診療部長・副医局長	常(HP)
上田　和光	肝胆膵センター長	常(HP)
佐々木量矢	消化器外科診療医長	常(HP)
芝田　匡史		常(HP)
小田　竜也		非(HP)

【手術件数】

臓　　器	疾　患　名	術　　式	手術件数	症例数
食道	食道癌	右開胸・開腹、食道亜全摘、後縦隔再建	2	2
胃	胃癌	胃全摘（腹腔鏡／開腹）	6（1/5）	
		幽門側胃切除（腹腔鏡／開腹）	15（3/12）	
		噴門側胃切除（腹腔鏡／開腹）	4（1/ 3）	
胃癌　小計（腹腔鏡）			25（5）	25
	その他		7	7
小計（腹腔鏡）			32（5）	32
十二指腸	潰瘍穿孔	穿孔部閉鎖	1	1
小腸	イレウス	癒着剥離、小腸切除 etc（腹腔鏡手術）	17（1）	
	その他	小腸部分切除	1	
小計（腹腔鏡）			21（1）	21
結腸	結腸癌（腹腔鏡）		28（13）	28
	結腸その他（腹腔鏡）		11（2）	11
小計（腹腔鏡）			39（15）	39
直腸・肛門	直腸癌	高位／低位／マイルズ切除（腹腔鏡）	13（4）	13
	その他	経肛門的切除	14	14
小計（腹腔鏡）			27（4）	27
虫垂	虫垂炎	虫垂切除		
虫垂　小計			45	45
肝臓	肝悪性腫瘍	試験開腹／肝左葉切除／部分切除	3	
	肝良性腫瘍	肝左葉切除	1	
	巨大肝嚢胞	腹腔鏡下開窓術	1	
肝臓　小計			5	5
胆嚢・胆管	胆石症、ポリープ、腺筋症	胆嚢摘除（腹腔鏡／開腹）	85（44/41）	
	総胆管結石症	開腹、総胆管切開・切石術	10	
	その他		6（1）	
胆道　小計（腹腔鏡）			101（45）	98
膵臓	膵癌（頭部／体尾部）	膵頭十二指腸切除／膵体尾部切除	1/2	
膵臓　小計			3	3
ヘルニア			83	78
その他			14	13
消化器外科　計（腹腔鏡）			373（26）	364

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
740	805	833	862	864	739	879	821	799	747	742	827	9,658

呼　吸　器　外　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

①2018年度の筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせた外来患者総数は4,716人で、前年度の4,676人と比較しほぼ横ばいであった。

②入院患者数は227人で、こちらも昨年度（229人）と横ばいであった。
平均在院日数は14.2日で、昨年度より2.1日延長した。

③入院手術件数は82件で、昨年度（74件）より増加した。

④診断目的の気管支鏡検査件数は35件で、昨年度（41件）と比較して減少した。
しかし処置目的での気管支鏡は例年より多かった。

⑤学術活動としては地方会での発表3例と、神山医師が市民セミナーでの講演を行った。

2．次年度目標

2018 年度は、この数年続いていた外来患者数の減少に歯止めを打つことができ、取りあえずは安堵している。しかしながら現状維持に満足することなく、次年度も地域医療に少しでも貢献できるよう迅速かつ丁寧な診療を継続して行きたい。

［文責：木村正樹］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
木村　正樹	呼吸器外科診療部長	常(HP)
神山　幸一	副院長・地域連携患者サポートセンター長	常(HP)
中岡浩二郎		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
胸腔鏡下肺切除術	17
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	11
リンパ節摘出術	9
皮膚、皮下腫瘍摘出術	8
四肢血管のその他の手術	7
肺悪性腫瘍手術	6
縦隔腫瘍摘出術	6
乳腺腫瘍摘出術	4
乳腺悪性腫瘍手術	3
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術	1
肺切除術	1
その他の手術	9
総計	82

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	112	12
040200	気胸	29	11
040080	肺炎等	8	19
040120	慢性閉塞性肺疾患	7	28
090010	乳房の悪性腫瘍	7	10
040110	間質性肺炎	6	20
160450	肺・胸部気管・気管支損傷	6	17
040020	縦隔の良性腫瘍	5	16
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	5	15
090020	乳房の良性腫瘍	4	2
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	4	2
040030	呼吸器系の良性腫瘍	3	8

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
359	379	433	395	403	434	361	373	479	362	330	408	4,716

心　臓　血　管　外　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2018年度の手術患者数は昨年と同様、茨城県内トップクラスを維持している。

②無駄のない正確かつスピーディーな低侵襲手術および最先端の心筋保護法の導入、INVOS、術中リアルタイム三次元経食道エコーの導入、心臓血管外科コーディネーターの導入、心臓リハビリテーションの積極的介入など様々な新しい取り組みを行っている。また、手術の低侵襲化に関しても積極的に取り組んでおり、患者の年齢、状態に応じた、ベストな治療を選択するようにしている。

③左心耳マネジメントを中心とした、ブレインハートチームを結成。心原性脳梗塞に対するチーム医療を行っている。

④学会活動としては全国学会をはじめ多くの学会にて報告、発表を行っている。

⑤論文執筆では、3編の論文が掲載された。学術活動を含めた、修練医および学生の指導を積極的に行っている。

2．2019 年度の課題・目標

循環器内科とともに北関東の心臓血管外科治療の拠点として地域の患者様に貢献していけるように診療を継続していく。右小開胸僧帽弁手術をはじめとした低侵襲手術にも積極的に取り組んでいく。

［文責：吉本明浩］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
末松　義弘	統括診療部長	常(HP)
森住　誠	心臓血管外科診療部長・集中治療部科長	常(HP)
吉本　明浩	心臓血管外科診療医長	常(HP)
西　智史		常(HP)
清水　隆玄		常(HP)
有馬　大輔		常(HP)
寺川　勝也		非(HP)
李　洋伸		非(HP)
藤原　彩織		非(HP)
大塚　俊哉		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
下肢静脈瘤手術	108
胸腔鏡下左心耳切除術	60
ステントグラフト内挿術	55
大動脈瘤切除術	37
冠動脈、大動脈バイパス移植術	29
弁置換・形成術	21
血管移植、バイパス移植術	16
四肢血管のその他の手術	12
動脈塞栓・血栓摘出術	6
血管塞栓術	4
ペースメーカー移植術・交換術	4
開胸手術その他	3
その他の手術	13
総計	368

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050180	静脈・リンパ管疾患	98	3.2
050070	頻脈性不整脈	60	7.4
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	58	14.0
050161	解離性大動脈瘤	57	20.4
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	51	11.1
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む。）	42	12.0
030250	睡眠時無呼吸	36	2.1
050130	心不全	20	10.8
050170	閉塞性動脈疾患	17	16.7
050162	破裂性大動脈瘤	13	19.7

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
492	499	503	539	541	515	584	518	527	481	453	502	6,154

脳　神　経　外　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

2015年4月に新体制となって以来、2018年で4年目となる。手術件数は2018年度に139件で、2015年度と同等の水準となった。2017年度には179件まで手術件数が増加し、年間新入院患者数は600人を超え、常時70-80人程度の入院患者や急患の対応などで、実際に手術業務に支障が出始めていたので、現在の院内診療体制では年間150件程度の手術件数が適当と考えている。脳血管内手術は年々増加しており、2018年度は23件であった。中村と谷中が脳卒中の外科学会技術指導医に認定され、脳動脈瘤クリッピングやバイパス手術、頚動脈内膜剥離手術などの指導体制は万全である。全国レベルの学会発表や論文作成もコンスタントに行っている。

2．2019 年度の課題・目標

当院を受診・搬送される脳卒中患者については、急性期や回復期を問わず、ほとんど全例のフォローアップを行っている。今後も同様の対応を継続していきたい。2 名の脳卒中の外科学会認定技術指導医と 1 名の脳神経血管内治療学会専門医、さらには筑波大学脳卒中科のサポートにより、脳血管障害の手術、血管内治療についてはかなり高いレベルの治療が行えており、脳血管障害については治療のための転送はない。さらにリハビリテーション科や循環器内科、心臓血管外科の協力により、二次予防や回復期リハビリテーションを含む自己完結型の治療が行えており、後期研修医や脳神経外科専門医にとっても重要な研修施設となっている。現状を維持していきたい。

［文責：中村和弘］

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010060	脳梗塞	184	24.2
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	47	29.1
010030	未破裂脳動脈瘤	45	10.3
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	37	18.3
010230	てんかん	26	9.2
010010	脳腫瘍	17	27.0
010070	脳血管障害	17	25.4
010050	非外傷性硬膜下血腫	16	14.3
030400	前庭機能障害	13	3.3
010200	水頭症	12	57.7

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
谷中　清之	脳卒中センター長	常(HP)
中村　和弘	脳神経外科診療部長	常(HP)
小沼　邦之		常(HP)
成島　　毅		常(HP)
山野　晃生		常(HP)
鯨岡　裕司		非(HP)
佐藤　允之		非(HP)
松丸　祐司		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）6cm ～ 12cm	1
分層植皮術（100 以上 200 未満）	1
全層植皮術(25以上 100未満)	2
皮弁作成術（25 未満）	1
皮弁作成術（25 以上 100 未満）	1
皮弁作成術（100 以上）	1
筋膜移植術（その他）	2
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術　椎弓形成	1
穿頭脳室ドレナージ術	6
脳膿瘍排膿術	1
頭蓋内微小血管減圧術	3
頭蓋骨腫瘍摘出術	1
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの）硬膜下のもの	1
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの）脳内のもの	1
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	37
頭蓋内腫瘤摘出術	1
頭蓋内腫瘍摘出術（その他のもの）	10
水頭症手術　脳室穿破術(神経内視鏡手術によるもの)	1
水頭症手術　シャント手術	8
髄液シャント抜去術	1
脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭して行うもの）（１箇所）	1
脳動脈瘤頸部クリッピング（１箇所）	23
脳動脈瘤頸部クリッピング（２箇所以上）	3
脳血管内手術（１箇所）	6
脳血管内手術（２箇所以上）	1
脳血管内手術（脳血管内ステントをもちいるもの）	2
経皮的脳血栓回収術	8
頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみのもの）	2
頭蓋骨形成手術（硬膜形成を伴うもの）	1
脊髄ドレナージ術	3
脊髄腫瘍摘出術（髄内）	1
動脈血栓内膜摘出術（内頸動脈）	10
経皮的頸動脈ステント留置術	3
動脈形成術、吻合術（頭蓋内動脈）	1
動脈形成術、吻合術（その他の動脈）	1
脳新生血管造成術	1
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（止血術）	1
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈下顎塞栓術）	1
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（その他のもの）	1
総計	151

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,487	1,512	1,491	1,486	1,543	1,290	1,576	1,320	1,450	1,439	1,354	1,457	17,405

整　形　外　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

飲酒規制・罰則の強化による交通事故の減少、骨粗鬆症治療の進歩は、交通事故による骨折・脱臼、高齢者の大腿骨頚部骨折を明らかに減少させた。これにより外傷に対する手術は減少したが、紹介を含めた筑波総合クリニックからの待機手術は年々増加している。ここ10年の変化に対応できた当科は、1年を通して安定した手術件数を維持できる状態になっている。

新入院患者数は2017年度と比較して増加し、在院日数が長くなる感染症例の紹介が増えたにも関わらず、平均在院日数は19.9日と昨年同様に20日未満を維持した。

筑波総合クリニックの外来は 2015 年度から予約制としたが、2018 年度も外来患者数は減少しなかった。医師 1 人あたり 8 人／日の新患枠を設け、夜間･休日に救急外来を受診された患者･紹介患者･他科からのコンサルテーション患者に加えて、かかりつけで急性発症の患者は予約外でも受診できるように対応しているためと考える。

手術に関しては、これまで同様に筑波大学整形外科の三島准教授（股関節）・金森講師（膝関節）が週に2、3日非常勤医師として外来及び手術に来てくださり、関節を専門とする長谷川医師・菊池医師が常勤として勤務していたこともあり、人工股関節全置換術（人工骨頭置換術を含む）が187件/年（昨年度153件）・人工膝関節全置換術が131件／年（昨年度108件）・膝関節の鏡視下手術が95件／年（昨年度95件）と、引き続き県内トップレベルの件数を達成した。脊椎手術も、相野谷・箱岩医師に加えて脊椎外科医を志す角南医師が赴任したことで、県内の他施設では行われていない脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、手術件数が142件／年（昨年度138件）と増加した。

また、上肢を専門とする淺川医師が赴任してことで、これまで他院に紹介していた上肢の症例を当院で治療することが可能となった。

2．2019 年度の課題・目標

筑波総合クリニックからの待機手術・外傷等の緊急手術は毎月安定して行えているが、回復期及び療養病棟30床を維持し、平均在院日数を20日未満に抑えた上で、急性期病棟52床の利用率を90%以上で維持するのはなかなか大変である。今年度も回復期及び療養病棟30床を維持し、急性期病棟52床の平均利用率を85%以上（できれば90%以上）で維持できるように努力する。

外傷全般は減少しているものの、基本的に保存的治療を選択し、入院が長期化する高齢者の脊椎椎体骨折・化膿性脊椎炎の患者数は相変わらず多く、肺炎・尿路感染・心不全等の合併症に悩まされることが多々ある。当科の医師・病棟スタッフが疲弊して病棟運営が悪化しないよう、当科的に対応しきれない状態の患者を内科が主科となって診てくださる状態を期待したい。

関節の手術は、今年度同様に県内トップレベルの件数を維持する。

脊椎に関しては、脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、手術件数を増やすことができた。角南医師のような脊椎外科医を志す若手の医師が今後も赴任してくれる見通しなので、今年度も同水準の手術件数を維持したいと考える。

筑波総合クリニックの外来は1日に診ることができる患者数の限界に達している曜日もあるが、当院の未来を考慮すると当院から2km圏内で、転居されてきた若年・中年層が多い研究学園地区の住人が当院のかかりつけになってくださるよう対応を考えていきたい。

［文責：相野谷武士］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
相野谷武士	整形外科診療部長	常(HP)
箱岩　篤生	整形外科診療科長	常(HP)
菊池　直哉		常(HP)
長谷川隆司		常(HP)
淺川　俊輔		常(HP)
藤田　　開		常(HP)
角南　貴大		常(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
人工股関節置換術（人工骨頭挿入術を含む）	187
脊椎（頚椎、胸椎、腰椎）手術	142
四肢骨折接合術	134
人工膝関節置換術	131
抜釘術等	88
靱帯断裂形成手術	52
四肢骨のその他の手術	48
関節鏡下半月板切除術	43
筋・健の手術	38
関節内骨折手術	30
四肢骨非観血的手術	27
関節滑膜切除術	23
脱臼非観血的整復術	23
筋・健のその他の手術	12
その他の手術	52
総計	1,030

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	158	23.8
070230	膝関節症（変形性を含む。）	151	23.6
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）	99	10.6
160800	股関節・大腿近位の骨折	81	23.5
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	56	18.8
070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　腰部骨盤、不安定椎	54	26.7
070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　頸部	29	22.5
070350	椎間板変性、ヘルニア	23	17.5
160760	前腕の骨折	21	8.5
160820	膝関節周辺の骨折・脱臼	18	24.8

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,460	2,480	2,695	2,627	2,813	2,309	2,658	2,520	2,616	2,579	2,456	2,652	30,865

形　成　外　科

【総括】

2019 年度の課題・目標

2018 年度より常勤医 1 名を置く体制となり、外来患者数・入院患者数とも著明に増加することとなった。今年度はさらに近隣医療機関との連携を深め、紹介患者数の増加、入院手術件数の増加を目指す。

また、院内他科との連携強化を図り、難治性潰瘍や術後の創トラブルにも積極的な介入を行い、早期の創閉鎖・在院日数の短縮を目指す。

［文責：伊藤　謹民］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
大岩　宏維		常(HP)
内田　彰子		常(HP)
大島　純弥		非(HP)
畑　寿太郎		非(HP)
井田夕紀子		非(HP)
佐々木正浩		非(HP)
沢田　　歩		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術	40
軟部腫瘍摘出術	17
植皮術	8
皮弁形成術	3
眼瞼結膜腫瘍手術	3
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術	2
陥入爪手術	1
リンパ節摘出術	1
神経腫切除術	1
断端形成術	1
その他の手術	5
総計	82

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
070010	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	33	3.4
020230	眼瞼下垂	12	3.3
160660	皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	7	13.0
080010	膿皮症	6	17.5
100100	糖尿病足病変	5	30.4
180060	その他の新生物	5	3.8
080007	皮膚の良性新生物	4	4.5
160200	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	4	3.0
030400	前庭機能障害	2	1.5
070071	骨髄炎（上肢以外）	2	59.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
266	271	358	379	373	379	393	370	399	291	335	426	4,240

婦　人　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

1）クリニック外来に関して

人員・外来枠については 2017 年度の体制と変更はなく、外来患者数もほぼ同数であったので無茶をせずに対応可能な人数としては、このあたりがプラトーということなのかもしれない。

予約なしで当日来院した方、予約可能日より早く受診したいと電話連絡してきた方に対しては従来どおりトリアージを施行している。予約が入っているにも関わらず受診しなかった方については、病状から受診が必要と思われる方と高齢者については極力電話連絡して、本人都合での予約外及び時間外受診を避けるべく再予約のアレンジを行う体制も継続している。

2）手術件数に関して

手術数の比較だけで言えば、前年比 150% の増加となったが、前年度の手術数自体が例年よりやや少なめだったため、例年との比較という意味で言えば 120 ～ 130%増という印象である。

当科では腹腔鏡手術及び悪性腫瘍手術は施行していないが、それ以外の術式については、比較的満遍なく施行できている印象で、術者・スタッフのトレーニングという意味では望ましい状況と思う。

2．2019 年度の課題・目標

外来診療については、数ももちろん大事な指標ではあるが、数だけを増やすことには限界があるため、待ち時間の短縮や受診された方の満足感などの質的な部分の向上を引き続き目指したい。

また手術数については、従前どおり、まずは個々の症例の適応ありきで、人為的に増やすものではないと考えるが、術者・スタッフのスキルアップの意味でも年間 100 件超のペースが維持できればと考えている

［文責：佐藤有希］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
佐藤　有希	婦人科診療部長	常(HP)
小關　剛	副院長	常(HP)
秋山　梓		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
子宮全摘術	36
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）開腹によるもの	32
子宮頚部（腟部）切除術	21
子宮筋腫核出術	5
子宮脱手術（腟壁形成手術及び腟式子宮全摘術）	4
子宮脱手術（腟閉鎖術）	5
その他の手術	5
総計	108

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
120060	子宮の良性腫瘍	40	7.8
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	21	2.0
120070	卵巣の良性腫瘍	14	9.1
120090	生殖器脱出症	9	8.3
120100	子宮内膜症	5	7.8
120110	子宮・子宮附属器の炎症性疾患	4	7.8
120120	卵巣・卵管・広間膜の非炎症性疾患	2	5.5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
785	788	925	825	730	824	893	807	832	719	746	873	9,747

眼　　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

①クリニック外来に関して

外来総患者数は昨年度と比較し、やや減少傾向であった。昨年の猛暑の影響により、夏から秋にかけての患者数が例年と比較し減少した。

一方、近隣の先生方から診療科に関わらず数多くの患者をご紹介いただいている。他院で治療に難渋している症例をご紹介いただくこともあり、引き続き地域の皆様からの信頼に応える医療を行っていきたいと考えている。

②手術に関して

総手術件数は増加している。小児の斜視手術件数がさらに大幅に増加し、麻酔科との連携のもと１日の手術件数も４件から５件コンスタントに行うことができている。

白内障手術に関しては、猛暑の影響により外来患者数の減少と手術予定患者の体調不良によるキャンセルが相次ぎ例年より減少している。

2．2019 年度の課題・目標

臨床では、中長期計画に掲げている白内障手術の多焦点眼内レンズの導入に向けて最終調整を行う。また、多様化する眼内レンズも導入していく。

斜視研究に於いては、放射線科との連携をもとに 3DMRI での強度近視に伴う斜視患者の外眼筋の評価を引き続き行っていく予定である。

［文責：長井恭子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
森田　由香	眼科診療科長	常(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
水晶体再建術	220
斜視手術	210
眼瞼下垂症手術	31
眼瞼内反症手術	9
翼状片手術	5
その他の手術	14
総計	489

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
020150	斜視（外傷性・癒着性を除く。）	136	2.0
020110	白内障、水晶体の疾患	102	4.2
020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	10	3.5
020230	眼瞼下垂	4	2.5
020250	結膜の障害	3	3.0
020290	涙器の疾患	2	10.5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,175	1,168	1,281	1,250	961	1,099	1,232	1,132	1,045	1,082	970	1,156	13,551

耳　鼻　咽　喉　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

①病棟診療

2018年度の入院患者数（転科加療を含む）は273例、入院手術症例は75例であった。2017年度はそれぞれ266例、81例であったので入院患者数は2.6％増加、入院手術症例は7.4％減少である。

これらの平均在院日数は6.5日であり、前年度の6.4日とほぼ同じであった。

②外来診療

筑波総合クリニック・筑波記念病院合わせての外来患者数は13,465例と前年度の12,825例と比して約5％の増加であった。年々増え続ける外来症例数を2名の常勤医で診察しており、外来待ち時間が長くなるなどの弊害が生じてきている。今後は経過の落ち着いた症例を積極的に地域開業医へ逆紹介し、総合病院としての役割を果たしたいと考えている。

外来手術症例数は114例（前年度106例）であり7.5％の増加であった。

2．2019 年度の課題・目標

入院症例数は微増しているのにもかかわらず入院手術症例が減少しており、神経耳科疾患（末梢性めまい・末梢性顔面神経麻痺・突発性難聴など）や急性咽頭喉頭疾患などが入院の大半を占めている状態である。2019 年度は入院手術症例数を 100 例以上に戻したい。外来患者数については現在の人員で診療クオリティを確保した上での増患は難しいため、現状維持を目標としたい。

2018 年度の紹介患者数は 490 例であり昨年の 491 例とほぼ同等であった。今後も地域の医療機関との連携を大切にして、紹介症例に真摯に向き合うように心掛けていきたい。

［文責：及川慶子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
及川　慶子	耳鼻咽喉科診療科長	常(HP)
中森　暁子		常(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
口蓋扁桃手術	37
扁桃周囲膿瘍切開術	13
喉頭・声帯ポリープ切除術	11
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	6
鼻腔粘膜焼灼術	6
リンパ節摘出術	4
その他の手術	19
総計	96

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
030400	前庭機能障害	68	5.1
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	61	6.3
030390	顔面神経障害	29	7.5
030428	突発性難聴	13	7.8
030300	声帯の疾患（その他）	11	4.5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,182	1,237	1,196	1,125	1,137	969	1,255	1,115	1,045	1,017	997	1,190	13,465

皮　膚　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

- 2018年度も常勤医1名、非常勤医2名の体制で筑波総合クリニックにおける5,265件の外来診療（一般皮膚科診療、外来手術、皮膚生検、多汗症に対するボトックス注射など）をおこなった。クリニックでの外来手術が難しい9件は病院手術室で手術を実施した。
- 筑波記念病院内の美容皮膚科外来において、IPL光治療や表情じわに対するボトックス注射など、100件を超える施術を自由診療でおこなった。
- 筑波記念病院に設置された褥瘡対策委員会のメンバーとともに、病院全棟の入院患者の褥瘡リスク評価、予防および治療をおこなった。
- おもに入院患者の皮膚トラブルについて、他科から約500件のコンサルテーションを受けた。

2．2019 年度の課題と目標

- クリニック外来の診療レベルをこれまで通りに維持しながら、予約患者だけでなく当日受付患者の外来診療待ち時間の短縮につとめる。
- 美容皮膚科外来に関する情報発信を再開して診療件数増加を目指す。
- 入院患者の褥瘡発症予防につとめ、最近数年間で改善した褥瘡発生率と有病率をさらに改善することを目指す。
- 皮膚科コンサルテーションに速やかに対応できる体制を維持する。

［文責：照沼　篤］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
照沼　篤	皮膚科診療部長	常(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術	6
皮膚悪性腫瘍切除術	3
総計	9

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
449	383	487	478	551	415	460	435	390	422	376	419	5,265

小　児　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

2018 年度における小児科外来患者数は年度合計 10,678 件、月平均 890 件であり、少子高齢化の状況下で小児人口の低下、感染症の減少などの疾病構造の変化の時代にあっては、それなりに評価できる実績であったと考える。大きな要素としては、小児外来リハビリ体制の充実、宮本信也医師による「小児発達外来」の開設などによる、発達に問題を抱える子どもたちの受診数の増加が挙げられる。

2．2019 年度の課題と目標

上記のような状況を踏まえ、新しい年度においても、発達関連の診療についてのさらなる内容充実、および当院における発達関連の診療実績を基に、小児科関連会議などで当院の診療体制の広報を続け、受け入れ患者の増加をはかっていく。また、一般の小児外来疾患診療や予防接種などの基本的小児医療の拡充にも引き続き力を注いでいく。

［文責：右田琢生］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
右田　琢生	副院長・小児科診療部長	常(HP)
岩松　雅子	小児科診療医長	常(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
813	827	896	959	982	875	982	913	890	824	767	950	10,678

精　神　科

【総括】

精神科は、昨年度に大きな変化があり、従来の精神科リハビリテーション部門の廃止に加え、平成29年７月より常勤の山里医師が退職して週１日勤務の非常勤となり、常勤医師は沼倉医師１名となり、診療体制は以前の半分に縮小しての１年間であった。このため、外来診療での再来患者の大幅な減少となり、再来患者数は２年前の半分近くになっている。

現在の診療体制は、常勤の沼倉医師が、病院外来で、月曜～水曜、金曜・隔週土曜の午前を再来患者担当。月曜午後は、紹介状を持参の初診患者を担当し診療しており、非常勤の山里医師は、毎週木曜日の午前・午後に再来・新患を担当。また、非常勤の佐藤医師が、月１～２回、土曜日の午前のみの診療となっている。筑波総合クリニックでは、沼倉医師が火曜日と金曜日の午後、隔週水曜日の午後に紹介状のない初診患者の診療に当たっている。

業務実績としては、病院の初診・紹介患者数は、それぞれ66名、92名と前年度に比べ2名増、5名増と微増、再来患者数は延べ4,277名と前年度に比べ34名減の微減であった。

筑波総合クリニックの初診患者数は、92名と前年度に比べ43名減の大幅減少であり、これは、研究学園駅近くに出来た、研究学園心療内科の開業による影響が考えられる。

他科からの依頼による精神科コンサルテーションの数は、60件と前年度に比べ８件の減少であった。常勤医師が１名となったことが関係していると思われる。

教育・研究では、本年度は臨床研修医の精神科研修を希望する者はいなかった。５年前から継続している、精神科診断マニュアルであるDSM-5の輪読会を、沼倉医師が中心となり、他科医師２名、臨床心理士１名で週１～２回行っている。学会発表、講演会の講演は、非常勤の山里医師が、別紙の通り行っている。

2018年度の目標として、筑波総合クリニックの紹介状のない初診患者数の増加、病院の初診・再診患者の１～２割の増加をあげたが、結果は目標達成には至らず、また、以前からの当科の目標として挙げている、チーム医療の構築と総合病院の無床精神科としての役割の発展も、他の部門との協力関係は依然広まっていない。訪問看護との協力はなく、臨床心理士は２名いるが、主に筑波総合クリニックの物忘れ診療外来での認知症の知能検査に従事しており、精神科との協力は余りない。精神保健福祉士の資格を持つケースワーカーとの連携もほとんどない。2019年度の目標としては、初診・再診の患者数の増加を目指したいが、水曜日午前の病院外来で使用している診察室の利用問題があり、容易ではない。当科は、初診患者の予約受付からの診察までの待ち日数は長くて１～２週間であり、他の公的精神科医療機関での２～３ヶ月待ちに比べ、大幅に短い。また待合室での時間も比較的短い。これは今後も維持して行きたい。

［文責：沼倉泰二］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
沼倉　泰二		常(HP)
山里　道彦		非(HP)
佐藤　晋爾		非(HP)

【外来患者数（筑波記念病院）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	11	10	12	3	3	2	2	6	3	3	6	5	66
紹介	11	11	14	10	5	8	3	9	4	2	9	6	92
再診	554	330	323	350	372	342	333	377	330	312	324	330	4,277

【外来患者数（筑波総合クリニック：沼倉医師　紹介状不要】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新患	6	11	5	10	4	8	9	8	5	10	10	6	92

【精神科コンサルテーション（他科依頼）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神科コンサルト	4	5	1	3	11	6	7	6	5	3	2	7	60

麻　酔　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

①2018年度までは常勤医３名と、非常勤医3名、筑波大学からの非常勤で手術麻酔を行ってきた。10月からオンコール担当医の負担軽減目的に、非常勤医を変更した。引き続き24時間、緊急手術に対応できるよう毎日オンコール体制をとっている。

②入院診療

麻酔管理：心臓外科手術をはじめとしたすべての全身麻酔管理と、一部の局所麻酔管理を行っている。前年度より全手術件数で 139件、全身麻酔件数で129件増加した（詳細は別項参照）。

集中治療管理：集中治療室の管理運営に貢献している。

緩和ケアチームの回診に、9月から1名参加するようになった。

③術後鎮痛

硬膜外麻酔、末梢神経ブロック、自己調節鎮痛法などを用い、積極的に術後鎮痛を行っている。全身麻酔の危険性が高い患者では、末梢神経ブロックや脊髄くも膜下麻酔のみによる麻酔管理を行うこともある。

④外来診療

麻酔科術前外来：手術安全の向上を目的に、予定手術患者を対象に行っており、全身麻酔症例の27.8%であった（症例数は別項参照）。また高リスク患者のコンサルトも兼ねている。

ペインクリニック外来：入院中の患者と退院後の患者に限り、診察やブロック注射を行っている。

⑤自己評価

全ての麻酔科管理を安全に実施できた。麻酔科術前外来により術前管理を向上させ、手術室での安全で質の高い麻酔を提供することに貢献した。集中治療室の管理運営に貢献した。緩和ケアチームの回診参加を開始した。

2．2019 年度の課題と目標

①2019年度から常勤医が1名増員されたので、更に安全な麻酔を心がける。

②全身麻酔症例や重症症例が増加しており、手術周術期の安全性を再確認し、確実な麻酔管理を行う。

③よりよい術後鎮痛を提供できるよう様々な方法を追求する。

④緩和ケアチーム内での麻酔科としての有効な参加方法を探る。

⑤外来診療では、麻酔科術前外来の利用率の向上を図るとともに、各科の協力を得ながら効率の良い手術室運営を目指す。

⑥ペインクリニック外来の週1回の定期的な開設を目指す。

［文責：田島啓一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
田島　啓一	副院長・麻酔科診療部長	常(HP)
髙瀬　　肇	麻酔科診療科長	常(HP)
富田　絵美	麻酔科診療医長	常(HP)
箱岩　沙織		非(HP)
石丸美都彦		非(HP)
高橋　　宏		非(HP)
大曽根順平		非(HP)
渡邊　和宏		非(HP)
平本　芳行		非(HP)

【麻酔科外来件数 2018】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
39	44	49	42	46	29	46	44	34	52	40	42	507

【麻酔管理料件数 2018】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
100	98	118	82	104	78	116	100	114	136	139	123	1,308

【麻酔手技内訳（ＯＲ分)】

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
全身麻酔	2017 年度	145	119	145	136	161	139	139	142	130	138	155	147	1,696
	2018 年度	147	150	159	145	171	130	171	150	164	147	155	136	1,825
腰椎麻酔	2017 年度	4	5	3	3	3	5	0	0	1	1	2	0	27
	2018 年度	2	1	2	4	3	1	0	1	1	2	3	2	22
その他	2017 年度	30	35	36	43	25	32	36	45	24	42	29	30	407
	2018 年度	28	45	40	40	32	26	39	39	30	34	39	30	422
総手術件数	2017 年度	179	159	184	182	189	176	175	187	155	181	186	177	2,130
	2018 年度	177	196	201	189	206	157	210	190	195	183	197	168	2,269

放　射　線　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

2018 年度は常勤の放射線診断専門医 3 名、非常勤診断専門医 1 名、非常勤専攻医 1 名の体制で CT、MR、核医学、単純写真の読影診断業務と超音波および IVR（画像下治療）を行った。年間の CT、MRI および核医学検査の検査総数は 15,900 件であった。血管内・外の IVR は 37 件（うち時間外 5 件）、CT ガイド下生検は 4 件が行われた。専門医による年間の読影率は 98.8%、翌日までの読影レポート完成率は 95.4% と目標値を保つことができた。地域連携関連病院・医院の先生方からのご依頼による CT、MRI、超音波、核医学の検査数は、2017 年度 502 件、今年度は 505 件とほぼ同等であった。

初期研修医 5 名がそれぞれ 1 ～ 2 か月間の研修を行った。画像診断の基本である単純写真の読影、救急診療で頻度の高い疾患の CT、MRI の読影を中心に、各研修医の進路の希望に基づいて、超音波検査や造影検査の研修などを加えたプログラムで行った。

2．2019 年度の課題・目標

読影率、翌日までのレポート完成率は現状の 90% を越える率を保てるようにする。医療安全の見地から、読影レポートが依頼医により確認されているかどうかをチェックする体制を確立する。また、CT 検査時の造影剤使用、および被ばくを管理するチームを放射線部内に立ち上げ、技師とともに検査のプロトコールの見直しを行う。

教育、研修に関しては、初期研修医および院内医師を対象としての造影剤使用に関する勉強会を企画する。部署内での技師の教育（マンモグラフィ認定技師、超音波検査士の育成等）を引き続き行う。

［文責：鯨岡結賀］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
鯨岡　結賀	副院長・放射線科診療部長	常(HP)
髙橋　信幸	放射線科診療科長	常(HP)
岩田　　賢	放射線科診療医長	常(HP)
楊川　哲代		非(HP)
益岡　壮太		非(HP)
阿部　哲也		非(HP)
星合　壮大		非(HP)

【読影数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CT	924	921	925	966	940	838	1,040	977	1,006	1,011	910	966	11,424
MRI	336	361	341	349	348	290	366	343	341	350	312	364	4,101
RI	37	30	29	32	34	27	32	34	28	31	31	30	375
合計	1,297	1,312	1,295	1,347	1,322	1,155	1,438	1,354	1,375	1,392	1,253	1,360	15,900

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
専門医による読影率	99.2%	96.9%	98.4%	99.0%	98.6%	99.4%	99.4%	98.9%	98.8%	99.1%	99.5%	98.9%	98.80%
翌日までのレポート完成率	96.7%	95.4%	94.1%	94.7%	97.4%	96.8%	95.6%	94.2%	95.8%	95.8%	93.5%	95.3%	95.4%

【紹介検査数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	44	40	49	51	43	42	41	34	44	30	27	57	502
2018年度	25	40	53	41	45	46	53	41	48	45	26	42	505

病　理　診　断　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

2018 年度は筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせて病理組織診 3,953 件、細胞診 11,150 件、術中迅速組織診 15 件、病理解剖 4 件があり、CPC では前年度までのものを含め、以下の 3 例について症例検討を行った。

①重症再生不良性貧血、後縦靭帯骨化症、認知症で出血性膀胱炎を来した症例（84 歳女性）
②肝不全、肝性脳症で大量腹水を併発した症例（72 歳女性）
③多発性骨髄腫の経過観察中に慢性心不全急性増悪を来した症例（82 歳女性）

いずれも診療および臨床研究の示唆に富む症例で、活発な意見交換がなされた。①では重症再生不良性貧血により骨髄は高度低形成性となっており、全身の臓器に無数の顕微鏡的な細菌塊、両腎盂から尿管・膀胱に壊死物の付着した著しい壁肥厚や肉柱形成が認められ、難治性の出血性膀胱炎を来していた。なお、肝には小気腔形成が多数みられたが、CPC 後の追加検索で肝ガス壊疽と判明した。②では 14,000ml の腹水貯留を来した肝硬変を背景として、13mm 大までの latent な高分化型肝細胞癌病変が 3 個認められた。③では多発性骨髄腫に全身性続発性アミロイドーシスを合併しており、消化管、心、肺、肝、腎、膵、脾、甲状腺、骨髄などの小動脈壁にアミロイド沈着を来して心不全となっていたが、この症例でも肝に 20 mm 大の高分化肝細胞癌が認められた。

2．2019 年度の課題・目標

病理組織診、細胞診、術中迅速組織診、および病理解剖の各々について診断件数・精度の維持と効率化を検討すると共に、診療情報の厳重な管理の元、重要診断結果について別リストの作成・報告等を継続し、被験者に不利益が及ぶことのないよう最大限の対策を講じる。また今後さらなる項目増加が必至の分子生物学的検索に対応するため、組織固定や検体保存法に細心かつ最深の注意を払い、将来的な需要に備える。

［文責：臺　勇一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
臺　　勇一	病理科診療部長	常(HP)

【筑波記念病院】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	259	260	284	279	315	254	327	287	303	262	250	258	3,338	278.2
迅速病理	3	2	0	2	1	1	2	2	0	1	1	0	15	1.3
剖検	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	4	0.3
細胞診	321	385	625	596	585	623	718	647	609	550	535	542	6,736	561.3

【筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	38	44	50	53	52	57	61	60	50	35	52	63	615	51.3
細胞診	356	364	428	363	318	389	404	350	388	317	331	406	4,414	367.8

【筑波記念病院・筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	297	304	334	332	367	311	388	347	353	297	302	321	3,953	329.4
迅速病理	3	2	0	2	1	1	2	2	0	1	1	0	15	1.3
剖検	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	4	0.3
細胞診	677	749	1,053	959	903	1,012	1,122	997	997	867	866	948	11,150	929.2

リハビリテーション科

【総括】

1．2018 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①人事において、平島富美子リハ科診療部長が 2017 年度末で退職されたが、回復期リハ病棟の専従医は伊佐地が引き継ぎ、回復期リハの基準Ⅰ（体制強化加算Ⅰ）は維持した。またつくばケアセンターを担当していただいた関 寛之医師が 9 月末で勇退され、安岡利一医師のつくばケアセンターでの役割が過大となり、地域包括ケア病棟、療養病棟での入院受け持ちは制限された。

新しくリハ科医志望の後期研修医、渡邉規子医師が 7 月から、帝京大学リハ科から派遣されて赴任された。加えて週 1 日の非常勤医師が 1 人（相当）増え、常勤リハ科医 3 名体制を継続しつつ、非常勤医師は嚥下担当の海老原一彰医師、小児リハ担当の大黒春夏医師を合わせて 3 名となった。

②入院においては、回復期の患者は急性期病棟からの転棟患者がほとんどであったところに、2017 年度からは脳外科と協力して他院からの転院患者を含め 2 パターンとなったが、2018 年度からは転院患者をできるだけ受けるようにしたうえ、加えて他科に依存しないリハ科への直接入院も受け入れるようになった。これもあって回復期への入院候補患者数が増え、回復期リハ病棟の稼働率は 5 月後半からほとんど常時 100％を維持した。アウトカムも十分な結果であった（表）。地域包括ケア病棟でも直接入院として受け入れるようになり、回復期とあわせてリハ科への入院患者は増加した（表：新入院患者数）。

③外来では、週 3 日の通常のリハ科診療のほか、専門外来として、それぞれ週 1 回の義肢装具・車いす外来とボツリヌス治療外来は変わらず継続した。

④教育面では、学生実習として、全 16 グループの帝京大学医学部の M5 学生臨床実習（リハ医学）と 2 グループの筑波大学の M4 学生臨床実習（社会医学）を継続して請け負い、さらに筑波大学 M5（～ M6）の地域実習で、1 人 2 週間の実習を 5 名受け入れた。医師研修として、初期研修医 2 年目医師の選択科目として、1 名 1 ヶ月の研修も行った。専門職教育として、リハ部の新卒専門職 33 名の臨床指導も行った。

⑤講座・研修面では、次項の行事のために 2018 年度は縮小し、病院主催の地域連携公開講座「高次脳機能障害について知っておきたいこと」（講師：安岡医師、他）、茨城県指定研修推進支援センター主催の研修会「シーティング」（全 3 回）を運営した。

⑥社会活動として、全国デイ・ケア研究会主催の第 38 回全国デイ・ケア研究大会 2018in つくば（2018 年 7 月 13 日・14 日）を、リハ科を含む記念会全体で運営した。その他地域貢献として、2017 年に引き続き障害児の作品展覧会「大城組の小さな巨匠たち展」（11 ～ 12 月）を開催した。

⑦研究面では、学会発表 6 回、講演 3 回行った。

2．2019 年度の課題・目標

①回復期リハ病棟の稼働率100％のベッドコントロールを継続する。

②回復期リハ病棟での成果指標を継続する。

③地域包括ケア病棟の稼働率を70％以上に維持する。

④訪問リハ、通所リハの質を維持する。

⑤専門外来の件数を 2 割程度増加し充実を図る。

⑥全国レベル、県レベルの地域リハ支援体制の中核に参画し、情報の早期獲得等、当グループのリハ活性化の推進に役立てる。具体的には茨城県地域リハビリテーション普及促進協議会の委員、茨城県高次脳機能障害支援センター嘱託医、日本リハビリテーション病院・施設協会理事、その他茨城県からの委託事業委員として活動する。

⑦主管の「第7回全国介護・終末期リハ･ケア研究会　研究大会つくば2019」を成功させる。

［文責：伊佐地　隆］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
伊佐地　隆	リハビリテーション統括部長	常(HP)
安岡　利一	地域リハビリテーション部長	常(HP)
関　寛之		常(HP)
渡邉　規子		常(HP)
大黒　春夏		非(HP)
海老原一彰		非(HP)
德永　貴久		非(HP)
本田　祐士		非(HP)
松本　啓成		非(HP)

回復期リハ病棟実績

（1 病棟 52 床：2018 年 4 月～ 2019 年 3 月）

入院患者数　人		308
1ヶ月あたり　人 / 月		25.7
退院患者数　人		324
1ヶ月あたり　人 / 月		27.0
病床稼働率　%		97.7
平均年齢　歳		73.3
疾患別患者数（割合）人（%）	脳血管	132(40.9)
	運動器	189(56.5)
	廃　用	3(2.6)
平均在院日数　日	全体	60.3
	脳血管	85.5
	高次脳機能障害あり	92.2
	なし	68.1
	運動器	42.8
	廃　用	51.7
リハ起算日から転入までの平均日数　日		25.4
看護必要度Ａ項目が１点以上の割合　%		15.5
重症患者割合　%		43.0
重症患者Ｂ項目４点以上の改善者割合　%		67.9
個別リハ提供単位数　単位 / 人 / 日		7.9
在宅復帰率　%		95.4
実績指数		56.8

【外来患者数（筑波記念病院）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
83	88	96	104	105	86	87	92	69	92	100	92	1,094

【専門外来患者数（筑波記念病院）】

義肢装具・車いす外来

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
27	25	22	41	27	16	25	14	10	15	18	14	254

ボツリヌス治療外来

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
診察患者数	8	6	5	3	4	4	1	3	3	3	1	4	45
施注患者数	2	2	4	0	1	3	1	1	2	3	1	3	23
神経ブロック	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4

【入院件数（筑波記念病院）】

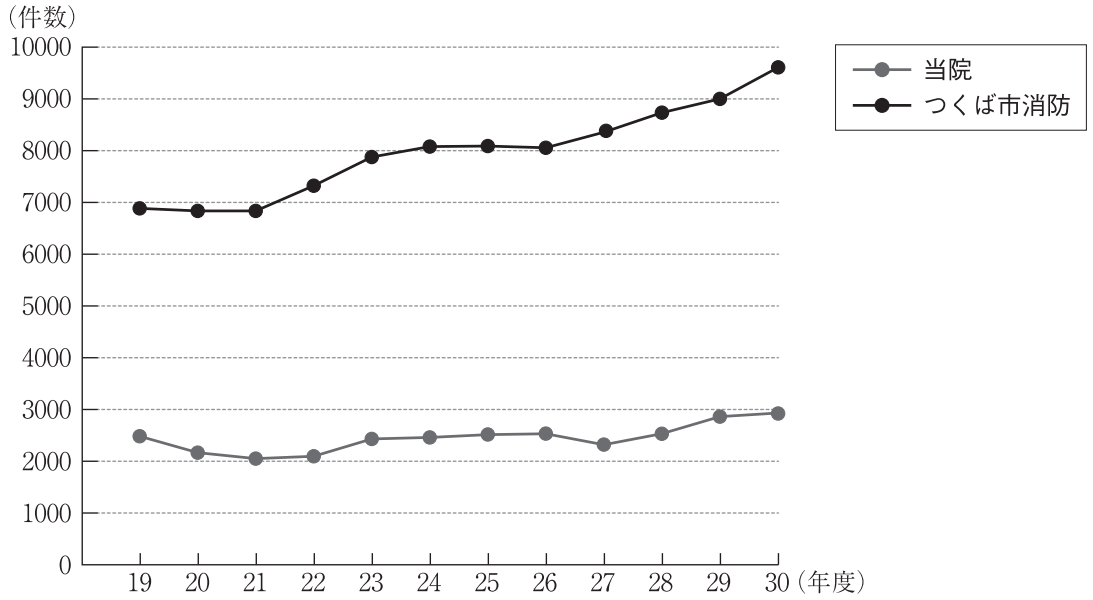
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新入院患者数	2017 年度	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	5
	2018 年度	0	1	2	2	2	3	4	3	4	4	1	2	28
入院延べ患者数	2017 年度	648	645	485	510	552	648	779	679	625	495	411	457	6,934
	2018 年度	553	668	634	611	667	751	814	698	885	873	721	836	8,711

救　急　科

【総括】

平成 30 年度の当院への救急搬送件数は 2,913 件で前年度に引き続き 2,900 件台を維持している。

当院及びつくば市消防の救急搬送件数の推移（過去10年）



平成 31 年 1 月に徳島県で開催された AMAT 災害訓練（夜間訓練）に当院から、医師 2 名、看護師 1 名、ロジスティクス 3 名が参加した。また、平成 31 年 3 月には筑波記念グループとなり、初めて合同での災害訓練が開催され、法人間で DSST による情報伝達訓練が実施された。

昨年度に引き続き全日本病院協会主催の AMAT 隊員養成研修に、医師 1 名、看護師 2 名、ロジスティクス 4 名が受講し、当院では医師 4 名、看護師 6 名、ロジスティクス 9 名（計 19 名）が AMAT 隊員資格を取得したことになった。

［文責：立川法正］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
立川　法正	救急科診療部長	常（HP）
菊地　　斉		非（HP）
稲葉　健介		非（HP）
楢橋　和真		非（HP）

【ドクターヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
2018年度	0	0	0	1	1	2	0	1	0	2	0	0	7

【ドクターヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	1	1	0	1	1	1	0	0	1	2	3	1	12
2018年度	0	2	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	6

【防災ヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2018年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【防災ヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
2018年度	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

【救急車搬送患者数】

	患者数（搬送台数）	症度別		診療科別			交通事故
		入院	外来	内科系	外科系	救急科	
2017年度合計	2,944名	1,636名	1,308名	1,535名	858名	551名	261名
	2,903台	56%	44%	52%	29%	19%	9%
2018年度合計	2,944名	1,471名	1,473名	1,454名	937名	553名	238名
	2,903台	50%	50%	49%	32%	19%	8%

リウマチ科・アレルギー科

【人事】

氏　名	役　　職	勤　務
柏木平八郎	筑波記念会　顧問	非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
320	372	350	329	374	366	358	336	328	328	338	328	4,127

腎　臓　内　科

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
102	116	114	128	109	122	113	142	121	112	101	94	1,374

乳 腺 甲 状 腺 外 科

【人事】

氏　名	役　　職	勤　務
岩淵　　裕		非（HP）
市岡恵美香		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
518	464	491	495	444	450	496	450	482	426	403	506	5,625

泌　尿　器　科

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
338	395	401	388	434	370	436	365	381	381	367	410	4,666

もの忘れ診療科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉井與志彦	もの忘れ診療センター長	常（HP）

内　　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長岡　広香		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
458	459	443	469	492	428	452	557	464	596	515	488	5,821

筑波記念病院　研修医

初期臨床研修医

年次	氏　名	管理病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	粕谷　英暢	筑波記念病院	消内	産婦（JA）		地域（つくば）	放射線	放射線	代内	呼内	精神	救急	救急	精神（筑大）
2	黒江　崇史	筑波記念病院	小児（地域CL）	小児・新生児（筑大）		小児・循環器（筑大）		産婦（筑大）		放射線	放射線	循環	地域（つくば）	救急
2	横山　昌平	筑波記念病院	循内	循内	救急（日医）				産婦（筑大）		心外	心外	心外	地域（小豆畑）
2	石川　陽子	筑波記念病院	血内	小児・総合（筑大）		小児・新生児（筑大）		脳外	脳外	産婦（JA）		地域（小豆畑）	放射線	放射線
2	太　拓也	筑波大学附属病院										循内	循内	循内
2	山野　晃生	筑波大学附属病院	消内	消内	脳外	脳外								
2	伊藤　嘉美	筑波大学附属病院	呼内		消内									
2	飯島麻里絵	筑波大学附属病院											循内	呼内
2	田中　隆造	筑波大学附属病院	麻酔	麻酔										
2	植松　洋	筑波大学附属病院							麻酔	麻酔	麻酔			
2	橋　幸治	筑波大学附属病院											麻酔	麻酔
2	野田　恵佑	筑波大学附属病院	整形	整形										
2	堤　亮介	筑波大学附属病院				整形	整形	整形						
1	角田　健太	筑波記念病院	救急	救急	救急	循内	循内	麻酔	麻酔	心外	代内	血内	消内	消内
1	ヘアリチュケ・マティーナ綺香	筑波記念病院	循内	循内	血内	救急	救急	救急	脳外	消内	消内	代内	麻酔	麻酔
1	大西真悠子	筑波記念病院	消内	消内	代内	麻酔	麻酔	脳外	救急	救急	救急	循内	循内	血内
1	加藤　佑介	筑波記念病院	代内	血内	心外	救急	救急	救急	循内	循内	麻酔	麻酔	消内	消内
1	髙久瑠璃子	筑波記念病院	麻酔	麻酔	血内	代内	脳外	循内	循内	消内	消内	救急	救急	救急
1	張本　亮	東京大学医学部附属病院	外科	外科	整形	循内	循内	消内	消内	代内	血内	救急	救急	救急
1	九原　利京	東京大学医学部附属病院	血内	代内	循内	循内	消内	消内	救急	救急	救急	外科	整形	
1	前川　翔太	筑波大学附属病院	代内	血内	消内	消内	循内	循内						
1	埴原　弘直	筑波大学附属病院	循内	循内	消内	消内	代内	代内						
1	佐々木憲人	筑波大学附属病院							循内	循内	消内	消内	血内	代内

後期研修医

年次	氏　名	管理病院	所　属	期　間
5	蒲田　久典	筑波大学附属病院	整形外科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
5	藤原　啓司	筑波メディカルセンター病院	呼吸器内科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
5	清水　隆玄	東京大学医学部附属病院	心臓血管外科	2017.10.1 ～ 在籍中
4	沼田るり子	筑波記念病院	循環器内科	2017.1.1 ～ 在籍中
4	井関　陽平	日本医科大学附属病院	消化器外科	2016.10.1 ～ 2017.6.30
3	倉橋　果南	筑波記念病院	心臓血管外科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
3	萩原　悠也	筑波大学附属病院	消化器内科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
3	猪股　兼人	筑波大学附属病院	整形外科	2017.10.1 ～ 2018.3.31
3	赤星　南	筑波大学附属病院	脳神経外科	2017.10.1 ～ 2018.3.31
3	岩元　博史	筑波大学附属病院	脳神経外科	2017.4.1 ～ 2017.9.30
3	安永　将太	筑波大学附属病院	整形外科	2017.4.1 ～ 2017.9.30
3	藤原　彩織	筑波大学附属病院	心臓血管外科	2018.1.1 ～ 2018.3.31

業　績　集

【論　文】

消化器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
小林真理子、池澤和人、山浦正道、萩原悠也、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子	ダサチニブが原因で炎症反応性大腸ポリポーシスをきたした１例	日本消化器病学会雑誌	Vol.115 No.11	977-984	2018

消化器外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
佐々木量矢、坂本俊樹、松井　聡、斉藤　節	肝切除後早期肝内多発再発に肝動脈化学療法が著効をみた肝細胞癌の１例	日本臨床外科学会雑誌	79 巻７号	1506-12	2018
佐々木量矢、坂本俊樹、松井　聡、斉藤　節	増大傾向を示し脾摘術を行った無症候性脾辺縁帯リンパ腫の１例	日本臨床外科学会雑誌	79巻10号	2175-81	2018

呼吸器外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
佐伯祐典、佐藤幸夫、神山幸一	気管原発 glomus 腫瘍の１例	日本呼吸器外科学会雑誌	第32巻4号	110-113	2018.5

心臓血管外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Yoshimoto A, Inoue T, Morizumi S, Nishi S, Shimizu T, Kurahashi K, Suematsu Y	Analysis of the perioperative change in cognitive function of patients wuth risk factors for congnitive impairment in cardiovascular surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg			2018
Inoue T, Suematsu Y	Left atrial appendectomy combined with thoracoscopic left upper lobectomy	J Thorac Cardiovasc Surg	156(1)	154-155	2018
Inoue T, Suematsu Y	Left atrial appendage resection can be performed minimally invasively with good clinical and echocardiographic out comes without any sever risk	Eur J Cardiothorac Surg	54(1)	78-83	2018

脳神経外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Yamano A, Yanaka K, Uemura K, Onuma K, Nakamura K, Ishikawa E.	Bleb formation in small unruptured intracranial aneurysm as a predictor of early rupture.	Journal of Surgical Case Reports	5巻	1-3	2018.5
Akahoshi M, Yanaka K, Watanabe D, Nakamura K, Zaboronok A, Ishikawa E, Matsumura A	Atypical chronological changes on neuroimaging in the epidermoid in the frontal lobe with intracystic hemorrhage and tumor growth: Case report.	Radiology Case Reports	13 巻	1133-1136	2018.9

眼科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
佐藤美保、加藤光弘、森田由香	中隔視神経異形成症の眼科診療に関する研究	眼科臨床紀要	11(5)	395-400	2018.5

精神科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
山里道彦	頭部外傷後遺症の鑑別疾患	臨床精神医学	48	483-491	2019

【書　籍】

呼吸器内科

著　　者	書籍名	監修・編集	担当項目	出版社	ページ	発行年月
大塚盛男	新版　学生と健康−若者のためのヘルスリテラシー −	国立大学法人保健管理施設協議会	かぜ症候群、インフルエンザ	南江堂	119-121	2019.2

眼科

著　　者	書籍名	監修・編集	担当項目	出版社	ページ	発行年月
眼科専門医認定試験研究会（森田由香）	眼科紀要	眼科専門医認定試験研究会	眼科専門医認定試験 過去問題・解答・解説集			2019.2

【学会・講演・セミナー等】

循環器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
我妻賢司	ガイドカテの種類と選択、SH とは?	第 53 回日本心血管インターベンション治療学会 Tokyo Live Demonstration2018	東京	2018.10
沼田るり子、我妻賢司、内田靖人	冠リスク因子を多数有する 40 代女性の IVUS・OCT で二腔像を確認しえた無症候性心筋虚血の一例	第 53 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会	東京	2018.10
沼田るり子、我妻賢司、内田靖人	若年発症の LAD CTO 病変を有する労作性狭心症に対し PCI を施行した一例	第 250 回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2018.12
Kenji Wagatsuma(Panelist)	Complex and Higher Risk Indicated Patient(-CHIP)	23rd Cardiovascular Summit TCTAP2018	Seoul Korea	2018.4
Kenji Wagatsuma(Lecturer)	Complex Radial PCI:Must-Know Radial PCI Skills for the CHIP Operator.Complex and Hight-er Risk Indicated Patient(CHIP)	23rd Cardiovascular Summit TCTAP2018	Seoul Korea	2018.4
Kenji Wagatsuma(Panelist)	Left Main&Bifurcation PIC Organized by CVRF	23rd Cardiovascular Summit TCTAP2018	Seoul Korea	2018.4
Kenji Wagatsuma(Panelist)	Complex PCI(Challenging Case Competition with Experts' Focus Review Ⅱ)	23rd Cardiovascular Summit TCTAP2018	Seoul Korea	2018.5
Kenji Wagatsuma(Lecturer)	Radial PCI for complex and higher risk indicated patients(CHIP)	16th Gwangju International Interventional Cardiology Symposium	Gwangju Korea	2018.6
Kenji Wagatsuma (Panelist)	Live Case Demonstration	3rd Complex PCI	Seoul Korea	2018.11
Kenji Wagatsuma (Discussant)	Live Case Session 4	China Interventional Therapeutics in Partnership with TCT (CIT2019)	Beijing China	2019.3
Kenji Wagatsuma (Lecturer)	Radial PCI for Complex and Higher Risk Indicated Patients (CHIP)	China Interventional Therapeutics in Partnership with TCT (CIT2019)	Beijing China	2019.3

Kenji Wagatsuma (Discussant)	Cardiovascular Interventional Training Courses Practical Course on PCI Part Ⅱ -Advanced CTO Course (in Collaboration with CTOCC)	China Interventional Therapeutics in Partnership with TCT (CIT2019)	Beijing China	2019.3
沼田るり子、我妻賢司、新居秀郎	バルーン不通過の高度石灰化 CTO 病変に対しレトロ側からの Anchor balloon technique にて血行再建し得た一例	第 6 回つくばハートカンファレンス	つくば	2018.11
新居秀郎	病診連携経由で御紹介頂いた無症状でありながら冠動脈多枝病変を有した糖尿病患者の経験	循環器疾患と糖尿病治療を考える～病診連携懇話会～	つくば	2019.2

消化器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
岩井健太郎、萩原悠也、小林真理子、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人、中原 朗	当院における大腸悪性狭窄に対する内視鏡的ステント挿入術の検討	第 105 回日本消化器病学会	東京	2018.4
小林真理子、萩原悠也、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人	当院における潰瘍性大腸炎とクローン病に対するインフリキシマブの使用実験	第 115 回日本内科学会総会	京都	2018.4
池澤和人、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、大塚公一朗、添田敦子	医療従事者におけるヘリコバクターピロリ非持続性一過性感染（通過菌）の可能性	第 115 回日本内科学会総会	京都	2018.4
田崎美佳、中川麻里、飯島洋子、飯村もと子、池澤和人	生検検体の取り扱いに関する内視鏡技師の取り組み	第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会	札幌	2018.6
小林朋子、池澤和人、小關 剛、長澤俊郎、小關 迪	予期せぬ死亡をどう抽出するか？	第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会	札幌	2018.6
小林真理子、萩原悠也、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人	EMR を施行し得た無色素性直腸悪性黒色腫の一例	第 106 回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2018.6
岩﨑友哉、添田敦子、大塚公一朗、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、池澤和人	正中弓状靱帯による腹腔動脈根部狭小化が原因と考えられた膵十二指腸動脈瘤破裂の一例	第 350 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2018.7
大塚公一朗、添田敦子、山田健人、矢野輝久、小島才明、岩﨑友哉、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、池澤和人、中原 朗	内視鏡的経鼻膵管ドレナージと膵管チューブステント留置により軽快した、被包化膵壊死の一例	第 350 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2018.7
岩井健太郎、萩原悠也、小林真理子、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人、中原 朗	当院における大腸憩室出血に対する治療成績および今後の緊急下部消化管内視鏡検査（CS）の適応に関する検討	第 60 回日本消化器病学会大会 JDDW2018	神戸	2018.11
荒木雅之、飯村もと子、星典子、池澤和人、小關 剛、長澤俊郎、小關 迪	A 病院の「手指衛生の 5 つのタイミング」別、実施状況の調査報告	第 19 回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	つくば	2018.11
矢口麻里、中根登志子、星 豪人、飯村もと子、池澤和人、小關 剛、長澤俊郎、小關 迪	地域包括ケア病棟におけるレスパイト患者受け入れの課題～シームレス看護の重要性～」	第 19 回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	つくば	2018.11
垣内祥宏、緑川拓也、渥美弘美、小關 剛、池澤和人	他職種業務の見学・体験を組み込んだ新人薬剤師教育の有用性	第 19 回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	つくば	2018.11
勝山陽太、添田敦子、大塚公一朗、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、池澤和人、同病理部 臺 勇一	食道静脈瘤破裂を契機に診断した原発性胆汁性胆管炎の 2 例	第 352 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2018.12
小林真理子、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人	ダビガトラン起因性食道炎 14 例の臨床的検討	第 15 回日本消化管学会学術総会	佐賀	2019.2

血液内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
河野慈恵	血栓性血小板減少性紫斑病との鑑別が困難であったビタミン B12 欠乏症	第 642 回日本内科学会関東地方会	東京	2018.6
矢野輝久	シクロフォスファミド長期投与で貧血の改善を得た顆粒リンパ球増多症関連赤芽球癆の一例	第 643 回日本内科学会関東地方会	東京	2018.7
角田健太	複数の薬物誤嚥を認めた高齢者の 1 例	第 214 回茨城県内科学会	茨城	2018.1
角田健太	成人発症の Langerhans 細胞組織球症例	第 648 回日本内科学会関東地方会	東京	2019.2
山田健人	一過性の TCR 遺伝子再構成陽性 CD8+T リンパ球増多を示した CMV 感染症	第 649 回日本内科学会関東地方会	東京	2019.3

神経内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
星野幸子	高齢者における意識障害の鑑別診断	第 59 回日本神経学会学術大会	北海道	2018.5

代謝内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
藤原　淳、藤田利枝、田岡謙一、松井　聡	汎下垂体機能低下症の治療中に右眼失明および小腸静脈血栓症で回盲切除術を行った DLBCL の一例	第 91 回日本内分泌学会学術総会	宮崎	2018.4
藤原　淳、藤田利枝、片山暁子、松田えりか	持続グルコースモニター（CGM）で血糖変動を観察したチアマゾールによるインスリン自己免疫症候群と考えられた一例	第 61 回日本甲状腺学会学術集会	川越	2018.11
藤原　淳	抗糖尿病薬である GLP-1 アナログと SGLT2 阻害薬の効能効果と生活習慣への影響	糖尿病スキルアップセミナー	つくば	2018.11
藤原　淳	Table Discussin Meeting in つくば	茨城県糖尿病合併症治療研究会	つくば	2018.11
藤原　淳	治療に苦慮した高齢者の糖尿病症例	第 22 回つくば臨床糖尿病研究会	つくば	2019.2

呼吸器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
石川宏明、薮内悠貴、野中　水	慢性進行性肺アスペルギルス症の予後規定因子の検討	第 58 回日本呼吸器学会学術講演会	大阪	2018.4

呼吸器外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
木村正樹、神山幸一、臺　勇一	腎機能障害を合併した ALK 遺伝子転座陽性術後再発肺腺癌に対するアレクチニブの使用経験	第 45 回茨城肺癌研究会	竜ヶ崎済生会病院	2018.9.29
神山幸一	肺がんの外科的治療	もっと知ってほしい肺がんのこと　つくば肺がん市民セミナー	つくば市イーアスつくば	2018.10.28
木村正樹、神山幸一、臺　勇一	腎機能障害を合併した ALK 遺伝子転座陽性術後再発肺腺癌に対するアレクチニブの使用経験	第 183 回日本肺癌学会関東支部会学術集会	東京	2018.12.15
神山幸一、木村正樹、大塚盛男	同時 3 重複癌（胸腺癌、肺癌、乳癌）の 1 例	第 46 回茨城肺癌研究会	水戸協同病院	2019.3.2

心臓血管外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
Takaharu Shimizu, Satoshi Nishi, Akihiro Yoshimoto, Sei Morizumi, Yoshihiro Suematsu	Our experience of total endoscopic left atrial appendectomy in a case for contra-indication of WATCHMAN device	The 26th Annual Meeting of the Asian society for Cardiovascular and Thoracic Surgery	Moscow, Russia	2018.5
Kanan Kurahashi, Yoshihiro Suematsu	Comparative study between left atrial appendage resection with vasculer and left atrial appendage closure with atrial clip	ISMICS 18(International Cosiety for Minimally Invasive Cardiothoracic Suegery,Annual Scientific meeting)	Vancouver, Canada	2018.6
Takaharu Shimizu, Kanan Kurahashi, Satoshi Nishi, Akihiro Yoshimoto, Sei Morizumi, Yoshihiro Suematsu	Evaluation of the effects and Complications of recombinant activated factor VII in cases undergoing asute aortic syndrome surgery	Annual Scientific Meeting of the International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery		2018
末松義弘	当院における包括的左心耳マネージメントの現状	Complex Cardiovascular Therapeutics(CCT)	神戸	2018.10
森住　誠、倉橋果南、井上堯文、西　智史、吉本明浩、藤崎正之、末松義弘	偽腔閉塞型急性 A 型大動脈解離に対する治療ストラテジー	第 118 回日本外科学会総会	東京	2018.4
森住　誠、倉橋果南、藤原彩織、清水隆玄、西　智史、吉本明浩、末松義弘	血管内焼灼後に診断した血管奇形の 1 例	第 38 回日本静脈学会総会	神奈川	2018.6
森住　誠、清水隆玄、有馬大輔、西　智史、吉本明浩、藤崎正之、末松義弘	大動脈解離術後早期に追加手術を要した一例	第 59 回日本脈管学会総会	広島	2018.10
清水隆玄、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘、大塚俊哉	心原性脳梗塞を繰り返す WATCHMAN 不適応症例に胸腔鏡下左心耳切除術を施行した 1 例	第 26 回茨城循環器研究会		2018
西　智史、清水隆玄、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	腹部大動脈瘤破裂に対する緊急 TEVER で対側脚があがらず難渋した 1 例	第 3 回北関東ステントグラフトクラブ		2018
西　智史、清水隆玄、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	当科における uncomplicated type B aortic dissection に対する TEVAR の治療成績	第 46 回日本血管外科学会学術総会	山形	2018.5
Satoshi Nishi, Takaharu Shimizu, Daisuke Arima, Akihiro Yoshimoto, Sei Morizumi, Yoshihiro Suematsu	The impact of thoracic endovascular aortic repair on the descending aorta in uncomplicated type B aortic dissenction in the acute phase	第 71 回日本胸部外科学会定期学術集会総会	東京	2018.10
西　智史、清水瑠玄、有馬大輔、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	対麻痺を合併した逆行性 A 型解離に対して TEVER を施行した 1 例	第 59 回日本脈管学会総会	広島	2018.10
清水隆玄、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	しんのうえき貯留を契機に発見された末梢性 T 細胞リンパ腫再発の 1 例	第 177 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2018.6
清水隆玄、倉橋果南、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘、大塚俊哉	胸腔鏡下左心耳切除の際に強度の胸腔内癒着を認めた 1 例	第 177 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2018.6
清水隆玄、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	収縮性心膜炎を伴う慢性心房細動による両心耳内血栓及び心不全に対し外科的加療が奏功した 1 例	東京心臓外科クリニカルカンファレンス		2018
清水隆玄、有馬大輔、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	収縮性心膜炎及び慢性心房細動に起因する両心耳内血栓に対し両心耳切除が有効であった 1 例	第 87 回茨城心臓血管研究会	つくば	2018.7
清水隆玄、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	慢性解離性胸腹部大動脈瘤切迫破裂に対し緊急 TEVER+EVER+ 腸骨動脈用 stent 留置にて救命しえた 1 例	第 46 回日本血管外科学会学術総会	山形	2018.5

清水隆玄、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘、大塚俊哉	心原性脳梗塞を繰り返す心房細動に対してWATCHMAN Deviceが不適応であった1治験例	第40回東京胸部外科懇話会		2018
倉橋果南、井上堯文、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	心房細動患者における左心耳の病理組織と臨床との関係性	日本外科学会学術総会		2018
倉橋果南、井上堯文、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	Stanford B型急性大動脈解離に対するTEVER介入群の短期成績と保存加療群との比較	日本血管外科学会総会		2018
吉本明浩、清水隆玄、西　智史、森住　誠、末松義弘	急性大動脈解離術後に重度溶血により再手術が必要となった症例	第177回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2018.6
吉本明浩、清水隆玄、有馬大輔、西　智史、森住　誠、末松義弘	胸骨プレート有用性の検討	第71回日本胸部外科学会定期学術集会総会	東京	2018.10
寺田綾、西　智史、吉本明浩、森住　誠、末松義弘	当院心臓血管外科におけるドクターヘリの受け入れの現状	第42回茨城県救急医学会	水戸	2018.9
中根昌城、末松義弘	急性大動脈解離　stanford A に対するラッピング術が術後の歩行能力に及ぼす影響～上行大動脈置換との比較	第24回日本心臓リハビリテーション学会	横浜	2018.7

脳神経外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
小沼邦之	神経内視鏡手術を施行した晩発性中脳水道膜性閉塞の1例	第136回日本脳神経外科学会関東支部学術集会	東京	2018.9
山野晃生	急性期脳梗塞に対する血栓回収療法後に再治療を要した症例の検討	日本脳神経外科学会第77回学術総会	仙台	2018.10
小沼邦之	片側慢性硬膜下血腫を合併した脳脊髄液漏出症の1例	第101回茨城県脳神経外科集談会	水戸	2018.10
山野晃生	Vertebral artery stump syndromeによる脳底動脈閉塞を発症した1例	第34回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会	仙台	2018.11
中村和弘	ステントグラフト内挿術後に脳塞栓症を発症したStanford A型慢性大動脈解離に合併する頚動脈解離に対して頚動脈ステント留置術を施行した1例	第34回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会	仙台	2018.11
山野晃生	Mixed Pial-Dural Arteriovenous Malformationの1例	第37回筑波脳神経外科研究会	つくば	2019.2
山野晃生	脳室内出血で発症したA1穿通枝末梢部動脈瘤に対して塞栓術を施行した1例	第102回茨城県脳神経外科集談会	水戸	2019.3
山野晃生	脳室内出血で発症したA1穿通枝末梢部動脈瘤に対して塞栓術を施行した1例	第48回日本脳卒中の外科学会学術集会	横浜	2019.3
小沼邦之	心原性脳塞栓急性期～亜急性期における左心耳切除の有効性および安全性の検討	第44回日本脳卒中学会学術集会	横浜	2019.3

整形外科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
蒲田久典	PLIFにおける術前骨密度と術後インプラント関連合併症の検討	第47回日本脊椎脊髄病学会	神戸国際会議場	2018.4
箱岩篤生	腰椎後方椎体間固定術におけるチタンコーティングPEEKケージの骨癒合に及ぼす影響	第47回日本脊椎脊髄病学会	神戸国際会議場	2018.4
淺川俊輔	腕神経叢損傷に対する有茎広背筋皮弁による手指機能再建術	第61回日本手外科学術集会	京王プラザホテル	2018.4
菊池直哉	内側型変形性膝関節症に対する人工関節全置換術が距腿関節に及ぼす影響	第91回日本整形外科学術集会	神戸コンベンションセンター	2018.5
菊池直哉	Openning Wedge HTO術後の再置換に関するCTによる検討	第91回日本整形外科学術集会	神戸コンベンションセンター	2018.5

菊池直哉	Openning Wedge HTO 術後における配向連通孔構造の有無による人工骨リモデリングの違い	第10回日本関節鏡･スポーツ整形外科学会	福岡国際会議場	2018.6
菊池直哉	外側側副靭帯損傷膝に対して Openning Wedge HTO を行った 2 例	第10回日本関節鏡･スポーツ整形外科学会	福岡国際会議場	2018.6
菊池直哉	Openning Wedge HTO 術後の人工骨リモデリングの検討	第 7 回日本ｋｎｅｅ osteotomyフォーラム	京王プラザ札幌	2018.7
藤田　開	腰椎固定術後外固定に関する検討	第 126 回茨城県集談会	茨城県医師会館	2018.10
菊池直哉	Openning Wedge HTO 術後の人工骨リモデリングの検討	第 33 回日本整形外科基礎学術集会	奈良春日野国際フォーラム	2018.10
長谷川隆司	人工股関節全置換術における Polar ステムの術後 1 年成績の検討	第 45 回日本股関節学術集会	名古屋国際会議場	2018.10
角南貴大	マムシ咬傷による上肢コンパートメント症候群の一例	第 46 回日本救急医学会総会	パシフィコ横浜	2018.11
菊池直哉	骨切り開大部の補充材料として配向連通 β - リン酸 Ca を用い OWHTO4 例の術後 1 年成績	第38回整形外科バイオマテリアル研究会	つくば国際会議場	2018.12

眼科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
森田由香、平岡孝浩、大鹿哲郎	Hang back 法による後転法で術後縫合糸の糸切れにより過矯正を認めた 1 例	第74回日本弱視斜視学会	倉敷	2018.7
森田由香	成人の斜視診療	第 4 回視機能を考えるセミナー	つくば市	2018.7
森田由香	こどもの眼の成長教室	柏市市民講座	柏市	2018.11
森田由香	眼科における 3 歳児健診について	茨城県医師会乳幼児保健委員会	水戸市	2018.12

精神科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
山里道彦	よくわかる認知症の話①－診断のそのコツ－	東葛北部 GP ネットワーク研究会	柏	2018.12.11
山里道彦	外傷性脳損傷の長期的予後	第 42 回日本高次脳機能障害学会総会	神戸	2018.12.6
山里道彦	よくわかる認知症の話②－ケアとそのコツ－	第 6 回茨城鵬桜会学術講演会	水戸	2019.3.9

病理診断科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
臺　知子、臺　勇一、野口　雅之	肺腺癌における NDRG1 発現の臨床病理学的検討	第 107 回日本病理学会総会	札幌	2018.6
臺　勇一、小林真理子、池澤和人	上皮内進展を来した直腸原発無色素性悪性黒色腫の内視鏡的粘膜切除例	第 46 回茨城病院病理医の会	つくば	2018.10
臺　勇一	上部・下部消化管内視鏡 ESD 検体病理報告	第 10 回つくば内視鏡ライブセミナー 切除検体病理報告	つくば	2019.1
臺　勇一	症例 2 病理診断（VTR 発表）	第 104 回茨城県早期胃・大腸癌研究会	つくば	2019.2
臺　勇一、岩井健太郎、池澤和人	内視鏡的に切除された AFP 産生早期胃癌の一例	第 47 回茨城病院病理医の会	笠間	2019.3

リハビリテーション科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
伊佐地隆、佐々木千穂、海老原一、他	スキューバダイビングにおける循環器生理学的指標の変化－障害者と健常者の比較－	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	福岡	2018.6
海老原一彰、田中直樹、伊佐地隆、他	歩行感覚提示装置を用いた歩行トレーニングの有用性の検討～トレッドミルとの比較～	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	福岡	2018.6
田中直樹、海老原一彰、伊佐地隆、他	歩行感覚提示装置による歩行運動が維持期脳卒中患者の筋活動に与える影響	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	福岡	2018.6
伊佐地隆	大会長講演：通所サービスの役割の歴史とこれから～リノベーション～	全国デイ・ケア研究大会 2018in つくば	つくば	2018.7
伊佐地隆	リハビリテーションと栄養	平成 30 年度　第 2 回帝京大学医学部附属病院 NST 研修会	帝京大学付属病院	2018.11
佐々木千穂、境　信哉、伊佐地隆、他	脊髄性筋萎縮症（SMA）Ⅰ型児の意思伝達装置使用可能年齢についての検討	第 6 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会	岡山	2018.11
高橋広樹、飯塚　陽、伊佐地隆、他	独歩自立した回復遅延型ギランバレー症候群の一症例	回復期リハビリテーション病棟協会　第３３回研究大会	舞浜	2019.2
足立健太、山口普己、伊佐地隆、他	当院の回復期リハビリテーション病棟退院後の患者が抱える悩みに関する調査	回復期リハビリテーション病棟協会　第３３回研究大会	舞浜	2019.2
安岡利一	高次脳機能障害について知っておきたいこと	地域医療連携講座	筑波記念病院	2019.3

診療支援部門

看　護　部

【総括】

医療・看護・介護の需要がますます増大する中、健康の予防から治療、リハビリ、介護を提供する病院として、看護部が果たすべき役割を、その方の症状、病状に応じた適切な看護実践と専門性をもった看護の提供として活動してきた。看護サービスの質向上の一貫としては、一昨年より取り組んでいる退院支援体制を強化し、外来から支援できるシステム構築の基盤に着手してきた。また、副看護部長２名を、外来、訪問看護担当と地域連携部門に配属し、外来から、地域までの看護ニーズに対応できるような活動をしてきた。このことにより、少しずつではあるが、看護職全体に他職種との連携の意識が浸透してきている。人材育成では、急性期病棟における患者層の高齢化による認知症の問題や治療、検査に伴うせん妄状態に対応するべき認知症チーム活動の核となる専任者として、認知症認定看護師教育課程に看護師１名を輩出することができた。また、訪問看護管理者が看護師特定行為研修を受講できたことは、今後の訪問看護の活動にも意義が大きい。

今後は、看護師の定着と労働環境の改善、整備につとめ、院内スタッフの育成はもちろん、院外での活動の場を増やし、さらなる質の向上につとめ、魅力ある看護部を目指していきたい。

【業務】

１．2018 年度の実績報告

2018 年度は、看護記録の質向上、看護手順･基準の見直し、正確な重症度、医療･看護必要度（以下、看護必要度）の評価、クリティカルパスの作成と使用率向上を目指し、1）看護記録、2）看護基準･手順、3）看護必要度の３チームに分かれて活動した。

看護記録チームでは、「転倒・転落時の記録」、「急変時の記録」、「記録における倫理的配慮」の３つのテーマで看護記録研修を企画・実施した。また、看護記録監査については、「看護必要度の評価を裏付ける看護記録」と「転倒・転落時における看護記録」の監査をそれぞれ２回、計４回実施した。看護記録監査は、各病棟の業務委員が５名の患者カルテを選出し､記録監査表に沿って実施した。看護記録監査結果については､病棟師長と業務委員から対象となったスタッフへ改善点について直接フィードバックした。

看護手順･基準チームでは､「死亡退院の対応」「清潔の援助」「シリンジポンプ使用中の取り扱い」「一般採血」「血液培養」「非侵襲的陽圧酸素療法」「心電図モニター管理」「インスリン注射」等の看護手順の見直しと改定を行った。

看護必要度チームでは、看護必要度の評価能力を維持する目的で、新入職員対象１回、全看護職員対象２回、計３回の評価者研修（能力評価テスト）を実施した。看護必要度の評価については、能力評価テストで合格点に達した者を評価可能者としている。

２．2019 年度の課題・目標

2019 年度は、カルテの電子化が予定されている。そのため、全看護職員が看護記録の「基礎（個人）情報」「看護計画」「経過記録」「看護サマリー」等を電子カルテ上でスムースに記載できるように準備をすすめていきたい。

また、看護必要度評価者研修については、特定集中治療室の看護必要度に係る評価を実施する看護師を対象とし

た研修を追加して実施していく予定である。

【教育】

●クリニカルラダーレベルⅠ：入職一年目

入職者の全体研修4日間、プリセプターシップ研修（全3回）、看護必要度研修、救急看護研修、ストレスマネジメント研修を実施した。2017年度から技術教育については各病棟に一任しているが、その成果を評価する体制ができていない。今後その体制づくりが課題である。また、技術研修における病棟の負担もあり、今後の指導体制を評価検討していくこととする。

●クリニカルラダーレベルⅡ：２～３年目

レベルⅡでは自立して主体的に看護を実践する能力の開発を目的に、年7回の集合研修を実施した。延べ参加人数は217名であった。経験年数の浅い層であるため高い頻度での教育支援を行い、参加者の満足度は高かった。企画者側の負担軽減が課題となった。

●クリニカルラダーⅢ：４～５年目

レベルⅢでは看護実践において役割モデルとなれる能力の向上を目的に、年4回の集合研修を実施した。延べ参加人数は91名であった。実践におけるリーダーを担う層として研修を実施したが、研修内容が実践で活用されているかの評価が課題となった。

●クリニカルラダーレベルⅣ：６～７年目　●ラダーレベルⅤ：8年目以上、役職者

レベルⅣ・Ⅴでは専門分野において役割モデルがとれ、管理的視点をもって看護活動を実践する能力の開発と向上を目的に、年2回の研修を実施した。延べ参加人数は36名であった。参加者の準備状態に差があり、効果的な研修内容の企画に苦慮した。対象者の焦点化が課題となった。

【全体研修】参加者344名

全体研修として、褥瘡対策チームと協同で皮膚・排泄ケア研修を年6回、外部研修・学会参加者による伝達講習会を年2回実施した。

皮膚・排泄ケア研修は、正確な皮膚・褥瘡の評価ができる能力の開発と向上を目的にブレーデンスケールとDESIGN-Rについてそれぞれ3回ずつ研修を行った。参加者は合計288名であった。

伝達講習会は救急領域から慢性期領域まで幅広く10題の発表を2日間に分けて行った。参加者は合計56名であった。

【看護研究教育】

＜発表数：院内発表　レベルⅢ：29件、レベルⅣ 10件、レベルⅤ 8件、院外発表10件＞

看護部教育担当者会における看護研究班は、各ラダーレベルに応じて看護研究研修を企画実施し上記件数を発表した。ラダー評価や日頃の看護実践の学びを深め、課題解決に結びつけていただくために看護研究を進めてきた。昨年度より、レベルⅢにおいては、従来の文献検討からケーススタディに変更し、臨床の中で疑問に感じていること

や困難な件など看護上の諸問題を見出し、自身の看護の振り返りをすることで課題を見出し、今後の看護実践に応用できるよう研修企画運営した。また、ラダーⅣ・Ⅴレベルにおいては、実践の場での課題を明確にし、研究の視点をもって考えることができるよう課題解決に取り組むことや検証に役立てることができるような研修を実施した。看護研究においては、ラダーに関係なく苦手意識が強く、各病棟の教育委員や所属長がフォローしているが、時間的な縛りも多く、研究をまとめていく上で個人の負担が多いことが更に負担を感じる要因とも言える。そのような状況を改善し、今後も看護研究への取り組みを前向きに実施できる環境を整えていきたい。

【まとめ】

クリニカルラダーを導入して5年の月日が経過した。レベルに応じた教育を実施してきたが、対象者のレベルを評価する物差しが卒後年数に依存する現状である。しかし、産休・育休・病欠、個人の能力を含めると一概に卒後年数では測れない。そこで、クリニカルラダーのステップアップ基準を見直す必要がある。2019年度はステップアップするための基準と評価システムを構築する。

［文責：飯村もと子］

【業務実績】
資格取得状況

認定資格等	人　数	前年度増減	認定資格等	人　数	前年度増減
看護教員養成講習会	6	0	介護支援専門員（ケアマネジャー）	20	1
認定看護管理者：セカンドレベル	5	2	消化器内視鏡技師	10	0
認定看護管理者：ファーストレベル	30	2	呼吸療法認定師	4	0
認定看護師（摂食・嚥下障害）	1	0	医療安全管理者等研修修了者	4	0
認定看護師（糖尿病）	1	0	臨床指導者講習会修了者	46	2
認定看護師（救急）	1	0	人工心臓管理技師認定士	1	0
認定看護師（感染管理）	1	0	糖尿病療養指導師	1	0
認定看護師（緩和ケア）	1	0	DMAT 資格	3	1
特定行為にかかわる看護師	1	0	AMAT 資格	6	2
回復期リハビリテーション看護認定者	2	0			

2019年3月31日現在

実習受け入れ実績表（病棟別）

病　　棟	学　　校　　名	実　習　科　目　名	時　　期	受入人数	延べ人数
2号棟3階	アール医療福祉専門学校	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	5月～7月	7	36
	アール医療福祉専門学校	基礎看護学実習	11月	2	
	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	6月･1月～2月	7	
	県立岩瀬高校専攻科	老年看護学実習	2月	4	
	東京衛生学園専門学校	老年看護学実習	7月	2	
	東京衛生学園専門学校	統合実習	10月	2	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ	9月	*	
	マロニエ医療福祉専門学校	基礎看護学実習	12月	2	
	水戸看護福祉専門学校	成人看護学実習	12月	2	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－３	12月	4	
1号棟2階	東京衛生学園専門学校	成人看護学実習	5月	2	27
	東京衛生学園専門学校	老年看護学実習	7月	2	
	東京衛生学園専門学校	統合実習	10月	2	
	東京衛生学園専門学校	基礎看護学実習	11月	2	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	2	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ	9月	*	
	水戸看護福祉専門学校	基礎看護学実習	9月	1	
	水戸看護福祉専門学校	成人看護学実習	12月	1	
	アール医療福祉専門学校	基礎看護学実習	11月	3	
	マロニエ医療福祉専門学校	統合実習	11月	2	
	マロニエ医療福祉専門学校	基礎看護学実習	12月	2	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－３	12月	4	
	県立岩瀬高校専攻科	老年看護学実習	2月	4	
2号棟4階	東京衛生学園専門学校	成人看護学実習	5月	1	18
	東京衛生学園専門学校	老年看護学実習	7月	2	
	東京衛生学園専門学校	統合実習	10月	2	
	アール医療福祉専門学校	基礎看護学実習	11月	4	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ	9月	*	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－３	12月	4	
	水戸看護福祉専門学校	老年看護学実習	3月	1	

2号棟5階	県立岩瀬高校専攻科	統合実習	5月	4	21
	県立岩瀬高校専攻科	老年看護学実習	2月	4	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	水戸看護福祉専門学校	基礎看護学実習	9月	2	
	水戸看護福祉専門学校	老年看護学実習	3月	2	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	9月･10月･11月	5	
S棟3階西	県立岩瀬高校専攻科	統合実習	5月･6月	7	35
	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	1月～2月	4	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	9月･10月･11月	16	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
S棟3階東	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	5月	4	30
	県立岩瀬高校専攻科	統合実習	5月	3	
	アール医療福祉専門学校	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	5月～7月	7	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	つくば国際大学	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	10月～11月	8	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ	9月	＊	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
S棟4階西	マロニエ医療福祉専門学校	成人看護学実習	5月	2	33
	アール医療福祉専門学校	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	5月～7月	8	
	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	5月　1月	7	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	つくば国際大学	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	10月～11月	4	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ	9月	＊	
S棟4階東	東京衛生学園専門学校	成人看護学実習	5月	2	40
	県立岩瀬高校専攻科	統合実習	6月	7	
	県立岩瀬高校専攻科	老年看護学実習	2月	4	
	筑波大学	統合実習	7月	2	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	9月･10月･11月	16	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	5	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
S棟5階西	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	6月　7月　1月	12	36
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	9月･10月･11月	16	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
S棟5階東	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	5月　7月	8	38
	県立岩瀬高校専攻科	統合実習	6月	4	
	マロニエ医療福祉専門学校	老年看護学実習	6月	2	
	つくば国際大学	統合実習	8月～9月	4	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	9月･10月･11月	16	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
訪問看護	茨城県きぬ看護専門学校	在宅看護論実習	4月～10月	16	44
	つくば国際大学	在宅看護論実習	5月～8月	12	
	東京衛生学園専門学校	在宅看護論実習	8月	4	
	マロニエ医療福祉専門学校	在宅看護論実習	11月	4	
	筑波大学	在宅看護論実習	11月～2月	8	
ケアセンター	つくば国際大学	在宅看護論実習	5月～8月	36	36
				合計人数	394

＊筑波大学看護学生全体講習会

非常勤講師派遣状況

講　師	内　　容	依　　頼　　元	開催年月
宮澤久美子	看護の統合と実践（看護管理）	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2019.1.12～2.9
飯島　洋子	人体と看護・疾病と看護（消化器）		2018.9.7～11.2
小林　朋子	看護の統合と実践（医療安全）		2019.1.12～2.9
別所　早美	人体と看護・疾病と看護（乳房）		2019.1.22～1.29
星　　豪人	看護の統合と実践（国際看護）		2018.4.12～5.2
	看護の統合と実践（災害看護）		2018.4.12～5.2
	急性期看護論	文京学院大学看護科	2018.7.11
星　　典子	看護の基本となる技術Ⅱ（感染予防技術）	茨城県結城看護専門学校	2018.4.19～5.24
野口　里美	成人看護学援助論Ⅴ（血液造血器）		2018.9.11～10.16
下村　真一	成人看護学援助論Ⅱ(循環器)		2018.5.16～6.21
	循環器疾患看護第2章	土浦医師会附属准看護学院	2018.12.11～2019.1.15
木内　亮子	内分泌・代謝疾患看護第2章		2018.8.22～10.15
本澤　和紀	脳神経疾患看護第2章		2019.1.11～2.1
大和田道代	耳鼻咽喉疾患看護第2章		2019.1.8～1.22
瀬能　直子	血液・造血器疾患看護第2章		2019.1.29～2.12

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
小林　朋子	予期せぬ死亡をどう抽出するか？－チェックシート導入による報告体制の構築－	第20回日本医療マネジメント学会学術集会	札幌	2018.6.8・9（2日間）
田崎　美佳	生検検体の取り扱いに関する内視鏡技師の取り組み －新型容器の導入とその成果－			
鶴見　幸子	転倒転落対策ワーキング・グループの活動報告　－転倒防止 DVD を作成して－			
星　　豪人	小学校から救命教育を広げるために －茨城 PUSH 活動報告－	第20回日本救急看護学会学術集会	和歌山県	2018.10.18～10.20（3日間）
	小学校教諭が児童に行う心肺蘇生教育の現状と課題－ PUSH コースを用いて－	第21回日本臨床救急医学会	名古屋	2018.5.31～6.2（3日間）
木内　亮子	インスリン注射を要する高齢者糖尿病の療養指導－注射の自己管理を余儀なくされた患者との関わりを通しての一考察－	第49回日本看護学会慢性期学会学術集会	静岡県	2018.9.27・28（2日間）
	カンバセーションマップを用いた外来糖尿病教室活性化に向けての取り組み －合併症マップと食事療法の疑似体験を通して楽しく学ぶを考える－	第6回日本糖尿病療養指導士学術集会	京都	2018.7.28・29（2日間）
櫻井江利子	全日本病院協会の大規模災害訓練に情報共有ツール DSST を活用して	第60回全日本病院学会	東京	2018.10.6・7（2日間）
藤田　羊子	退院支援に対するスタッフの意識調査 －退院調整困難事例を通して見えてきたもの－	平成30年度茨城県看護研究学会	茨城県	2018.12.19
矢口　真理	地域包括ケア病棟におけるレスパイト患者受入れの課題 －シームレス看護の重要性－	第10回地域連携PEGの会	つくば国際会議場	2019.1.12

【座長・インストラクター等】

氏　　名	依　頼　元	内　　容	開催場所	開催日
小林　朋子	回復期リハビリテーション病棟協会　第33 回研究大会	座長：セッション12-7チーム医療	千葉県	2019.2.22

木内　亮子	第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	座長：血糖トレンド世代にFlash Glucose Monitorring Systemの有効性と活用法	茨城県立県民文化センター	2018.9.23・24
星　　豪人	第14回日本クリティカル看護学会学術集会	座長：口演：08群 その他	東京	2018.6.30～7.1
古澤　則子	上妻小学校	インストラクター：上妻小学校PUSH（教職員）	上妻小学校	2018.7.30
櫻井江利子	医療法人仁愛会　水海道厚生病院　病院長　河合伸念	インストラクター：第1回水海道厚生病院ICLSコース講習会	水海道厚生	2019.3.17
	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会　会長　河野元嗣	インストラクター：第27回つくば・常総ICLSコース	筑波記念病院	2018.11.8
	沼崎小学校	インストラクター：沼崎小学校PUSH（教職員）	沼崎小学校	2018.8.24
	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会　会長　河野元嗣	インストラクター：第17回きぬ外傷セミナー	きぬ看護専門学校	2018.7.7
	筑波大学付属病院長　原晃	インストラクター：第11回筑波大学病院ICLSコース	筑波大学	2018.6.23
田口　京子	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会　会長　河野元嗣	インストラクター：第26回つくば・常総ICLSコース	きぬ看護専門学校	2018.9.2
	筑波大学付属病院長　原晃	インストラクター：第11回筑波大学病院ICLSコース	筑波大学	2018.6.23
	今鹿島小学校	インストラクター：今鹿島小学校PUSH（教職員・児童）	今鹿島小学校	2018.6.11
	並木小学校	インストラクター：並木小学校PUSH（教職員）	並木小学校	2018.7.9
岡野　麻由	総合病院水戸協同病院　JMECCディレクター　外山昌弘	インストラクター：第7回水戸協同病院－JMECCコース	総合病院水戸協同病院	2018.11.24
	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会　会長　河野元嗣	インストラクター：第27回つくば・常総ICLSコース	筑波記念病院	2018.11.8
吉葉　瑛子	茨城PUSH	インストラクター：平成30年度PUSH指導者要請講習会	筑波記念病院	2018.5.12～13

【救護派遣状況】

救　護　者	開　催　名	依　頼　元	開催場所	開催日
吉葉　瑛子	筑波山御座替際	筑波山神社	筑波山神社	2018.11.1
櫻井江利子				2018.4.1
古澤　則子	まつりつくば2018	NPO法人市民のための健康・医療ネットワーク理事長　松崎静	研究学園駅周辺	2018.8.26
太西沙弥香				2018.8.25
遠藤　育恵	リレーフォーライフジャパン2018	リレーフォーライフジャパン茨城実行委員会実行委員長　星田弘司	つくば市研究学園駅前公園	2018.5.19
森　　純子	つくば市近隣球技大会（野球）	つくば市近隣球技大会長 つくば市教育委員会　教育長　門脇厚司	さくらや球場	2018.8.20
山本　宣広			茎崎野球場	
星　　豪人			谷田部野球場	
中根登志子			さくらや球場	2018.8.21
保土山耕平			茎崎野球場	
田口　京子			さくらや球場	2018.8.23
山形　裕樹			茎崎野球場	
別所　早美			さくらや球場	2018.8.24
佐々木美保子	つくば市近隣球技大会（サッカー）		セキショウスタジアム	2019.2.2
岡野　麻由			大穂中学校	
大信田　孝			吾妻中学校	
相賀　理衣			茗溪学園中学校	
長谷川　恵			秀峰筑波義務教育学校	

大内　昭子	つくば市近隣球技大会（ソフトテニス）	つくば市近隣球技大会長 つくば市教育委員会　教育長　門脇厚司	筑波北部公園	2019.2.16
中根登志子				2019.2.17
宮澤久美子	つくば市近隣球技大会（バレーボール）		旧筑波西中学校	2019.2.23
鶴見　幸子			秀峰筑波義務教育学校	
大和田加代子			旧筑波西中学校	2019.3.16
別所　早美			旧筑波東中学校	
宮澤久美子	つくば市近隣球技大会（バスケットバール）		豊里中学校	2019.3.17
鶴見　幸子			大穂中学校	
斎藤　陽子			桜中学校	
鏑木　優希			春日学園	
猪瀬　里美			豊里中学校	2019.3.21

薬　剤　部

【総括】

1．2018 年度の実績報告

1）薬剤部 27 名体制をとるための人材確保

リクルートセンターと協力して優秀な新卒薬剤師を早期に６名を確保したが、２名が国家試験不合格となり、４名の入局に留まった。

2）病棟薬剤業務実施加算の維持

マンパワー不足（マイナス７名）のなか、自動アンプル払出し装置を活用して病棟薬剤業務に係る時間を捻出し、病棟薬剤業務実施加算は取り下げることなく維持できた。

3）早期に実戦配備可能な人材を育成するための新人薬剤師教育プログラムの実践

新人薬剤師教育プログラムに従って計画的な教育を行い、漏れなく業務全般の基本的事項を習得させた。本教育は新人薬剤師１名に経験３年以上のチューターが１名ついてマンツーマンで実施した。その結果、従来の教育方法に比して早期に実践配備が可能となった。

2．2019 年度の課題・目標

1）病院専従薬剤師 27 名体制の構築

本年度もリクルートセンターと協力して優秀な新卒薬剤師（４名程度）を早期に確保してゆく。

2）電子カルテ導入と業務の効率化

電子カルテ導入を機に、従来の手書き業務を見直して、業務の効率化を図る。具体的には、処方監査の部分での手書き処理、処方箋の個人ファイル管理などを電子化する。７月に更新予定の自動錠剤分包機の機能をフルに活用して、一包化調剤に係る時間の効率化を図る。

3）新人薬剤師教育プログラムの実践と２年目以降の薬剤師教育

前年度から実施した新人教育プログラムを見直して、さらに充実した内容で教育を行う。１年ですべての項目を詰め込むのではなく、２年目以降も継続して段階的に知識、技術を習得できるようにする。

チューター制度に加えて、２年目の薬剤師がサブチューターとして付き、漏れのない教育を目指す。

4）残業時間の減少と有給休暇の取得促進

残業時間を 15％減少させる。60 時間／月の人数はゼロにする。有給休暇５日の取得をさせる。

これらの環境を整備するために、業務の効率化を促進する。

［文責：垣内祥宏］

【業務実績】

	入院処方箋枚数	抗癌剤無菌調製件数（入院）	抗癌剤無菌調製件数（外来）	薬剤管理指導(Ⅰ) 件数（380 点）	薬剤管理指導(Ⅱ) 件数（325 点）	退院時薬剤管理指導件数（90 点）	無菌製剤処理料算定件数（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）
2017年度	71,209	2,056	1,059	1,674	8,573	2,315	4,912	9,659
2018年度	69,579	2,025	1,233	1,984	6,667	2,119	3,923	9,883

	薬剤管理指導料Ⅱ（380 点）	薬剤管理指導料Ⅰ（325 点）	退院時薬剤管理指導料（90 点）	無菌製剤処理料（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）	合計
2017年度	¥6,361,200	¥27,862,250	¥2,083,500	¥2,300,000	¥9,659,000	¥48,265,950
2018年度	¥7,539,200	¥21,667,750	¥1,907,100	¥2,051,150	¥9,883,000	¥43,048,200

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
垣内祥宏、緑川拓也、渥美弘美、池澤和人	他職種業務の見学・体験を組み込んだ新人薬剤師教育の有用性	第19回日本医療マネージメント学会　茨城県支部学術集会	つくば	2018.11
垣内祥宏、緑川拓也、渥美弘美	チーム医療を指向した新人薬剤師教育	第28回日本医療薬学会	神戸	2018.11

放　射　線　部

【総括】

1．2018 年度の実績報告

4 月に診療放射線技師 1 名の入職で診療放射線技師 26 名（内 1 名育児休暇取得）、臨床検査技師 2 名（非常勤 1 名を含む）体制で、筑波記念病院、筑波総合クリニック、THP（つくばトータルヘルスプラザ）にて CT、MRI、超音波、マンモグラフィ、消化管造影、単純 X 線、核医学、巡回検診（胸部、胃部）の画像診断検査を行った。また、頭部・腹部血管造影、心臓カテーテル、ステントグラフト内挿術の治療にも携わった。

年間検査数では心臓 CT は前年度より約 16%増加した。THP では乳がん検診枠を増やし乳房超音波検査数は 7%増加した。筑波総合クリニックにおいては単純 X 線検査の増加により長い待ち時間が発生していたが、単純 X 線撮影における DR(デジタルラジオグラフィ）システムの導入と、デジタル X 線透視装置の更新により、約半分に短縮された。

技師の教育においては部署内で様々な勉強会を行った。若手勉強会（6 回）、MRI 勉強会（12 回）、乳房検査（マンモグラフィ・超音波）勉強会（12 回）、臨床検査部と合同で腹部超音波勉強会（3 回）を定期的に開催し、知識および技術のレベルアップに努めた。他部署にも研修会を依頼し、看護部からは「救急対応の基本」、リハビリテーション部からは「患者移乗時の介助方法」、医事課からは「診療報酬」の研修を受け、放射線部に関わる広い知識を得ることができた。新人教育では教育担当の技師が年間計画を基に進捗状況を確認しながら、当初の目標通り 1 年で当直業務ができるように教育できた。今年度新たに取得した認定資格は X 線 CT 専門認定技師 2 名、肺がん CT 検診認定技師 1 名、磁気共鳴専門技術者 1 名 であった。

2．2019 年度の課題・目標

病院 CT 装置の更新にあたり 5 月にスペクトラル CT 装置が導入され、各診療科の医師に向け、新しい技術を周知するための説明会を開催する。また、筑波総合クリニックに導入したデジタル X 線透視装置のトモシンセシス（断層撮影）を活用し、診断に役立てるようにする。THP では引き続き乳がん検診および肺がん CT 検診の枠を増やし、地域のがん検診を担う役割を果たす。また、技師一人一人が各種認定資格の取得を目指し、専門性の高い検査に対応できる知識と技術を習得する。今後も部署内の勉強会および他部署との連携による研修会を継続して開催し、画像診断の読影補助業務への取り組みを強化させ、チーム医療の推進を図る。

［文責：吉原　桂］

【業務実績】

筑波記念病院（2018.4 ～ 2019.3）

	CT	MRI	超音波	血管造影	心臓カテーテル／アブレーション	単純 X 線撮影	マンモグラフィー	核医学
2017 年度	12,133	4,562	3,967	96	556/85	47,170	5,105	331
2018 年度	11,510	4,616	3,989	90	556/91	47,098	5,209	379

筑波総合クリニック（2018.4 ～ 2019.3）

	CT	MRI	単純 X 線撮影	骨密度
2017 年度	6,526	3,842	19,689	964
2018 年度	6,901	3,845	20,800	884

つくばトータルヘルスプラザ（2018.4 ～ 2019.3）

	施設内での健診		巡回検診	
	胸部	胃部	胸部	胃部
2017 年度	22,536	13,602	11,605	2,486
2018 年度	23,373	13,802	12,071	2,567

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
伊元　裕貴	放射線業務におけるジェンダーについての取り組み	第38回　放友会	筑波メディカルセンター病院　TMCホール	2018.5.15
神宮　仁一	椎骨動脈解離	第8回　読影アシスタント研究会	筑波メディカルセンター病院　TMCホール	2018.11.8
根本　幸一	DWIのシーケンス	第12回フィリップスユーザーミーティング　Gyro ibaraki	水戸済生会総合病院5F丹野ホール	2018.11.10

リハビリテーション部

【総括】

リハビリテーション（以下、リハ）部では新卒職員32名（理学療法士19名、作業療法士10名、言語聴覚士2名、義肢装具士1名）、中途採用の理学療法士1名、言語聴覚士1名を迎え、常勤リハ専門職242名（理学療法士155名、作業療法士63名、言語聴覚士24名）、非常勤リハ専門職3名（理学療法士1名、作業療法士2名）の計245名、2018年4月に副主任6名が主任に、一般職6名が副主任に昇進し、役職者として部長1名、科長4名、係長5名、主任18名、副主任9名の体制でスタートした。常勤リハ専門職161名（理学療法士105名、作業療法37名、言語聴覚士19名）を病院の入院部門および外来部門に配置した。2018年11月に言語聴覚士1名を中途採用し、一般職2名が副主任に昇進、医療法人恵仁会筑波中央病院へ理学療法士3名、作業療法士1名が出向となった。2019年1月に筑波中央病院へ言語聴覚士1名が出向となった。2018年度の退職者は常勤27名（理学療法士16名、作業療法士6名、言語聴覚士5名）であった。2019年度は4月から新卒職員27名（理学療法士16名、作業療法士10名、言語聴覚士1名）が入職見込みである。

リハ実施患者の延べ件数は前年度より入院は1.5％増、外来は9.1％増であった。リハ新規指示患者件数は前年度より入院は2.9％増、外来は25.2％増であった。リハ実施単位数は入院、外来及び訪問の合計において前年度より5.1％増であった。勤務する常勤のリハ専門職の職員数は前年度より11名増加し、業務に従事したリハ専門職の延べ出勤日数は前年度より4.5％増であった。今年度も昨年度に引き続き医療の質を維持しつつ診療実績の向上に努め、セラピスト1人あたりの1日あたりの診療実施単位数を前年度より0.7％増となった。

その他に2015年度に再構築し、2016年度から導入した臨床研修体制は3年が経過し、当初の目標どおりに部内で定めた臨床領域の経験を完了した職員を多く養成することができた。今後、教育目標の達成状況、業務効率などの観点から評価し、改善を重ねていく。

2019年度の課題は前年度に引き続き医療サービスの質の向上及び業務効率の向上である。医療サービスの質の向上のため、各種研修（課題別研修、職種別研修、部門研修）を企画・実践することで人材を育成し、その効果を検証することに取り組んでいくとともに、優秀な人材を獲得するためリクルート活動に一層注力していく。更にデータベースの構築に取り組むとともに、臨床研究を推進していく。業務効率の向上については、医療サービスの質を担保しつつ、業務改善を図り、専ら診療に従事するセラピストについては1人あたり1日あたりの診療実施単位数の目標を17単位以上として取り組んでいく。更に、部内における各種諸課題の改善のため、ワーキンググループを組織し、働きやすい職場環境の醸成を図っていく。

より質の高い十分なリハ医療サービスを多くの患者へ提供するために、職員にとって魅力ある職場となることを念頭におきつつ、業務のシステムの見直し及び人材育成のための教育・研修体制の充実を図っていく。

［文責：金森毅繁］

【業務実績】　※（　）内の数値は2017年度の実績

リハビリテーション実施患者延べ件数（件）

入院	125,709（123,856）
外来	16,808（15,400）
訪問	283（237）

リハビリテーション新規指示患者件数（件）

入院	リハビリテーション	4,127（4,012）
	内、理学療法	3,731（3,715）
	内、作業療法	2,186（2,215）
	内、言語聴覚療法	1,114（1,187）
外来	リハビリテーション	492（393）
	内、理学療法	230（238）
	内、作業療法	223（139）
	内、言語聴覚療法	117（123）

リハビリテーション実施単位数（単位）

入院	一般病棟	313,242（300,426）
	回復期リハ病棟	144,909（139,243）
	医療療養・地域包括ケア病棟	78,330（71,481）
外来		50,170（47,315）
訪問		552（488）
計		587,203（558,953）

スタッフ年間延べ出勤日数（人）

入院	一般病棟	21,922（21,026）
	回復期リハ病棟	9,466（9,374）
	医療療養・地域包括ケア病棟	5,697（5,048）
外来		3,314（3,204）
計		40,398（38,652）

患者１人あたりのリハビリテーション実施単位数（単位 / 人）

入院	一般病棟	4.5（4.5）
	回復期リハ病棟	7.9（7.9）
	医療療養・地域包括ケア病棟	3.0（2.9）
外来		3.0（3.1）
訪問		2.0（2.1）
計		4.5（4.5）

その他の業務実績（件）

嚥下造影検査	53（47）
嚥下内視鏡検査	45（47）
リハビリテーション総合実施計画書 入院 外来	 4,796（5,132） 1,898（1,888）
退院前訪問指導	322（358）
退院時リハ指導	2,130（1,953）

支援

内　　容	支　援　先	場　所	実　績
セラピスト学校訪問事業	伊奈特別支援学校	伊奈	年６回
	つくば特別支援学校	つくば	年18回
	土浦特別支援学校	土浦	年４回
心身障害児を対象とした機能訓練事業	常総市児童デイサービスセンター	常総市	年24回

【書籍】

著　者	書　籍　名	監修・編集	担当項目	出　版　社	ページ	発行年月
飯野　和徳	回復期・生活期の脳卒中理学療法	甲田宗嗣、手塚純一、斉藤秀之	回復期における機能回復④−上肢	三輪書店	59-66	2018
山倉　敏之	臨床作業療法　Vol.15 No.3	青梅社	新人教育におけるクリニカル・クラークシップの活用	青梅社	231-235	2018

【学会発表等】

発　表　者	演　題　名	学　会　名	開　催　地	開催年月
影山　優香	誤嚥性肺炎の発症を契機に重度嚥下障害を呈した症例 −ムース食から常食までの経過−	第19回 日本言語聴覚学会	富山県富山市	2018.6
金森　毅繁	当院における理学療法士の経験年数と転倒・転落事例の発生率の傾向について	第20回 日本医療マネジメント学会学術総会	北海道札幌市	2018.6
中根　昌城	急性大動脈解離StanfordAに対するラッピング術が術後の歩行能力に及ぼす影響 〜上行大動脈置換術との比較〜	第24回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会	神奈川県横浜市	2018.7
永野　莉央	PTB 免荷装具の足板変位量に対するウェアラブル計測デバイスの製作	第25回 日本義肢装具士協会学術大会	北海道札幌市	2018.7
山口　　愛	「活動・参加」に焦点を当てた通所リハビリの取り組み　〜利用者・家族へのアンケートから現状を振り返る〜	第38回 全国デイ・ケア研究大会2018 i n つくば	つくば市	2018.7
高橋　佑子	個別リハビリから小集団リハビリへの変更による身体機能への影響	第38回 全国デイ・ケア研究大会2018 in つくば	つくば市	2018.7
椎名　真希	活動と参加に特化した新たな取り組み 〜主体的な生活を目指して〜	第38回 全国デイ・ケア研究大会2018 in つくば	つくば市	2018.7
田中　直樹	歩行感覚提示装置による歩行運動が維持期脳卒中患者の筋活動に与える影響	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	福岡県福岡市	2018.7
成島　慈典	パンフレットによる説明が脳卒中患者の作業を使った治療・介入の理解や受け入れに与える影響	第5回日本臨床作業療法学会学術大会	福岡県福岡市	2018.7
古澤　　弦	当施設における多職種協働によるロコモ予防教室の現状と課題筆頭演者	第59回日本人間ドック学会	新潟県新潟市	2018.8
松本　静流	静脈性梗塞を起こし、補足運動野の障害が生じた症例を経験して	つくばブロック症例検討会発表	つくば市	2018.9
末竹　真将	多臓器不全を合併した重症心不全患者が、基本動作自立、自宅退院が可能となった一症例	つくば地域リハ・セミナー 第27回症例検討会	つくば市	2018.9
新井　明香	軽度片麻痺患者の体重免荷トレッドミル歩行練習を実施して	つくば地域リハ・セミナー 第27回症例検討会	つくば市	2018.9
村上　信人	腰部脊柱管狭窄症を既往にもつ脳梗塞片麻痺患者に対する理学療法を経験して	つくば地域リハ・セミナー 第27回症例検討会	つくば市	2018.9
岩船　　傑	水痘帯状疱疹ウイルスによる舌咽・迷走神経麻痺に伴う嚥下障害に対してバルーン法を施行した１例	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	宮城県仙台市	2018.9
成島　慈典	作業を使った治療・介入の効果を説明するパンフレットの作業療法士にとっての有用性	第52回日本作業療法学会	愛知県名古屋市	2018.9
稲葉　篤志	重度の要介護状態の利用者への在宅支援 〜家族の関わりに着目して〜	リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018	鳥取県米子市	2018.10
宮﨑　　仁	当院リハビリテーションスタッフにおけるインフルエンザ罹患者の傾向	リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018	鳥取県米子市	2018.10

川﨑　篤志	重症大動脈弁狭窄症を有する慢性心不全患者に対して運動療法を実施した症例	第22回 茨城県理学療法士学会	阿見町	2018.10
野口　　舞	無菌室管理下において運動耐容能が向上した急性骨髄性白血病の一症	日本理学療法士学会 第1回がん理学療法部門研究会	静岡県沼津市	2018.10
藤原　祐介	骨盤運動パターンの中間域での静止性収縮がジャンプ動作へ及ぼす即時的効果	第19回 日本PNF学会学術集会	東京都八王子市	2018.11
秋山　　大	当院リハビリテーション部におけるインシデント事例再現によるリスクマネジメント研修の取り組み	第19回 日本医療マネジメント学会　茨城県支部学術集会	つくば市	2018.11
江尻　聡美	場面緘黙児の作業療法経過と共に変化する課題と治療的関わりについての一考察	第7回 日本小児診療多職種研究会	福岡県北九州市	2018.11
古澤　　弦	疾病予防施設における医療保険診療後の運動継続を目的とした心疾患患者の受け入れ経験	日本心臓リハビリテーション学会　第3回関東甲信越支部地方会	東京都品川区	2018.11
石塚　瑞穂	重度のコミュニケーション障害を呈した症例に対し、孫と発話でのやり取りが行える様になった１例	つくば土浦地域・牛久龍ヶ崎地域・守谷地域合同症例検討	つくば市	2018.12
蓮沼　理沙	不十分なコミュニケーションが転倒の一因となった失語症患者を経験して	茨城県言語聴覚士会主催　つくば土浦・牛久龍ケ崎・守谷地域　合同症例検討会	つくば市	2018.12
菅井　静香	多系統萎縮症による重度構音障害に対する構音練習の効果とコミュニケーション方法の検討	平成30年度 茨城県言語聴覚士会 主催 つくば土浦・牛久龍ヶ崎・守谷地域 合同症例検討会	つくば市	2018.12
加藤　隆三	ペルオキシソーム病による四肢・体幹の失調症状を認めている男児の理学療法介入の検討	茨城県地域リハビリテーション専門職員（初任者）研修事業　小児領域Cコース	つくば市	2019.2
足立　健太	当院回復期リハビリテーション病棟退院後の患者が抱える悩みに関する調査	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	千葉県浦安市	2019.2
高橋　広樹	独歩自立した回復遅延型ギランバレー症候群の一症例	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	千葉県浦安市	2019.2
関口　恵理	麻痺側上肢を日常生活に参加させるため行動変容を促した一事例	第11回茨城県作業療法学会	阿見町	2019.2
綿引　智生	デイケアでの小集団リハビリの導入～自己効力感の向上を図り、自主練習の定着に繋がった症例～	第11回茨城県作業療法学会	阿見町	2019.2
小石川由梨	重症例のギラン・バレー症候群患者の在宅復帰～退院後の家事への従事に着目して～	第12回茨城県作業療法学会	阿見町	2019.2
佐藤　愛理	僧帽弁閉鎖不全症による開胸術後患者に対する畑仕事の再獲得	第22回茨城県理学療法士学会	阿見町	2019.2
大好　崇史	終末期でのリハ専門職による治療プログラムの実態調査～当院療養病棟の現状～	第6回慢性期リハビリテーション学会	埼玉県川越市	2019.2
諸橋　美月	注意機能障害に焦点を当て、主婦としての役割の再獲得に至った症例	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
鈴木　史織	段階付けた家族指導により介護負担が軽減し、自宅退院に至った症例	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
知久　慶之	逆方向連鎖化の技法により起き上がり動作の獲得を図った片麻痺患者の一症例	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
古内　花恋	左片麻痺患者の排泄動作獲得を目指して介入を行った症例	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
鈴木　詩織	終末期がん患者の在宅復帰に向けた作業療法を経験して～環境調整が重要となった一症例～	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
笠井　亮汰	脳梗塞により左手指機能が低下した症例に対して Motor Activity Log を併用し日常生活で左手の参加頻度が増加し機能改善が見られた症例	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3

岡部　朱里	右片麻痺患者あの利き手再獲得と復職に向けた取り組みを経験して	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
末竹　真将	運動耐容能が低下した高齢心不全患者に対する運動処方～バランス練習に注目して～	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
松井　祐樹	術後の疼痛により ADL 場面での左上肢の参加が制限された左化膿性腱鞘炎の一事例～除痛と人的環境に着目して～	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3
岡山　陽樹	左変形性股関節症に対する左 THA 術後、外旋筋群に着目し関節可動域改善を図った症例	つくば地域リハ・セミナー 第28回症例検討会	つくば市	2019.3

【講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学　会　名	開　催　地	開催年月
金森　毅繁	臨床現指導者の視点からみた学生とは	つくば国際大学　臨床指導Ⅰ	土浦市	2018.7
大原　裕子	発声や口の動きを引き出す指導について	茨城県立伊奈特別支援学校 全体研修会	伊奈町	2018.8
金森　毅繁	社会人（臨床実習生）としての心構え	つくば国際大学　臨床指導Ⅱ	土浦市	2018.11
大原　裕子	会話のメカニズム～発語の不明瞭さに着目して～	茨城県立土浦特別支援学校 講演会	土浦市	2018.12
山倉　敏之	すぐ使える臨床教育（OJT）のコツ	平成30年度クリニカル・クラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会第3回研修会	つくば市	2018.12
小野　亮介	腰痛予防の実際	平成30年度腰痛予防対策講習会	水戸市	2018.12
渡邉　　崇	当法人における訪問リハビリテーションの展開	第10回地域連携PEGの会	つくば市	2019.1
金森　毅繁	病院・施設における臨床実習の実際～筑波記念病院の取組み～	平成30年度茨城県臨床実習指導者研修会	土浦市	2019.2

臨 床 検 査 科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

当院の臨床検査科は、生理検査部門（常勤 20 名 + 非常勤 1 名）、健診部門（常勤 4 名 + 非常勤 4 名）、輸血検査部門（常勤 3 名）、病理・細胞診検査部門（常勤 3 名）、検体検査部門（常勤 10 名 + 非常勤事務 1 名）の 5 部門に分かれている。但し、検体検査部門は委託しているため、当院の人員には含まれない。

今年度は、4 月に新人 3 名が入職し増員となった。

2．業務実績

生理検査部門は、心電図や UCG、下肢エコーなどの検査項目が前年度よりも増加した。SAS も増加しており、2018 年 7 月から PSG（終夜睡眠ポリソムノグラフィー）検査を病院で実施することになった。SPP（皮膚潅流圧）検査は 2019 年 3 月に新規導入した。また、外来の頚動脈エコー検査を 2019 年 2 月から検査科で実施することになった。

輸血検査部門は、新人 1 名が加わり常勤 3 名となった。輸血業務全般の見直しを図り、より安全な輸血が行われるようになった。

病理・細胞診部門では、細胞診検査を全て院内実施（健診分も含む）している。最近の遺伝子検査では病理検体を使用することが多く、検体の管理業務が増加した。また、骨髄穿刺時の標本作成、染色、結果の管理などにも関与している。

検体検査部門では、検査委託先を変更して 7 年が経過しメンバー 1 名の移動があった。院内実施項目の増減はなかった。

今年度から検体検査・病理検査分野に加えて生理検査・輸血検査の各分野に分かれて医療安全の観点から院内研修会を行った。今後、毎年継続して実施する予定である。

3．教育実績

新人が入職したため、新人教育プログラムに沿った教育を行った。また、月 1 回の科内ミーティングで勉強会を実施し、年度末の科内発表会は 4 回目を迎え、6 グループの発表があった。

専門領域の認定資格取得は継続中であるが、今年度の取得者はなかった。

4．2019 年度の目標

＊一人最低でも一認定を目標に、血管診療技師、超音波検査士、細胞検査士、輸血認定技師など各種認定資格の更なる取得を目指す。

＊検体検査委託業者と伴に、新規検査項目の検討、実施を行う。

＊生理検査は、臨床からの新規検査導入の要望が多いため、可能な限り対応を行っていく。

＊CISの更新に伴い、まだシステム化されていない病理部門の検討・導入を図る。

［文責：大森美恵子］

【業務実績】

生理検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
外来 ECG	920	985	987	1,028	977	934	1,063	951	924	962	894	970	11,595	966
入院 ECG	231	261	269	256	236	188	281	282	241	226	233	229	2,933	244
24ECG	102	102	113	102	75	97	146	116	116	120	136	130	1,355	113
TET	2	1	3	2	2	2	3	6	2	4	1	3	31	3
UCG	451	512	528	523	442	400	543	511	465	493	490	483	5,841	487
下肢エコー	42	65	64	65	64	56	79	76	57	65	75	62	770	64
ABI	76	103	89	93	91	97	90	106	88	121	99	87	1,140	95
肺活量	185	200	192	193	180	173	223	229	196	217	207	194	2,389	199
脳波※	26	19	25	26	34	20	27	25	26	28	25	18	299	25
伝速	5	8	10	10	8	3	9	5	6	7	7	8	86	7
術中ＭＥＰ･ABR	6	5	5	6	5	3	5	3	2	5	2	3	50	4
SAS	18	30	18	37	35	49	71	49	47	59	41	65	519	43
UBT	71	91	63	50	44	46	60	64	52	59	47	66	713	59
CGM	14	6	2	3	3	4	11	7	6	5	4	6	71	6
呼気 NO	30	21	20	20	22	29	27	35	28	42	38	38	350	29
純音聴力	317	330	342	268	282	264	307	271	253	268	250	286	3,438	287
ティンパノ	14	16	7	13	10	6	15	7	10	10	10	10	128	11

※つくばトータルヘルスプラザのドック件数を含む

病理・細胞診検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
病理	297	304	334	332	367	311	388	347	353	297	302	321	3,953	329
細胞診※	677	749	1,053	959	903	1,012	1,122	997	997	867	866	948	11,150	929
骨髄穿刺	26	27	27	21	33	23	37	28	27	27	23	25	324	27

※つくばトータルヘルスプラザのドック・健診件数を含む

■は 2017 年度より増加した検査項目

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
和田　英明	心尖部肥大型心筋症に心室瘤を合併し心室内血栓の形成に至った一例	第46回　日本血管外科学会	山形	2018.5
和田　英明	RFA 翌日超音波検査時に対側ヒラメ静脈 DVT を発見した一例	第38回　日本静脈学会総会	横須賀	2018.6
和田　英明	Iliac Compression を伴う腸骨動脈瘤と下大静脈まで進展する DVT を超音波検査で一期的に診断できた一例	第59回　日本脈管学会総会	広島	2018.10
和田　英明	もしかして VTE? 静脈血栓塞栓症発見のコツと診断・検査のテクニック	地域医療連携公開講座	筑波記念病院	2018.10

臨 床 工 学 科

【総括】

1．実績報告

技術提供でここに挙げてあるものは手術室・心カテ室などにおける手術・治療・検査である。開心術と人工心肺の件数および心臓カテーテル治療の件数は昨年と比して変わりはなかったが大動脈ステントの件数は若干減少した。

生命維持管理装置では人工呼吸器の管理日数は昨年と比して変わりはないが、昨年同様に非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の使用は増えている。

血液浄化業務では、血液透析（HD）は昨年と比して変わりはないが、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）は若干減少した。

ペースメーカー・ICD などの植込みデバイスに関しては若干の増加傾向が伺える。

医療機器点検では患者監視装置の点検件数が増えているが、これは病棟全体での使用頻度が増加したため新たに患者監視装置を増設したことによる。

2．課題・目標

Ｓ棟病棟や各病棟の運用が安定してきたことに伴い、患者監視装置やその他の医療機器の使用頻度が増加傾向にあるため、病棟への医療機器貸出しを効率よく運用して管理していく。また各病棟で使用される医療機器を中心とした勉強会を開催し、使用する医療機器の安全管理に努めることを目標にしていく。

各々が全ての業務を遂行できることを目標とし、また、各種資格取得に取り組んでいく。

［文責：助川　節］

【業務実績】

技術提供

	2017 年	2018 年
開心術	88 件	89 件
人工心肺	85 件	88 件
大動脈ステント	99 件	64 件
自己血回収	295 件	322 件
心臓カテーテル検査	611 件	521 件
緊急心カテ※	82 件	80 件
ＰＣＩ※	194 件	198 件
緊急ＰＣＩ※	41 件	48 件
アブレーション	83 件	88 件
ペースメーカ植込み	26 件	31 件
ICD 植込み	5 件	8 件
CRT 植込み	0 件	2 件

※ PCI は心臓カテーテル検査に含む
※（緊急）は上位項目に含む

血液浄化施行実績

	2017 年	2018 年
血液透析	81 件	98 件
持続緩徐式血液濾過透析	90 件	47 件
血液浄化	36 件	20 件
合計	207 件	165 件

生命維持管理装置管理実績

	2017 年	2018 年
IABP	15 件 /55 日	14 件 /66 日
PCPS	4 件 /4 日	5 件 /18 日
人工呼吸器	2,773 日	2,568 日
ペースメーカー	468 件	467 件
ICD	98 件	112 件
CRT	38 件	36 件

医療機器点検

	2017 年	2018 年
シリンジポンプ	211 台	202 台
輸液ポンプ	324 台	325 台
除細動装置	4,560 台	4,343 台
人工透析装置	581 台	582 台
患者監視装置	8,903 台	9,644 台

勉強会

開　催　日	項　　目	内　　容
４月	NO 吸入装置	アイノフロー勉強会
４月	患者監視装置	DS-8007、DS-8400、DS-8900 勉強会
５月　計２回	人工呼吸器	SERVO-i、V60 勉強会
６月	人工呼吸器	SERVO-i 勉強会
７月	ペースメーカー	リードレスペースメーカー講習会
１０月	3D マッピング装置	CARTO3 講習会
１０月	人工呼吸器	Ｖ 60 勉強会
１０月	人工呼吸器	SERVO-i 勉強会
１月　計３回	輸液ポンプ	TE-28N 勉強会
１月	人工呼吸器	V60 勉強会
２月	3D マッピング装置	CARTO3 講習会
３月　計２回	NO 吸入装置	アイノフロー勉強会
３月	IABP 装置	CardioSave、CS100 勉強会
３月	ペースメーカー	植込みペースメーカー講習会

資格取得

体外循環技術認定士	２名
補助人工心臓管理認定士	１名
呼吸療法認定士	２名
臨床ＭＥ専門認定士	１名

栄　養　科

【総括】

1．2018 年度の実績報告

（ア）体制

栄養科では、中途採用の管理栄養士 1 名と育児休暇明けの管理栄養士 1 名を加えた常勤管理栄養士計 8 名で、役職者として主任 1 名、主任代理 1 名の体制でスタートした。

日本栄養士会で 2013 年 9 月に策定された【病院管理栄養士ビジョン－概念図】では、栄養部門のあるべき姿として、部門長 1 名、教育担当者 1 名、給食管理業務統括 1 名、地域栄養ケアステーション担当者 1 名、外来栄養指導担当者 1 ～ 2 名、そして 50 床（1 病棟）に管理栄養士 1 名の常駐を掲げている。当院栄養科では今年度も栄養科体制の強化に努めてきた。

平成 30 年度の診療報酬改定で、回復期リハビリテーション病棟への専任管理栄養士の配置が努力義務となった。このため、4 月から管理栄養士 1 名を専任として配置した。次に、診療報酬算定が可能な管理栄養士が行っていた診療報酬不請求業務の給食管理や書類作成の業務を、既に入っている給食委託会社へ完全委託できないかアプローチしたが契約上の問題が浮上し困難を極めた。このため、委託契約を変更することと、当院で栄養士 1 名（給食管理業務全般、事務のみ担当）を採用することとを費用対効果で比較した結果、7 月に中途の事務栄養士の採用に至った。また、これまで筑波記念会の全管理栄養士は病院に配属され、給食管理、病棟栄養管理、CL 外来、THP、ケアセンターなどを持ちまわりで担当していたが、今年度より各部門を独立させた。8 月に中途の管理栄養士を 1 名を採用し、CL 外来に専任として配置した。また、2019 年 1 月に特別養護老人ホーム フィオーレに管理栄養士 1 名を配置した。

2018 年度の退職者は常勤管理栄養士 1 名であった。2019 年度には常勤管理栄養士 3 名が入職見込みである。

（イ）体制業務

栄養食事指導の延べ件数は前年度より入院は 21％増､外来は 43％増であった。栄養サポートチーム（Nutrition Support Team: 以下 NST）加算は、総回診件数は前年度比 60％増、加算件数は 42％増であった。

今年度は、栄養食事指導の増加に対する取り組みに加え、NST 業務にも勢力的に参画した。NST 加算算定の増加には、NST 専任職種のマンパワー増加が必要であり、内外に働きかけてその増加に努めた。

2．2019 年度の目標

【病院管理栄養士ビジョン－概念図】に沿った栄養部門のあるべき姿を求めていく。50 床（1 病棟）に管理栄養士 1 名の常駐体制の構築などを推し進めるべく、引き続き部門体制の強化に努める。そして、栄養食事指導件数の安定化および NST 件数増加を目指していく。

人材育成のための教育・研修体制を整え、また職員にとって魅力ある職場環境も実現していく。

［文責：松浦史生］

【業務実績】

栄養指導件数推移

		2016 年度	2017 年度	2018 年度
病　院（入院）	個人栄養指導	629	1,079	1,295
	集団栄養指導	26	39	66
クリニック（外来）	個人栄養指導	590	643	954
	集団栄養指導	48	75	70
合　　計		1,293	1,836	2,385

栄養サポートチーム加算件数推移

	2016 年度	2017 年度	2018 年度
加算	23	368	525
非加算（回復期・療養・地域包括）	249	177	351
合　　計	272	545	876

資格取得状況

認定資格等	人数	前年度増減
糖尿病療養指導士	3	＋ 1
栄養サポートチーム担当者	3	＋ 1
栄養サポートチーム専門療法士	1	＋ 1
静脈経腸栄養（TNT － D）管理栄養士	2	＋ 1
栄養経営士	2	

2019 年 3 月 31 日現在

実習受け入れ実績

月	学校名	人数	実習領域
8、10	常磐大学	4	臨床栄養臨地実習

講師派遣

講師	内容	依頼元	開催年月
矢部義人	病院栄養士について	東京医療保健大学	2018.8

【論文】

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
矢部義人、池澤和人、松浦史生、小關　剛、小關　迪	内視鏡的粘膜下層剥離術における管理栄養士の取り組み（原著論文）	全日本病院雑誌	29巻 1 号	103	2018.10.7

医 療 相 談 室

【総括】

各病棟に退院支援看護師と社会福祉士を配置し、退院支援業務や療養中の社会的・経済的問題の解決に向けた支援を行った。医師や病棟看護師、セラピストと協働し入院早期から支援を要する患者を抽出し、ケアマネージャーや介護保険サービス事業所と連携し在宅医療への移行を支援する体制を整えている。また、地域の医療機関や居宅介護支援事業所に地域包括ケア病棟への入院案内を継続したことで、地域包括ケア病棟への入院相談件数は増加した。前年度の方針として定めた対人援助のスキルアップ向上を目指し、MSW カンファレンスを新たに開催し、入院中の患者の相談業務に対し、医療相談室内での情報共有や対応が難航したケースを振り返り、問題解決に向けたケース検討を行った。退院支援看護師と社会福祉士との学習会や事例検討、業務改善を目的とした退院支援ミーティングや院内の在宅部門との情報共有を目的とした在宅部門連携カンファレンスの開催を継続した。医療相談室内で行う月１回の勉強会の継続、院内外の研修に積極的に参加し、対人援助技術の向上に努めた。

【2019 年度方針】

入院早期から退院直後まで切れ目のない支援を継続する。より効率的に業務を遂行するために個々人のスキルアップを図り、院内研修や職能団体が開催する研修会への参加、地域ケア会議への参加、勉強会の継続を行っていく。また、地域の医療機関や介護保険サービス事業所等との連携を強化し、医療介護連携における役割を果たしていく。

［文責：佐藤直子］

【業務実績】

MSW･退院支援看護師介入による退院者数

総　数		1,016
内　訳	自　宅	636
	施　設	184
	転　院	39
	死　亡	157

入退院支援加算

総　数		1,048
内　訳	急性期	597
	回復期	187
	地域包括	236
	療　養	31

相談件数

総　数		6,148
内　訳	退院支援	4,851
	社会資源	24
	医療費相談	17
	転院相談	845
	外来・院外	401

入院依頼数

		総　数	受　入	断　り	キャンセル
総　数		490	136	122	232
内　訳	急性期	25	12	8	5
	回復期	271	54	53	164
	地域包括	127	61	19	47
	療　養	67	9	42	16

臨　床　心　理

【総括】

1．2018 年度の実績報告

2018 年度は常勤臨床心理士 2 名での運営となった。業務内容は昨年同様、心理検査業務･カウンセリング業務･メンタルヘルス業務が中心であった。

心理検査は全実施件数は 2017 年度の総数とほぼ横ばいであった。しかしながら 2 名体制でこなしている数であることから 1 名あたりの業務数は 4 割増となり以前に比べ格段に増加した。前年度増加傾向にあった精神科依頼の人格検査ならびに成人の知能検査の実施数は再び減少した。もの忘れ外来依頼による認知症検査の ADAS 実施数は前年度増加した流れが継続、小児科依頼による小児の発達及び知能検査は 30％増となった。当院小児リハビリテーション担当者との情報共有・検討の機会も前年度同様、協力関係を維持してきた。認知症評価の改訂版長谷川式簡易知能評価スケールや MMSE、かなひろいテストの外来依頼による実施数も今年度も多く計上されている。これら認知検査の依頼はこれまでに比べ様々な科から依頼があり、精神科・もの忘れ外来・脳外科に限らず広く活用されるようになってきたといえよう。

カウンセリング業務は前年度に比べ業績が 2 倍となった。これは前年度東京カウンセリングセンターからの業務委託を再開して相談件数が増えた流れを維持できたことによるものと思われる。病棟でのカウンセリング依頼は今年度は見られず、病棟での業務には至らなかった。

メンタルヘルス業務では「こころの相談室だより」を隔月で発行した。初回の相談者数やコンサルテーションの数は前年度に比べ減少しているが、継続相談の数は増加しており、メンタル不調の職員からのニーズはとらえられていたと思われる。研修依頼は前年度に比べ増加しており、新たにリクルートセンターからの試験対策講習の依頼に対応する等、多岐にわたって活用される結果となった。

2．2019 年度の課題・目標

2018 年度は 2 名体制という構造的に不十分な体制にあったなか、業績を維持・増加させることができ、目標は十分に達成できたと思われる。また、年度目標としていた『各科の依頼に幅広く応える』との点についても依頼元が幅広くなってきたことで、ある程度達成できたと思われる。しかしながら精神科からの依頼数が減少していることから、改めて緊密な連携を図っていくことが目標のひとつとなろう。次年度は育児休暇を取得していた職員 1 名が復帰することから、さらなる実績数増加と、院内での臨床心理業務を広く知ってもらうことを目標とし、引き続き各業務の質的向上を目指して各自のスキルアップを図っていきたい。また、公認心理師法が施行され、社会的には心理師活用のニーズの高まりが考えられることから、総合病院における心理師の職務について改めて検討し、業務の拡充を探っていきたい。

［ 文責：高橋晶子 ］

【業務実績】

心理検査

病院・クリニック	発達及び知能検査	WAIS- Ⅲ成人知能検査	0
		WISC- Ⅳ知能検査	46
		全訂版田中ビネー知能検査	3
		新版 K 式発達検査	51
	人格検査	ロールシャッハテスト	3
		バウムテスト	2
		SCT	1
		HTP	1
	認知機能検査 その他の心理検査	ADAS	347
		改訂版長谷川式簡易知能評価スケール	31
		MMSE	29
		かなひろいテスト	23
		FAB	3
		BGT	1
	小計		541
病棟	ADAS		1
	改訂版長谷川式簡易知能評価スケール		3
	MMSE		3
	かなひろいテスト		1
	小計		8
THP	神経心理検査		510
	小計		510
合計			1,059

カウンセリング

THP	初回	12
	継続	56
	小計	68
病棟	初回	0
	継続	0
	小計	0
合計		68

メンタルヘルス

相談対応	初回	5
	継続	12
	コンサルテーション	3
	小計	20
その他	研修会打ち合わせなど	4
	こころの相談室だより発行	6
	小計	10
合計		30

院内研修

講　　師	研修名（依頼元）	開催年月
石澤美幸	新入職員研修「ストレスマネジメント」（総務部）	2018.4
石澤美幸	「ストレスマネジメント研修ラダーⅠ」（看護部）	2018.9
石澤美幸	「ストレスマネジメント研修ラダーⅡ」（看護部）	2018.11
石澤美幸	「国試対策講義：心理検査について」（リクルートセンター）	2018.12
石澤美幸	「ストレスマネジメント研修ラダーⅢ」（看護部）	2019.1

地域医療連携部

【総括】

2018年度も引き続き、各医療機関より紹介依頼があった時点で、状態・緊急性・診療科などを確認して、救急対応や各診療科でスムーズな受け入れ対応が出来た。また形成外科が2018年度より常勤医師が勤務し、いままで対応が難しかった症例も受け入れ可能となった。今年度も、紹介件数を目標の月平均200件を維持することが出来た。

逆紹介に関しても、紹介患者を出来るだけ紹介元へ戻すことや、地域の医療機関へ逆紹介する事を徹底した。

2018年度は登録医を7名増員。

来年度も引き続き病院全体で、紹介件数・逆紹介件数増加の取り組みや、登録医の増員に取り組んで行きたい。

［文責：生井共和］

【業務実績】

地域医療支援病院 紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
85.5	86.7	90.3	80.2	80.5	89.7	86.0	83.3	85.5	84.4	84.6	85.1	85.2

地域医療支援病院 逆紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
34.5	53.9	41.9	63.8	57.9	56.0	51.0	58.3	69.5	54.7	80.3	82.5	58.7

紹介患者数（筑波記念病院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
初診紹介数	125	147	176	135	136	136	154	149	148	158	152	138	1,754	146
（外　来）	65	79	107	76	81	85	94	87	81	86	74	75	990	83
（入　院）	60	68	69	59	55	51	60	62	67	72	78	63	764	64
再診紹介数	49	53	60	53	57	58	66	51	59	58	45	54	663	55
（外　来）	32	23	26	35	26	28	36	22	32	26	16	22	324	27
（入　院）	17	30	34	18	31	30	30	29	27	32	29	32	339	28
紹介状総数	174	200	236	188	193	194	220	200	207	216	197	192	2,417	201

逆紹介算定数（筑波記念病院）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
193	213	221	203	212	210	243	208	240	197	203	230	2,573	214.4

【当院登録医医療機関一覧】

つくば市医師会（順不同）

あおやぎ医院	渋谷クリニック	ほりかわクリニック
あつしクリニック	清水こどもクリニック	緑クリニック医院
天貝整形外科クリニック	仁愛内科医院	みなのクリニック内科呼吸器科
ありま皮膚科クリニック	杉谷メディカルクリニック	南大通りクリニック
飯岡医院	すぎやま内科皮フ科クリニック	宮川内科・胃腸科医院
飯田医院	鈴木医院	宮本内科クリニック
飯村医院	高田眼科	みらい平クリニック
池野医院	高田整形外科	山中医院
いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	竹園ファミリークリニック	渡辺内科クリニック
うえの整形外科	つくば在宅クリニック	ちかつクリニック
江原こどもクリニック	つくばシティアすえひろ眼科	青空ホームクリニック
太田医院	つくばシティア内科クリニック	せせらぎ在宅クリニック
大野医院	つくばシティアビル皮フ科	さくら内科・呼吸器内科クリニック
大穂皮膚科クリニック	つくばセンタークリニック	清宮眼科皮膚科
大見クリニック	つくばねむりとこころのクリニック	サンシャイン・クリニック
岡野整形外科・内科クリニック	寺崎クリニック	おいかわ腎泌尿器クリニック
小倉医院	東郷医院	小池医院
小田内科クリニック	東光台内科胃腸科クリニック	こまつ内科クリニック
樫村内科消化器科クリニック	中川医院	紫峰の森クリニック
かつらぎクリニック	長沢眼科	つくばシティアビル整形外科
加納医院	なかざわクリニック	つくばすずらん皮膚科クリニック
川井クリニック	成島クリニック	つくば辻クリニック
菊池内科クリニック	二の宮越智クリニック	つくば白亜クリニック
木村クリニック	根本クリニック	並木内科クリニック
倉田内科クリニック	のぐち内科クリニック	沼尻整形外科・胃腸科
研究学園いいむら耳鼻咽喉科	のむら耳鼻咽喉科クリニック	谷田部診療所
研究学園クリニック	花クリニック　南大通り	ユーカリ医院
こだま在宅クリニック	林医院	ユークリニック
コミュニティクリニック・つくば	ひがし外科内科医院	渡辺医院
坂根Ｍクリニック	ヒルトップクリニック	きくち呼吸器内科クリニック
酒寄医院	広瀬医院	竹園眼科
さとうクリニック	広瀬クリニック	おがわ内科
柴原医院	北條医院	耳鼻咽喉科　大橋医院
耳鼻咽喉科　学園の森クリニック	ホームオン・クリニックつくば	竹園皮膚科医院

真壁医師会（順不同）

明野中央医院	長倉内科・外科クリニック	あけの元気館前クリニック
阿部田医院	なかはら整形外科医院	ひろせ内科クリニック
飯田医院	中山医院	下館胃腸科医院
大塚医院	仁保内科医院	直江医院
落合医院	根本医院	しもだて中央クリニック
介護老人保健施設マカベシルバートピア	野中医院	さいとう整形外科
かくらいクリニック	秀村医院	おおもり幸町クリニック
菊山医院	古橋医院	のかおい整形外科
菊山胃腸科外科医院	古橋耳鼻咽喉科医院	加納内科胃腸科
ごとうクリニック	松岡整形外科	すわクリニック
坂入医院	三津山クリニック	池田整形外科
砂沼湖畔クリニック	宮本医院	新井内科医院
下條整形外科	山口医院	玉野医院

田崎内科医院	横瀬医院	とみざわハートクリニック
つくし野クリニック	渡辺クリニック	佐々木整形外科
とやまクリニック	浅田医院	

きぬ医師会（順不同）

荒川医院	中島医科歯科クリニック	海老原医院
いとう内科胃腸科医院	ふなやま内科クリニック	河村胃腸科外科医院
大塚クリニック	横瀬医院	存身堂医院
岡本医院	高橋医院	天王前クリニック
桜橋クリニック	寺田医院	松﨑医院
しば医院	安達医院	横田医院
耳鼻咽喉科染野クリニック	石塚医院	須澤内科糖尿病医院
常総メディカル	岩本医院	
鈴木内科整形外科医院	植竹医院	

（2019 年 3 月 31 日現在）

委　　員　　会

病院運営管理会議

Ⅰ．目的及び機能

病院事業の施策、計画及び運営に関することについて協議、検討を行う。また、医療安全・感染対策・医師研修等の確保と推進を図ることを目的とし、それらに係る委員会を統括する。

Ⅱ．構成員

◎議長：長澤 俊郎 院長（管理者）

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	10	臨床工学科	1
看護部	1	医療安全管理室	1
薬剤部	1	感染管理室	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	7
臨床検査科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．他 活動内容

・医療安全管理委員会、医療安全対策チーム部会の報告
・感染対策管理委員会、感染症対策チーム部会の報告
・臨床研修管理委員会の報告
・病院機能改善管理委員会の報告
・診療情報等の検討

［文責：長澤 俊郎］

医療安全管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院管理者の諮問に基づき設置され、医療安全管理に係わる問題点、緊急的検討事項など、医療安全に係わる政策を管理者に答申し、意思決定を行い、医療安全体制の確保、及び推進を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤 和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	1
医療安全管理室	1	臨床工学科	1
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

＊2018 年度における医療安全対策チームからの報告、および審議内容は下記の通りであった。

2018.4.25	「筑波記念病院における医療に係る安全管理指針」 「医療安全管理委員会」「医療安全対策チーム」 「転倒転落対策 WG」の規約について承認 2 号棟の離棟防止対策について協議
2018.5.30	同姓同名患者の誤認対策について協議
2018.6.27	挿管患者の MRI 検査実施基準について承認
2018.7.25	転倒予防に関する注意喚起を入院案内に追加することについて承認
2018.8.29	売店の履物の種類について協議
2018.9.26	医療安全室長が専任の医療安全管理者就任について承認 転倒予防の日の啓蒙活動内容について承認 「看護師のワンショット禁止薬一覧」一部改定承認
2018.10.31	1 号棟 3 階と S 棟 3 階の通路の段差に関するインシデントについて協議 2018 年度上半期インシデント・アクシデント集計報告
2018.11.28	壊死性抗癌剤投与時の輸液ポンプの使用について協議 採用外医薬品に関する取扱について協議
2018.12.26	保健所立ち入り調査結果報告
2019.1.31	「2018 年度医療安全推進習慣」（11 月 25 日～ 12 月 31 日）の結果報告
2019.2.27	各部署の業務改善について報告
2019.3.28	各部署の業務改善について報告 次年度「医療安全対策チーム」「転倒転落対策 WG」の年間計画及び目標について承認 「医療事故防止マニュアル」一部改訂および修正について承認

［文責：池澤 和人］

医療安全対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会規約に基づき、医療安全対策チームを設置し、医療安全管理委員会の総括の基、各部署で発生した問題事象の報告の報告、および現場に即したより実効性のある医療安全対策が実施できる体制の整備に努め、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：池澤 和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査科	2
医療安全管理室	1	臨床工学科	1
看護部	19	栄養科	1
薬剤部	1	医療相談室	1
放射線部	1	本部・事務部	1
リハビリテーション部	4		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回（１月はインフルエンザ流行のため資料のみ配布とした）

Ⅳ．協議事項

＊2018 年度における医療安全対策チームお報告および審議内容は以下の通りであった。

2018.4.24	３月のインシデント・アクシデント報告 「医療安全対策チーム」「転倒転落対策 WG」の規約について協議、承認 2017 年度インシデント・アクシデント集計結果報告 医療安全対策ニュースの発行「撮影部位の誤認防止」（担当：放射線部） 院内安全ラウンド（場所：救急センター・放射線科・Ｓ３東）
2018.5.22	４月のインシデント・アクシデント報告 医療安全業務改善計画立案 医療安全対策ニュースの発行 「防犯対策再確認」（担当：２－３） 院内安全ラウンド（場所：検査科・Ｓ５西・Ｓ４西）
2018.6.26	５月のインシデント・アクシデント協議 医療安全対策ニュース発行「尿道カテーテルの貫通事例」（担当：Ｓ５西） 院内安全ラウンド（場所：リハビリ・総合外来・１－２）
2018.7.24	６月のインシデント・アクシデント協議 誤認防止対策について再周知 転倒予防に関する注意喚起を入院案内に追加を協議 医療安全対策ニュース発行「高カロリー輸液の開通確認」（担当：薬剤部） 院内安全ラウンド（場所：薬剤部・ICU・S４東）
2018.8.28	７月のインシデント・アクシデント協議 売店のスリッパ廃止、靴の種類の協議 医療安全対策ニュース発行「検体の患者ラベル確認の遵守（担当：Ｓ３東） 院内安全ラウンド（場所：２－３・Ｓ５東・Ｓ３西）
2018.9.25	８月のインシデント・アクシデント協議 「看護師のワンショット禁止薬一覧」一部改定承認を得て運用開始 「転倒予防 DVD」入院病棟に配布、運用開始 医療安全対策ニュース発行「モニター管理」（担当：臨床工学課） 院内安全ラウンド（場所：CL・２－４・２－５）
2018.10.24	９月のインシデント・アクシデント協議 2018 年度上半期インシデント・アクシデント集計報告 各部署業務改善中間報告 医療安全対策ニュース発行「一患者一トレーの遵守」（担当：Ｓ４西） 院内安全ラウンド（場所：OR・検査部・救急センター）
2018.11.27	１０月のインシデント・アクシデント協議 医療安全対策ニュース発行「職員の情報共有」（担当：医事課） 院内安全ラウンド（場所：放射線部・Ｓ５西・１－２）
2018.12.25	１１月のインシデント・アクシデント協議 保健所立ち入り調査結果報告 医療安全対策ニュース発行「ダブルチェック法の再確認」（担当：救急センター） 院内安全ラウンド（場所：Ｓ３東・総合外来・Ｓ４西） 車椅子の安全ベルトの正しい装着をラウンド項目に追加

2019.1.22	１２月のインシデント・アクシデント協議 2018 年度医療安全推進習慣（11 月 25 日～ 12 月 31 日）　結果報告 医療安全対策ニュース発行「離床センサーの正しい使用方法」（担当：２－５）
2019.2.27	１月のインシデント・アクシデント協議 各部署から医療安全業務改善の結果報告 医療安全対策ニュース発行「正しいシーティング（担当：リハビリテーション部） 院内安全ラウンド（場所：Ｓ５東・UCU・２－３）
2019.3.26	２月のインシデント・アクシデント協議 各部署から医療安全業務改善の結果報告 医療安全対策ニュース発行「あいさつについて」（担当：THP） 次年度「医療安全対策チーム」「転倒転落対策 WG」年間計画、目標について協議、承認

Ⅴ．他 活動内容

１．職員に対する研修

実　施　日	対　象	内　容	参加人数
4 月 4 日	多職種　新入職者	医療安全講話	80 人
5 月 24 日	多職種　新入職者	インシデント報告システムについて	113 人
（ライブ） 6 月 11 日、14 日、18 日、21 日 （DVD） 6 月 18 日～ 21 日、25 日	全職員	前期医療安全管理研修 「戦わずして勝とう」 「2018 年度の目標」	1185 人 受講率 99.1%
7 月 12 日	多職種 新入職者	酸素療法について	71 人
8 月 6 日、7 日、9 日	多職種	抗癌剤の曝露対策	81 人
9 月 6 日	多職種　新入職者	正しい検体採取と取り扱い	38 人
10 月 26 日	多職種	放射線の基礎知識	57 人
10月29日	放射線技師	安全な移乗動作	12 人
11 月 8 日	多職種	生理検査室・輸血室に関する基礎知識	44 人
（ライブ） 12 月 10 日、14 日、18 日 21 日 （DVD） 12 月 17 日～ 21 日	全職員	後期医療安全管理研修 「医療行動学を学ぶ」～ナッジとは～	1132 人 受講率 98.7%

２．広報活動

◯公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療安全情報のポスター掲示および配布　12 回

◯厚生労働省　医療事故再発に向けた提言のポスター掲示および冊子配布

７月「気管切開術後早期の気管切開チューブ逸脱・迷入に係る死亡事例の分析」（提言第４号）

10月「腹腔鏡下胆嚢摘出術に係る死亡事例の分析」（提言第５号）

「栄養剤投与目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析」（提言第６号）

２月「一般・療養病棟における NPPV 及び TPPV に係る死亡事例の分析」（提言第７号）

◯緊急医療安全対策ニュース発行　6 回

６月「ダブルチェック法について」

「がん見落としニュース報道」

７月「爪切りの管理について」

８月「点滴の界面活性剤混入ニュース報道」

９月「思い込みによる誤認防止」

３月「高カロリー輸液の投与経路について」

◯医療安全推進習慣　ポスター掲示による啓蒙活動
期間：１１月２５日～１２月３１日
テーマ「患者誤認・事象レベル３ｂ事例報告ゼロ」

３．学会発表

第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会　　2018 年 6 月 8 日
会場：ロイトン札幌
タイトル「予期せぬ死亡」をどう抽出するか？
（チェックシート導入による報告体制の構築）
◯小林朋子　池澤和人　飯村もと子　長澤俊郎　小關　剛　小關　迪

［文責：池澤 和人］

転倒転落対策ＷＧ

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会の総括のもと、各部署で発生した転倒転落に関する報告から、現場に即したより実効性のある安全対策が実施できる体制の整備に努め、医療安全対策チームにおいて報告し情報共有することで、再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：太田 和子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	2
医療安全管理室	1	栄養科	1
看護部	7	本部・事務部	1
薬剤部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.4	3 月の転倒転落報告 2017 年度の集計評価報告および協議 「転倒予防 DVD」2 つの病棟で試験視聴開始
2018.5.10	4 月の転倒転落報告 離床センサー「あゆみちゃん」デモ機検討
2018.6.13	5 月の転倒転落報告 10 月 10 日「転倒予防の日」の活動内容について協議
2018.7.11	6 月の転倒転落報告 『転倒予防 DVD』の作成経緯について QC 活動として報告

2018.8.8	7月の転倒転落報告 転倒予防に関する患者・家族への注意喚起を、入院案内に追加 売店のスリッパ廃止。靴の種類について協議
2018.9.12	８月の転倒転落報告 「転倒予防 DVD」入院病棟に配布。入院時オリエンテーションでの視聴開始。 「転倒予防の日」ポスター作成
2018.10.10	9月の転倒転落報告
2018.11.14	10月の転倒転落報告 「転倒予防の日」ポスター掲示報告 売店の靴の種類決定。陳列開始。
2018.12.12	11月の転倒転落報告
2019.1.9	12月の転倒転落報告 車椅子の安全ベルトの正しい装着方法について再周知
2019.2.13	１月の転倒転落報告 転倒転落報告書の書式について協議、修正
2019.3.13	２月の転倒転落報告 次年度年間計画、目標設定

Ⅴ．他 活動内容

１．2018年度の転倒転落件数

報告総数　288件と昨年度と比較し減少している。　転倒転落発生率平均　1.96‰であった。また、転倒転落対策WGメンバーで作成した「転倒予防DVD」を患者・家族に視聴を開始した結果、履物が要因の転倒率が21%から6%に減少した。

２．広報活動

◯10月10日　「転倒予防の日」　ポスター掲示による啓蒙活動

期間：10月1日～10月31日

３．学会発表

第20回日本医療マネジメント学会学術総会　2018年6月8日

会場：ロイトン札幌

タイトル「転倒転落対策WGの活動報告　－転倒予防DVDを作成して－」

◯鶴見幸子　小林朋子　太田和子　池澤和人　長澤俊郎　小關　剛　小關　迪

［文責：太田 和子］

感染対策管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院　管理者の諮問に基づき設置され、感染対策上の問題点、緊急的事項、疫学的集計結果などを検討する委員会である。病院として行うべき感染対策上の政策を管理者に答申する、感染対策に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤 祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	1
医療安全管理室	1	臨床検査科	1
感染管理室	1	本部・事務部	1
看護部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項　※感染対策チーム会議の報告、および審議である

2018.4.25	年度別のアルコール量報告：10.63%増加（前年比） 感染性廃棄物コスト推移の報告 薬剤耐性（AMR）対策と抗菌薬適正使用支援加算の概要（新設 100 点） 抗菌薬適正使用支援チームの規約承認
2018.5.30	感染対策チーム医師の変更（長山医師→福田医師） 沖縄県における麻疹情報提供と当院の抗体価・ワクチン接種状況の報告 麻疹等の診療体制について見直しと検討 5 類感染症（侵襲性肺炎球菌感染症、A 型肝炎）届け出 2 類感染症（結核：排菌なし）届け出 感染症法改定によりマニュアルへの差し替え 感染対策管理委員会、感染対策チーム、感染管理室の規約承認
2018.6.27	2018 年 6 月より抗菌薬適正使用支援チームの算定 感染防止対策加算に係る合同カンファレンスの報告（5 月 29 日、6 月 7 日） 職員のウイルス抗体価の管理について ① 8 月の職員検診で事務職員含む全職員への抗体価測定実施 ②所属長により所属職員の抗体価管理
2018.7.25	感染症件数少ないが、MDRP1 件（入院時検体）検出あり 前期医療安全研修の報告：「CRE について」参加率 99%
2018.8.29	感染症：マルトフィリアの増加あり手指衛生徹底の呼びかけ 鹿児島県での薬剤耐性アシネトバクターアウトブレイク情報提供 抗菌薬使用量の増加報告：重症患者への高用量投与によるもので不適切使用なし 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告（7 月 31 日） 感染管理における組織図の検討
2018.9.26	感染防止対策加算 1 同士（筑波大学附属病院）の相互チェック報告（8 月 28 日、9 月 25 日） 風疹対策：風疹抗体価陰性者 35 名に MR ワクチン接種の報告 インフルエンザ濃厚接触者への抗インフルエンザ薬予防投与の説明書および同意書、運用方法について承認 抗菌薬適正使用支援チームを含む感染管理組織図の承認 抗体価検査結果およびワクチン接種証明書運用の承認
2018.10.31	アルコール消毒薬の管理方法（単回使用への変更）と外部委託者の職業感染対策（感染症、ウイルス抗体価の把握）について検討 感染症マニュアル改定承認（インフルエンザの項目）
2018.11.28	サーベイランス：10 月の感染症、抗菌薬使用量ともに減少 保健所立ち入り報告：指摘事項なし インフルエンザ新規採用薬ゾフルーザの情報提供
2018.12.26	MRSA の増加、MDRP 検出により接触予防策徹底を周知 アンチバイオグラム（薬剤感受性検査）の掲示 後期医療安全研修の報告：「AMR 対策、風疹について」参加率 98%
2019.1.30	インフルエンザアウトブレイク報告（S 棟 5 階西、2 号棟 3 階、2 号棟 5 階） これまでのインフルエンザ対策の評価より湿度管理を行う

2019.2.27	風疹の増加に加え、先天性風疹症候群の報告が1例あり 麻疹診療時の隔離対策としてリフト車での診療と決議された 外来診療に関わる職員に対して3月中のMRワクチン接種が決議された インフルエンザ収束により2号棟玄関の閉鎖を解除とする
2019.3.27	サーベイランス：感染症件数の減少 当院での麻疹疑い患者の診療した経緯と評価の報告（リフト車での診療） 年間針刺しサーベイランス報告：発生件数13件（発生率2.67）

［文責：佐藤 祐二］

感染対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

感染対策管理委員会に基づき設置され、病院運営上日常的な感染症に関わる業務を協議、担当する。所属部署職員への情報伝達、指導的立場となり、感染対策チームの活動は感染対策管理委員会に定期的に報告される。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：佐藤 祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	5	臨床工学科	1
医療安全管理室	1	栄養科	1
看護部	14	本部・事務部	3
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	2	つくばケアセンター	1
臨床検査科	2	委託業者	2

Ⅲ．会議　開催回数

12回

Ⅳ．協議事項

毎月微生物・抗菌薬・手指衛生サーベイランス、環境ラウンドの報告

2018.4.10	年度別のアルコール量報告：10.63%増加（前年比） 感染性廃棄物コスト推移の報告 薬剤耐性（AMR）対策と抗菌薬適正使用支援加算の概要（100点）
2018.5.8	感染対策チーム医師の変更（長山医師→福田医師） 沖縄県における麻疹情報提供 ポケットマニュアルに麻疹等の抗体価、ワクチン接種歴の記載を依頼した 汎発性帯状疱疹の対応のレクチャー 5類感染症（侵襲性肺炎球菌感染症）届け出 感染症法改定によりマニュアルへの差し替え
2018.6.12	6月より抗菌薬適正使用支援チームの算定に伴い活動内容の報告 委員会規約の改定によりマニュアルへの差し替え依頼 （感染対策管理委員会、感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、感染管理室） 前期医療安全管理研修：感染部門「あなたの施設にもCREがやってくる」 職員検診にて麻疹等のウイルス抗体価の実施の案内 5類感染症（A型肝炎）、2類感染症（結核）届け出

2018.7.10	MDRP1 件（入院時検体）検出あり サーベイランス：抗菌薬使用量の減少、アルコール量の増加
2018.8.14	マルトフィリア件数増加により手指衛生の徹底の呼びかけ 鹿児島県での薬剤耐性アシネトバクターアウトブレイク情報提供 抗菌薬使用量の増加報告：重症患者への高用量投与によるもので不適切使用なし
2018.9.11	茨城県において風疹患者報告数増加あり、当院の対策として風疹抗体価陰性者に MR ワクチン接種の実施（9 月 20 日、9 月 21 日） 今シーズンよりインフルエンザの予防投与患者に同意書をとるため協力依頼する
2018.10.9	筑波大学附属病院による当院の評価（加算 1 同士の相互チェック）の報告 全国的にも風疹報告数は増加傾向
2018.11.13	サーベイランス：10 月の感染症、抗菌薬使用量ともに減少 感染症マニュアルへの追加項目 ①麻疹等ワクチン接種のフローチャート　②抗インフルエンザ薬予防投与 インフルエンザ新規採用薬ゾフルーザの情報提供
2018.12.11	MRSA の増加、MDRP 検出により接触予防策徹底の依頼 アンチバイオグラム（薬剤感受性検査）を掲示した バンコマイシン血中濃度採血方法（投与 30 分前）の依頼 保健所立ち入り報告
2019.1.8	ゴミの分別の徹底の呼びかけ（廃プラのゴミに注射針混入事例あり） インフルエンザ流行指数が注意報となったため、12 月 28 日より面会制限を開始した
2019.2.12	1 月は呼吸器系疾患の増加により MRSA、ESBL の増加あり 風疹の増加が続き、先天性風疹症候群の報告が 1 例あり 麻疹報告がつくば市であり、当院での診療体制を再確認した インフルエンザアウトブレイク報告（S 棟 5 階西、2 号棟 3 階、2 号棟 5 階）
2019.3.12	サーベイランス：感染症件数の減少 当院での麻疹疑い患者の診療した経緯と評価の報告（リフト車での診療） 年間針刺しサーベイランス報告：発生件数 13 件（発生率 2.67）

Ⅴ．他 活動内容

1．感染防止対策加算に係る年 4 回の合同カンファレンスへオブザーバーとして参加

開 催 日：6 月 2 日（木）、9 月 1 日（木）、12 月 1 日（木）、3 月 2 日（木）

参加施設：筑波大学付属病院、取手北相馬保険医療センター医師会病院、守谷慶友病院、筑波学園病院

参 加 者：佐藤医師、福田医師、渥美薬剤師、大森検査技師、星感染管理担当者、相馬看護師

2．感染防止対策加算 1 に係る感染防止対策加算２の施設との合同カンファレンス

開 催 日：5 月 29 日（火）、7 月 31 日（火）、10 月 30 日（火）、1 月 29 日（火）

参加施設：大圃病院

参 加 者：佐藤医師、右田医師、福田医師、渥美薬剤師、大森検査技師
星感染管理担当者、相馬看護師、荒木看護師

3．感染防止対策加算地域連携加算に係る相互チェック

連携施設：筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、国立霞ヶ浦医療センター
今年度は筑波大学付属病院との相互チェック（ラウンド）の実施

開 催 日：8 月 28 日（火）、9 月 25 日（火）

4．院内ラウンド

1）ラウンド回数 45 回、ラウンド人数 170 名
今年度よりつくばトータルヘルスプラザ（THP）のラウンドを実施した

2）毎週火曜日　ICT ミーティングにて感染症サーベイランス、抗菌薬適正使用について検討した

5．従業員に対する研修

実　施　日	対　象	内　容	参加人数
2018.4.3	新入職員	感染症対策	120 名
2018.4.6	新入職（研修医）	病院における感染対策の基本	10 名
2018.4.6	新入職員（看護師）	感染予防　現場ですぐに実践するために	60 名
2018.5.17、18	新・中途入職者	血液・体液曝露対策	101 名
2018.6.11、6.14、6.18、6.21 DVD：5 日間	全職員	前期医療安全管理研修：感染部門 耐性菌：CRE について	1,185 名 （受講率 99.1%）
2018.7.12、7.18	看護補助者	耐性菌と環境整備	26 名
2018.8.8、8.9、8.10	リハビリ職員	リハビリにおける感染対策、耐性菌について	220 名
2018.8.27	看護師ラダーⅢ	患者を守る感染対策（医療器具関連）	19 名
2018.10.1、10.22	全職員	N95 マスクフィットテスト体験	46 名
2018.9.21、11.19	全職員	吐物処理方法デモンストレーション	44 名
2018.11.14、11.16、11.20、11.22	リハビリテーション部	インフルエンザにおける対応	160 名
2018.11.8	看護師ラダーⅤ	リーダーシップにおける感染管理	16 名
2018.12.10、12.13、12.17、12.20 DVD：5 日間	全職員	後期医療安全管理研修：感染部門 AMR アクションプラン、風疹	1,132 名 （受講率 8.17%）

6．サーベイランスの実施

厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）の全入院患者部門、検査部門、手術部位感染（SSI）部門、集中治療室（ICU）部門に参加している

7．感染率　（JANIS の定義に基づく）

感染率＝感染症患者数／総入院患者数× 1000

※感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

※総入院患者数＝（新規入院患者数）＋（前月からの継続入院患者数）

	MRSA	MDRP
感染症患者数	20 件	0 件
感染率	1.73%	0%

検出率＝感染症検出患者数／総入院患者数× 1000

※感染症検出患者数＝新規感染症患者数で重複を除く

クロストリジウム・ディフィシルは JANIS 対象病原体でないため保菌を含む検出率とする

	クロストリジウム・ディフィシル
検出患者数	49 件
検出率	4.26%

［文責：佐藤 祐二］

労働安全衛生委員会

Ⅰ．目的及び機能

病院職員の危険又は健康障害を防止するための措置の実現に携わり、労働安全衛生のための教育検討をする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	地域医療連携室	1
看護部	1	臨床心理士	1
薬剤部	1	本部・事務部	4
放射線部	1	つくばトータルヘルスプラザ	2
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1
臨床検査科	1	つくばケアセンター	1
臨床工学科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.13	定例報告、委員会規約・メンバー確認、各部署時間外労働時間について
2018.5.11	定例報告
2018.6.8	定例報告、各部署時間外労働時間について
2018.7.20	定例報告、職員定期健康診断について
2018.8.10	定例報告、職員代表の変更について
2018.9.14	定例報告、時間外労働時間について
2018.10.12	定例報告、良い行動を行った職員への表彰制度について
2018.11.9	定例報告、不審者対応訓練、良い行動を行った職員への表彰制度について
2018.12.6	定例報告、良い行動を行った職員への表彰制度について
2019.1.11	定例報告、優秀職員表彰報告について 職員健康診断について
2019.2.8	定例報告、職員健康診断について
2019.3.8	定例報告、職員健康診断について

［文責：長澤 俊郎］

防火防災管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

人為的原因を含む災害が発生した際に筑波記念会の有する機能を出来る限り発揮し、被災対応、救護対応、後方対応を的確に行う。そのためにマニュアルを作成し訓練の実施などをとおして強化していく。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	本部・事務部	6
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
栄養科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

７回

Ⅳ．協議事項

2018.11.14	消防訓練について、AMAT災害訓練について、 筑波記念グループ災害訓練について
2018.11.29	消防訓練の振り返り、AMAT災害訓練について、 筑波記念グループ災害訓練について
2018.12.19	筑波記念グループ災害訓練について
2019.1.23	筑波記念グループ災害訓練について
2019.2.6	平成30年度全日本病院協会救急災害訓練報告、 筑波記念グループ災害訓練について、今後のスケジュール確認
2019.3.5	筑波記念グループ災害訓練について
2019.3.12	筑波記念グループ災害訓練について

［文責：小關　剛］

臨床研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

臨床研修医の管理及び採用、中断、修了の際の評価等、臨床研修の実施の統括を行う。研修修了に際しては臨床研修医の評価を行い、管理者に対し当該研修医の評価を報告する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
筑波記念病院	12	東京医科大学病院	1
筑波総合クリニック	1	東京医科大学茨城医療センター	1
つくばケアセンター	1	水戸済生会総合病院	1
筑波大学附属病院	1	つくば在宅クリニック	1
JA とりで総合医療センター	1	小豆畑病院	1
福島県立医科大学附属病院	1	茨城県つくば保健所	1
日本医科大学付属病院	1	たいようクリニック（外部委員）	1

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2018.11	2019 年度筑波記念病院総合研修プログラムについて 2019 年度採用マッチング結果について 2018 年度院内教育について（4 月～ 9 月） 2018 年度採用活動について 2019 年度臨床研修医採用者一覧
2019.3	1 年次臨床研修医研修活動報告 2 年次臨床研修医研修活動報告並びに修了判定 2019 年度臨床研修医採用状況 2019 年度臨床研修医採用者一覧（1 年次） 2019 年度臨床研修医一覧（2 年次） 各協力型病院・協力施設からのご意見

［文責：小關　剛］

臨床研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床研修のプログラム、臨床研修医の採用計画、研修過程の評価、臨床研修医の服務等、臨床研修医の研修に関する業務全般を司る。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	18	臨床検査部	1
看護部	1	医療相談室	1
薬剤部	1	本部・事務部	4
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2018.4	オリエンテーションについて 処方勉強会について 2018 年度の病院説明会予定について 臨床研修医の日当直について 臨床研修医の夏休みについて ローテーションについて
2018.5	病院説明会報告 2018 年度採用試験について 内科カンファレンススケジュールについて ハンガリー学生実習について 時間外勤務について

2018.6	病院説明会報告 学生実習報告 メディカルラリーについて
2018.7	処方について 病院説明会報告 ハンガリー学生実習について メディカルラリー参加報告 医師国家試験対策について マッチングスケジュールについて 臨床研修医夏休みについて 剖検について 職員旅行について
2018.8	医師採用試験について 病院実習の受け入れについて 地域医療研修について
2018.9	マッチング登録及び中間公表について 他病院臨床研修プログラムの研修修了者報告 EPOC について 臨床研修運営チーム開催時間について
2018.10	マッチング結果について 茨城県内のマッチング状況について マッチング二次募集について 院内学術集会について プログラム責任者講習会について
2018.11	マッチング二次募集について ローテーションについて 院内学術集会について 茨城県医師臨床研修連絡協議会総会の報告 年末年始勤務体制について
2018.12	年末年始勤務体制について 臨床研修管理委員会について ローテーションについて 院内学術集会成績について 他病院臨床研修プログラムローテーションについて
2019.1	臨床研修管理委員会について 研修科の変更について 他病院臨床研修医の修了・中間評価について 病院説明会について メディカルラリー参加について 筑波記念グループ災害訓練について 2019 年度他病院からのローテーションについて 2020 年度改正ローテーションについて
2019.2	病院説明会報告 臨床研修管理委員会について 臨床研修医修了認定について 臨床研修医の進路について 年間活動報告 2019 年度ローテーションについて 臨床研修医評価票・指導医評価票について
2019.3	病院説明会報告 臨床研修医修了認定について 医師国家試験結果について 2019 年度ローテーションについて 年間スケジュールについて

V．他 活動内容

2018.5.13	マイナビレジデントフェスティバル東京（ベルサール渋谷にて）
2018.6.10	レジキャリフェア東京（ベルサール新宿にて）
2018.6.17	レジナビフェア 2018 東京～専門研修プログラム（東京ビッグサイトにて）

2018.7.14	東京大学病院まるごと探訪フェス 2018（東大病院にて）
2018.7.15	レジナビフェア 2018 東京（東京ビッグサイトにて）
2019.2.17	レジナビフェア 2019 金沢（石川県産業展示館にて）
2019.3.10	レジナビフェアスプリング 2019 東京（東京ビッグサイトにて）
2019.3.17	茨城県臨床研修病院合同説明会（イーアスつくばにて）

［文責：小關　剛］

医療従事者研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内外の医療従事者研修事業の推進を図ることを目的とし、それらに係るチームを統括する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	地域医療連携室	1
看護部	1	本部・事務部	2

Ⅲ．会議　開催回数

2 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.10	地域医療連携公開講座の日程、全体研修の日程について報告。
2018.6.12	地域医療連携公開講座の日程について報告。

［文責：長澤 俊郎］

職員研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

院内全職員を対象とした教育研修活動を検討し実施する。また院内各部門における研修計画の把握と評価を行うことを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査科	1

看護部	1	栄養科	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.10	全体講習について協議
2018.5.8	全体講習について協議
2018.6.12	全体講習について協議
2018.7.10	全体講習について協議
2018.8.14	全体講習について協議
2018.9.11	全体講習について協議
2018.10.9	全体講習について協議 職員対象英会話研修について
2018.11.13	全体講習について協議 職員対象英会話研修について
2019.2.26	全体講習について協議
2019.3.26	全体講習について協議

Ⅴ．他 活動内容

職員対象英会話研修の実施

［文責：長澤 俊郎］

地域医療研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療の中核として地域医療従事者の研修事業を積極的に行い、地域医療従事者の研鑽の場の提供と地域医療の質の向上を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査科	1
看護部	1	栄養科	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.10	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2018.5.8	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2018.6.12	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2018.7.10	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2018.8.14	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2018.9.11	今後の公開講座について、申込み状況報告 開催時刻の変更について
2018.10.9	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2018.11.13	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2019.2.26	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告
2019.3.26	公開講座についての報告協議・参加者向けアンケート報告 今後の公開講座について、申込み状況報告

Ⅴ．他 活動内容

2018 年度 地域医療連携公開講座 12 回開催

［文責：長澤 俊郎］

診 療 管 理 委 員 会

Ⅰ．目的及び機能

医事・地域医療連携に係る情報の共有、評価、分析を行うとともに、各運営チームでの決定事項の報告、情報周知を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	26	臨床工学科	1
看護部	3	栄養科	1
薬剤部	1	ソーシャルワーカー	2
放射線部	1	本部・事務部	9
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1
臨床検査科	1	つくばケアセンター	1

Ⅲ．会議　開催回数

年 12 回

Ⅳ．会議内容

・医事報告
・地域医療連携報告
・地域連携患者サポートセンター報告
・施設基準充足状況報告
・各委員会からの報告

［文責：長澤 俊郎］

救急診療運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域住民が生命の危機に瀕したときや、不慮の怪我や病状悪化により、緊急の対応を要したときに、生命を安心して預けられる病院であるよう、救急患者の受け入れと治療に病院全体で総力を挙げる。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：榎本 強志

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	10	地域医療連携部	2
看護部	3	本部・事務部	4
放射線部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

9 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.9	救急車の受け入について
2018.5.14	めまい患者の受け入れについて
2018.6.11	CPA の受け入れについて
2018.7.9	当直時に手術を行っていた際の対応について
2018.8.13	泌尿器疾患の受け入れについて
2018.9.10	日本語を話せない外国人の受け入れについて
2018.11.12	脳卒中疑い患者の対応について
2019.1.7	満床時の受け入れについて
2019.3.11	非常勤医が担当した場合の受け入れについて

［文責：榎本 強志］

外来診療運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

質の高い医療を提供するために、筑波記念病院と診療上関係することが多い　各施設との連携をスムーズに行う事を目的としている。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	13	筑波総合クリニック	4
看護部	4	つくばケアセンター	3
地域医療連携室	1	本部・事務部	5

Ⅲ．会議　開催回数

年３回

Ⅳ．協議事項

2018.04.25	筑波記念病院と筑波総合クリニック間での受診案内について
2018.05.09	筑波記念病院にて walk-in トリアージ後の診療について
2018.09.19	日勤帯においての四肢外傷患者の診療体制について

［文責：小關　剛］

手術部運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

手術室の円滑な運営ができるよう、関連する事項について論議、検討することを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：田島 啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	12	臨床工学科	1
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

年５回

Ⅳ．協議事項

2018.4.4	手術室改修後の運営について
2018.6.6	手術室改修後の運営状況の確認について
2018.10.3	月別手術件数、手術同意書の書類確認、ＤＶＤ管理について

2018.12.5	年始の手術申し込みの締切り及び手術室稼働について
2019.2.6	翌年度 GW の受け入れ体制、手術室稼働について

［文責：田島 啓一］

ＩＣＵ運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

ＩＣＵでは内科系外科系を問わず、生命の危機的状況にある様々な患者を収容し、24 時間体制で高度集中治療及び看護を提供している。そのため常に高度集中医療及び看護を提供できるよう適切に運用されているか検討することを目的としている。

委員会

Ⅱ．構成員

◎リーダー：末松 義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	7	臨床工学科	1
看護部	3	本部・事務部	2

Ⅲ．会議　開催回数

年５回

Ⅳ．協議事項

2018.5.14	ＩＣＵ内の教育について
2018.7. 9	ＩＣＵ空調管理について
2018.9.10	ＩＣＵ内フットポンプ導入について
2018.11.12	ＩＣＵベッドコントロールについて
2019.3.11	ＩＣＵ看護必要度について

Ⅴ．他　活動内

ＩＣＵの環境整備・新規器材導入の検討・ＩＣＵ配属看護師への教育内容の検討など

［文責：末松 義弘］

リハビリテーション運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

患者さんに質の高い医療を提供するために、リハビリテーションに関する事項に対して議論を行うことを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：伊佐地 隆

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	医療相談室	1
看護部	4	本部・事務部	3
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

６回

Ⅳ．協議事項

2018.4.30	リハビリテーション総合実施計画書電子化について
2018.6.26	リハビリテーション総合実施計画書の運用状況について
2018.8.28	シーティングワーキンググループについて
2018.11.27	シーティングワーキンググループ承認について
2019.1.21	リハビリテーション総合実施計画書について
2019.2.18	電子カルテシステム導入について

［文責：伊佐地 隆］

病院機能改善管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医療の質の要素である、診療の質（技術・能力）、設備・機器の質、不帯サービスの質（接遇・その他）、提供体制の質（制度・組織・運営）に関し、各担当から指標となる項目の報告をもらい、さらにこれらの改善に向けての院内での体制を整える。

Ⅱ．構成員

◎委員長：伊佐地 隆

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	本部・事務部	5
看護部	4	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
地域医療連携室	1	在宅介護支援センター	1
医療相談室	1		

Ⅲ．会議　開催回数

９回

Ⅳ．協議事項

2018.4.10	QC 活動の最終報告について、各部署初期研修プログラムについて、 当委員会規約の確認承認と委員について、職員募集依頼書について、 病院機能評価期中の確認受審について
2018.5.8	QC 活動の最終報告について、年報作成について、 各部署初期研修プログラムについて
2018.6.12	QC 活動について、年報作成について、 病院機能評価の B 項目についての改善点報告
2018.7.10	QC 活動について、機能評価のアピール文について、 各委員会・チームの開催時間の調整
2018.9.11	QC 活動について、機能評価アピール文の報告について、 各委員会・チームの開催時間の調整、 リハビリテーション運営チームの WG について
2018.10.15	QC 活動について、各委員会・チームの開催時間の調整について
2018.12.17	QC 活動について、病院機能評価中間審査の結果、その他
2019.2.18	QC 活動について、各部署の初期研修プログラムについて、 年報について、各委員会・チーム活動について、病院機能評価について、 各チームの活動の年度末見直しについて、電子カルテ導入に向けて
2019.3.18	当委員会の規約の改定とメンバー変更について、 他の委員会・チームの規約とメンバーについて、年報について

［文責：鯨岡 結賀］

医療ガスチーム

Ⅰ．目的及び機能

医療法人社団筑波記念会の運営する各事業所における医療ガス設備の管理を行い、患者の安全と災害の未然防止を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：神山 幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	5
看護部	2	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	委託業者	1
臨床工学科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2018.9	・医療ガス配管設備保守点検結果報告 ・人工空気製造装置定期保守点検結果報告 ・2018.3 月～ 9 月にかけての修理等報告

2019.3	・医療ガス配管設備保守点検結果報告 ・人工空気製造装置定期保守点検結果報告 ・2018.10 月～ 2019.3 月にかけての修理等報告 ・高圧ガス施設定期自主検査報告

［文責：神山 幸一］

がん化学療法運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院における、がん化学療法剤のレジメンの管理（登録、削除、保留）、施用等の適正化を図る。

検討事項：がん化学療法を行うためのレジメン・手技・医薬品の管理、外来化学療法室の運用、その他

Ⅱ．構成員

◎リーダー：添田 敦子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	3
看護部	7	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

５回

Ⅳ．協議事項

2018.7.12	化学療法内容を患者に情報提供する取組みについて。外来化学療法室での説明用資材について。経口抗癌剤の副作用対策について。
2018.9.13	化学療法内容を患者に情報提供する取組みについて。外来化学療法室での説明用資材について。経口抗癌剤の副作用対策について。外来化学療法マニュアルのバージョンアップについて。リツキサンよりリツキシマブ BS にレジメン変更について。
2018.11.8	化学療法内容を患者に情報提供する取組みについて。外来化学療法室での説明用資材について。経口抗癌剤の副作用対策について。ケモセーフロックについて。
2019.1.10	外来化学療法患者への説明資材について。経口抗癌剤の副作用対策について。血管外漏出、初回抗癌剤投与のマニュアルについて。外来化学療法室利用状況について。化学療法関係のインシデント報告について。
2019.3.14	経口抗癌剤の副作用対策について。血管外漏出、初回抗癌剤投与のマニュアルについて。ケモセーフロック使用開始について。外来患者の化学療法終了時刻が遅くなることの影響について。

［文責：添田 敦子］

輸血運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

院内における輸血が安全かつ円滑に行われるための活動の大網を定める事を目的とする。管理者の諮問機関と

して、管理者からの諮問事項、輸血療法上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討するチームで、病院として行うべき輸血療法上の方策を管理者に答申する輸血療法に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：佐藤 祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	1
看護部	3	輸血部	1
薬剤部	2	委託業者	1
臨床検査科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

6回

Ⅳ．協議事項

2018.4.11	輸血マニュアル及び輸血部副作用報告書について
2018.6.13	自己血パス及び AB 型の輸血廃棄率について
2018.8.15	輸血出庫後の室温保持及び自己血のオーダーについて
2018.10.10	輸血・自己血貯血マニュアルの見直しについて
2018.12.12	カリウム除去フィルター及び自己血のヒヤリハットについて
2019.2.13	輸血廃棄率及び輸血管理業務医師代行操作について

［文責：佐藤 祐二］

診療録チーム

Ⅰ．目的及び機能

診療情報ならびに診療録の管理について、総括的に規定し適切な管理を行い、医療の質を確保する。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：田島 啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	7	臨床検査科	2
医療安全管理室	1	栄養科	1
看護部	3	地域医療連携室	1
薬剤部	1	医療相談室	1
放射線部	1	本部・事務部	7
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．会議　開催回数

12回

Ⅳ．協議事項

退院要約完成状況の報告、オーダリングシステム更新内容の確認、各部署からの連絡

2018.4	診療録チーム規約の確認
2018.5	貯血式自己血輸血について協議
2018.6	CIS 画像オーダーについて協議
2018.7	身体抑制記録に関する診療録への記入について協議
2018.8	ノートパソコンでのオーダリングシステム使用について協議
2018.9	画像・文書データ持ち出し依頼書について協議
2018.10	和暦表示について協議
2018.11	クリティカルパスの電子化について協議
2018.12	診療録の監査方法について協議
2019.1	診療録の保存・処分について協議
2019.2	電子カルテのデモンストレーション実施
2019.3	各診療科で所持しているデータの管理方法について協議

［文責：田島 啓一］

臨床検査運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床検査科の効率的かつ円滑な運営、管理を図り、あわせて診療の向上に寄与することを目的とする。また当院では、検体検査を外部委託しており、委託業務の実態を評価し、改善を促進する。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：井川 昌幸

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	本部・事務部	3
看護部	3	委託業者	1
臨床検査科	3		

Ⅲ．会議　開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2018.5.28	①チームメンバー・チーム規約の確認 ② PSG 検査の新規導入を検討 ③病棟採血時の１患者１トレイを試験運用中
2018.8.27	①検体ラベルの貼られていない検体への対応方法 ②外来での追加依頼の採血漏れについて
2018.11.26	①血液ガスの会計票運用の検討 ②手術材料のホルマリン固定液不足への対応

2019.2.25	①来年度の CIS 変更に対する検査部門の対応 ②精度管理報告

［文責：井川 昌幸］

補助人工心臓管理チーム

Ⅰ．目的及び機能

補助人工心臓装着の適応の検討及び、補助人工心臓管理に関わる治療・看護及び情報を共有して統合的な管理を行うことで、補助人工心臓装着患者の安全かつ適切に管理することにより QOL の向上に努めることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：末松 義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床工学科	1
看護部	6	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2018.7	IMPELLA 駆動装置購入後の勉強会・トレーニング開催の確認。 新たに始まる NO 療法と VAD 治療との関連性について、勉強会を開催してスタッフへの認識を広めていく。
2019.2	NO 療法及び機器の勉強会開催状況の確認と成果を確認。

［文責：末松 義弘］

栄　養　チ　ー　ム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院栄養チームは、当院における栄養管理業務の適正化をはかるために行う。栄養管理業務を遂行すると同時に、改善が必要な事項については検討し、さらに検討事項の改善、報告を行う。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：藤田 利枝

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	栄養科	2

看護部	3	本部・事務部	3
薬剤部	1	委託業者	4

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2018.4	・構成メンバー変更、栄養科の体制について ・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・時間外の食事提供について ・トレーのテープについて ・持ち込み食について
2018.5	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・時間外の食事提供について ・QC 活動のテーマについて ・約束食事箋の改定について ・低たんぱく米の使用について
2018.6	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・約束食事箋の改正について ・低たんぱく米の使用について ・食数業務の内容について
2018.7	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・特別食加算（76 円 / 食）の算定について ・食数業務の内容について ・機能評価に向けて ・嗜好調査アンケートについて ・CL 栄養指導室について
2018.8	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・機能評価に向けて ・嗜好調査アンケートについて ・CL 栄養指導室について ・付加食品について
2018.9	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・嗜好調査アンケート結果報告 ・付加食品について
2018.10	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・嗜好調査アンケート結果報告 ・システムダウンの対応について
2018.11	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・NST 専従について ・食事対応に関する稟議書について
2018.12	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・食事対応に関する稟議書について ・配膳順について ・栄養科人員不足について

2019.1	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・新メニューについて ・新電子カルテシステム導入について ・栄養科の配置換えについて
2019.2	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・新メニューについて ・2019 年度の行事食について
2019.3	・インシデント報告 ・栄養指導件数報告 ・1 年間の振り返り

［文責：藤田 利枝］

栄養サポートチーム（ＮＳＴ）

Ⅰ．目的及び機能

栄養状態を判定し、その患者に最もふさわしい栄養管理を指導・提言することで、患者の治療・回復・退院及び社会的復帰を図る。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：藤原　淳

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	栄養科	5
看護部	12	本部・事務部	1
薬剤部	3		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2018.4	各部署報告　加算報告　年間スケジュール確認
2018.5	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告
2018.6	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告
2018.7	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告
2018.8	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告 ＮＳＴ中長期計画について
2018.9	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告
2018.10	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告
2018.11	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告 薬剤勉強会
2018.12	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告
2019.1	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告 ＮＳＴマニュアル変更について

2019.2	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告
2019.3	各部署報告　加算報告　ＮＳＴ内チーム会議・報告 年間振り返り

Ⅴ．他 活動内容

１．適切な栄養評価
２．栄養管理の指導・提言
３．栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
４．資源・素材の省力化
５．各チームとの相互協力
６．病院スタッフへの知識の習得

※週２回のカンファレンス、回診の実施
※毎月１回のチーム会議の開催
※日本静脈経腸栄養学会への参加
※院外研究会等への参加
※筑波栄養サポート研究会世話人会への参加

［文責：阿部 真由美］

摂食嚥下ケアチーム

Ⅰ．目的及び機能

１．院内における摂食嚥下に関するリハビリテーションや看護ケアの構築・整備・実施・評価を行う
２．誤嚥性肺炎のリスク管理を行い、発症数の減少を図る
３．摂食機能療法加算の算定を行う
４．嚥下食の検討と改善を図る

Ⅱ．構成員

◎リーダー：藤原　淳

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	栄養科	1
看護部	12	本部・事務部	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2018.4	各部署報告　加算報告　年間スケジュール確認 スクリーニング
2018.5	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2018.6	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング　口腔ケア技術研修（ラダーⅠ）打ち合わせ
2018.7	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2018.8	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2018.9	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2018.10	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング　栄養補助食品　試食会
2018.11	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2018.12	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2019.1	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2019.2	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング
2019.3	各部署報告　加算報告　チーム会議・報告 スクリーニング 年間振り返り

Ⅴ．他 活動内容

1．各病棟の摂食嚥下ケアチームの看護師が当該病棟に入院中の患者のスクリーニングを実施（第２週目）
2．選出された患者の回診を行う（第３・４火曜日　16：00 ～）
3．職員に対し、摂食嚥下の知識や技術の向上を目指した勉強会を開催する
4．必要時は、NST、褥瘡チーム、緩和ケアチーム、栄養チームに協力依頼を行う
5．嚥下訓練食の検討を行い、摂食嚥下障害をもった患者が安全でおいしい食事ができるよう検討し実践する
6．摂食機能療法の算定し月１回監査を行う

※毎月１回のチーム会議の開催
※日本摂食嚥下リハビリテーション学会への参加
※院外研究会等への参加
※茨城県看護協会研修　摂食嚥下　への参加

［文責：藤原　淳］

褥瘡対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

褥瘡対策チームは、院内における褥瘡予防を周知させることで、褥瘡発生を減少させ、かつ、発生した褥瘡に対しては､的確な対応が出来ることを目標とする。医療スタッフが連携し､協力して行う。チーム医療を基本とし､褥瘡予防対策の強化と早期治療の促進を図るため病院全体で取り組む。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：照沼　篤

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	2
看護部	12	栄養科	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.4	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・新人向け指導内容の修正と指導の実施 1．ガーゼとテープの貼り方、テープの剥がし方 尿道カテーテル固定テープの貼り方 2．陰部洗浄の手順（マニュアルは業務委員と共同し作成した） 3．エアマットの使用方法 ・褥瘡の記録に関する病棟スタッフ向け指導内容の検討
2018.5.2	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・今年度の活動内容確認　全体研修７．８．９月　ブレーデンスケール 全体研修 10.11.12 月　DESINGN-R ・新人向け指導内容の指導の実施 ・褥瘡の記録に関する病棟スタッフ向け指導の実施
2018.6.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ５月ブレーデンスケール 14 点以下の人数報告 ・全体研修：ブレーデンスケールの内容検討 ・記録の評価ラウンド開始
2018.7.4	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ６月ブレーデンスケール 12 点以下の人数報告　記録の評価ラウンド ・MNA 勉強会　・有病率と発生率の一覧表とグラフを作成 ・全体研修ブレーデンスケール 7 月 17 日実施
2018.8.1	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ７月ブレーデンスケール 12 点以下の人数報告　記録の評価ラウンド ・全体研修ブレーデンスケール 7 月 17 日実施
2018.9.5	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ８月ブレーデンスケール 12 点以下の人数報告　記録の評価ラウンド ・DESINGN-R チームの内容報告
2018.10.3	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ９月ブレーデンスケール 12 点以下の人数報告　記録の評価ラウンド ・全体研修ブレーデンスケール 10 月 16 日実施
2018.11.7	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 10 月ブレーデンスケール 12 点以下の人数報告　記録の評価ラウンド ・全体研修 DESINGN-R11 月 20 日実施

2018.12.5	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 11 月ブレーデンスケール 12 点以下の人数報告　記録の評価ラウンド ・有病率と発生率の一覧表とグラフを作成 ・全体研修 DESINGN-R12 月 4 日実施
2019.1.19	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 12 月ブレーデンスケール 14 点以下 12 点以下の人数報告 記録の評価ラウンド　　・全体研修 DESINGN-R1 月 7 日実施
2019.2.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 １月ブレーデンスケール 14 点以下 12 点以下の人数報告 インフルエンザ対策のため、上記活動のみとした。
2019.3.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ２月ブレーデンスケール 14 点以下の人数報告　記録の評価ラウンド ・有病率と発生率の一覧表とグラフを作成

Ⅴ．他 活動内容

褥瘡リスク状態の患者に対して予防管理していくこと、リスクのある患者にチームで関わり、予防策を検討、実施、NST と連携し、早期から褥瘡リスク予防を行う。褥瘡対策チームメンバーのスキルアップに努める。

［文責：照沼　篤］

クリティカルパス・ＤＰＣチーム

Ⅰ．目的及び機能

院内におけるクリティカルパスの普及を目指す。

クリティカルパスの作成・運用方法を啓蒙し、指導する。

バリアンス評価の方法を啓蒙し、指導する。

効率の良い標準的治療を目指し、質の高い診療を普及させる。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：池澤 和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	栄養科	1
看護部	1	地域医療連携室	1
薬剤部	2	本部・事務部	3
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

８回

Ⅳ．協議事項

2018.5.15	パス作成進捗状況確認、詳細不明病名のリストアップ
2018.7.17	パス作成進捗状況確認
2018.8.21	パス作成進捗状況確認、バリアンスコードの調整
2018.9.18	パス作成進捗状況確認、病院指標への患者用パス掲載

2018.10.16	パス作成進捗状況確認、栄養指導のパス化検討
2018.11.20	パス作成進捗状況確認、バリアンスコードの調整保留
2018.12.18	パス作成進捗状況確認、効率性係数の確認・改善
2019.1.15	パス作成進捗状況確認、退院支援パスの見直し

［文責：池澤 和人］

地域医療サービスチーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療展開に関する環境整備、医療サービスの充実、状況把握の調査･改善などを目的に、患者満足度調査、待ち時間調査、院内環境巡視などを行う。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：谷中 清之

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	栄養科	1
看護部	2	地域医療連携室	1
薬剤部	1	本部・事務部	3
放射線部	1	筑波総合クリニック	2
リハビリテーション部	2	委託業者	1
臨床工学科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2018.4	2018 年度の活動予定および構成員の確認。規約の見直し。 ご意見箱への投書（3 件）
2018.5	院内巡視報告。投書対応（3 件）
2018.6	投書対応（7 件）
2018.7	院内巡視報告。投書対応（4 件）
2018.9	院内巡視報告。投書対応（14 件）
2018.10	投書対応（9 件）
2018.11	投書対応（2 件）
2018.12	投書対応（8 件）
2019.1	院内巡視報告。投書対応（4 件）
2019.2	当初対応（5 件）
2019.3	投書対応（8 件）

Ⅴ．他 活動内容

・患者さんからのご意見（「ご意見箱」投函内容）に対する事実確認と対策協議。（毎月）

・院内巡視報告（毎月）

７月　病室の照度調査の実施。

11月　駐車場内の転倒防止対策の実施。

12月　職員駐輪場　放置自転車撤去作業の実施。内視鏡室内トイレットペーパーの品質の見直し。

［文責：谷中 清之］

企画広報運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは、病院長の諮問に基づき、以下のことを検討し答申することを目的とする。

（１）院外広報誌の制作と配布に関すること。

（２）病院パンフレット、入院案内の制作に関すること。

（３）WEB サイトに関すること。

（４）その他、広報活動全般に関すること。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：池澤 和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	3
看護部	2	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2018.4.9	記念樹 Vol.55 について、受診動機アンケートについて 規約の見直し、年報掲載内容について、構成メンバーについて、年間開催日程
2018.5.14	記念樹 Vol.55 進捗状況、受診動機アンケートについて WEB サイトについて
2018.6.18	記念樹 Vol.55 報告、受診動機アンケートについて 入院案内について、WEB サイトについて
2018.7.9	記念樹 Vol.56 について、記念樹についてのアンケート実施について、WEB サイトについて
2018.8.13	記念樹 Vol.56 について、受診動機アンケートについて、WEB サイトについて
2018.9.10	記念樹 Vol.56 について、受診動機アンケートについて、WEB サイトについて
2018.10.22	記念樹 Vol.57 について、WEB サイトについて
2018.11.12	記念樹 Vol.57 について、WEB サイトについて
2018.12.10	記念樹 Vol.57 について、記念樹 Vol.58 について 受診動機アンケートについて
2019.2.18	Vol.58 について、WEB サイトについて、WEB サイトアクセス数について、受診動機アンケートについて
2019.3.11	受診動機アンケートについて、WEB サイトアクセス数について 記念樹 Vol.59 について、2019 年度年間開催予定について

Ⅴ．他 活動内容

2018.4　記念樹Vol.54発行

2018.7　記念樹Vol.55発行

2018.10　記念樹Vol.56発行

2019.1　記念樹Vol.57発行

［文責：池澤 和人］

倫　理　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院及びその職員が行う臨床研究及び職域内の規制等について、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿って審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：柏木 平八郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	9※	本部・事務部	1
看護部	1	外部委員	1
薬剤部	1		

※医局からの委員に病院長が含まれるが、病院長は採決評議には参加できない。

Ⅲ．会議　開催回数（2017 年 4 月～ 2018 年 3 月）

通常開催　16 件　　簡易倫理審査（書類審査）　5 件

Ⅳ．協議事項

通常審査

2019.3.15	胃がんにおける FGFR の異常に関する解析研究。 症例登録期間、研究実施期間の延長について
2019.2.5	レパーサ皮下注 140mg　シリンジ / ペン特定使用成績調査
2019.2.5	左心耳切除術と心房細動アブレーションのハイブリット治療効果について
2019.2.5	心房細動における電気的カルディオバージョンによる洞調律化時の一過性の心房機能不全の検討
2019.2.5	片側内腸骨動脈閉塞時の側副血行路の検討
2018.12.4	シスプラチン溶液と破砕ジェルパートの繰り返し動脈内注射によるバルーン閉塞下塞栓術を用いた肝細胞癌治療における安全性試験（多施設研究）
2018.12.4	多血小板血漿療法の導入について
2018.11.6	AI（人工知能）による内視鏡画像自動診断（病変拾いあげ）システムの実証実験
2018.10.2	Orsiro 薬剤溶出ステント及び冠動脈拡張用バルーンの使用実態調査
2018.10.2	安全性・再現性の高い坐骨神経鍼通電療法の研究　－画像解剖学的検討－
2018.10.2	ダビガトランの服用法によるダビガトラン関連食道炎の予防法の検討試験
2018.9.4	線維筋痛症に対する認知行動療法、運動療法、薬物療法を統合した治療効果の研究（仮称）
2018.9.4	「カテーテルアブレーション症例全例登録プロジェクト（J-AB レジストリ）」（多施設共同研究）
2018.6.5	胃がんにおける FGFR の異常に関する解析研究

2018.4.17	2017 年 1 月 31 日に審議され承認された「心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の出血と血栓リスクに関する間向き観察研究（STAR-ACS Study）つくばハートセンター　我妻賢司」における当時資料の修正について
2018.4.17	心筋梗塞後の心室細動による electrical storm に対するカテーテルアブレーション：多施設共同研究

簡易審査

2019.1.9	次世代シークエンサーを用いた EGFR-TKI(特に osmertinib,afatinib) の無増悪生存期間に影響する遺伝子探索を目的とした非介入の後方視的研究
2018.12.18	2018 年度レセプト等　情報を使用した脳卒中救急疫学調査
2018.10.22	学会報告　日本糖尿病学会　学術総会「CGM/FGM 外来における ipro2 から FreeStyle リブレ Pro への変更後の比較検討」
2018.8.16	EGFR 遺伝子変異陽性肺癌の転移パターンの検討
2018.7.9	茨城県における急性期脳主幹動脈閉塞に対する血管内治療の実態後ろ向き調査

Ⅴ．他 活動内容

2018.4.3	新入職員対象講義（委員長）　講義『医の倫理』

［文責：柏木 平八郎］

治 験 審 査 委 員 会

Ⅰ．目的及び機能

委員会は、審査の対象とされる治験が倫理的及び科学的に妥当であるか否か、その他当該治験を実施することが適当であるか否かを審査する。

実施中の治験においては、治験を継続して行うことの適否について審査する。

また、委員会は、GCP 省令及び答申 GCP の掲げる「治験の原則」を尊重し、すべての被験者の人権、安全及び福祉を保護し、社会的に弱い立場にあるものを被験者にする可能性のある治験の場合には、特に注意を払わなければならない。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小林 栄喜

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	本部・事務部	2
看護部	1	外部委員	2
薬剤部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

０回

Ⅳ．協議事項

今年度、治験審査案件なしのため委員会開催なし

［文責：小林 栄喜］

薬　事　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

医薬品の選定、購入、配布及び施用等の適正化を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：飯田　要

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	薬剤部	3
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

７回

Ⅳ．協議事項

2018.4.3	新規採用医薬品採用審議４件 薬事委員会委員追加について
2018.7.3	新規採用医薬品採用審議　４件 後発品への変更について
2018.8.7	新規採用医薬品採用審議　５件 院内採用薬剤整理について　その他
2018.10.2	新規採用医薬品採用審議４件 薬事委員会の開催曜日変更について インフルエンザ予防接種について
2018.11.5	新規採用医薬品採用審議　５件
2018.12.3	新規採用医薬品採用審議　２件 未承認薬品のガイドラインについて 処方薬の取り違いについて
2019.2.4	新規採用医薬品採用審議　３件 医薬品適応外使用の同意書について 後発医薬品への切り替え提案について

Ⅴ．他 活動内容

以下の事項を審議する

①医薬品採用の可否に関すること。

②医薬品の適正な使用及び管理に関すること。

③陳旧した医薬品の取り扱いに関すること。

④医薬品副作用等の情報に関すること。

⑤薬局業務に関すること。

⑥その他薬事に関すること。

［文責：飯田　要］

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波総合クリニック

【総括】

2018 年度は、循環器内科・消化器外科・眼科の医師数が減少し、それぞれの診療科で若干ではあるが患者数の減少が見られた。全体的に見ると患者数の減少は無く、ほぼ横ばいか微増となった。

2019 年度は、曜日による患者数の偏りを平均化できるよう、診察室使用状況を見直していく。また、患者サービスの一貫として待ち時間の短縮のため、医療費後払いなどのサービスも検討していく。

［文責：大坂恒司］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
小児科	168	203	219	276	244	206	276	257	272	249	212	307	2,889
消化器外科	579	646	659	704	709	582	718	675	654	599	599	708	7,832
一般外科	7	8	2	2	1	1	3	2	4	1	1		32
形成外科	257	264	345	365	348	372	374	358	389	289	325	417	4,103
整形外科	1,919	1,917	2,101	2,025	2,162	1,714	2,035	1,954	1,964	1,927	1,862	1,992	23,572
脳神経外科	1,368	1,416	1,398	1,397	1,444	1,198	1,474	1,203	1,357	1,320	1,270	1,336	16,181
皮膚科	448	381	482	476	550	413	459	432	390	420	372	418	5,241
婦人科	785	788	925	825	730	824	893	808	832	719	746	873	9,748
心臓血管外科	310	331	304	351	354	299	390	345	338	311	311	360	4,004
精神科	235	256	254	263	233	232	274	239	230	236	228	244	2,924
眼科	1,164	1,156	1,263	1,238	958	1,088	1,223	1,117	1,029	1,074	957	1,142	13,409
神経内科	300	269	326	272	340	241	276	291	272	271	288	211	3,357
泌尿器科	322	367	371	353	405	338	397	341	349	349	342	381	4,315
循環器内科	2,363	2,422	2,362	2,432	2,426	2,119	2,621	2,241	2,411	2,434	2,326	2,380	28,537
消化器内科	1,253	1,342	1,308	1,313	1,345	1,186	1,463	1,355	1,320	1,238	1,273	1,327	15,723
呼吸器外科	269	299	362	322	335	345	292	308	358	306	276	340	3,812
ﾘｳﾏﾁ・ｱﾚﾙｷﾞｰ科	314	364	346	324	370	362	349	333	328	327	335	327	4,079
代謝内科	1,066	1,023	1,042	1,024	1,180	1,037	1,135	1,034	1,103	1,106	1,078	1,169	12,997
血液内科	240	211	266	273	228	240	271	202	255	206	256	280	2,928
耳鼻咽喉科	1,131	1,196	1,155	1,072	1,097	939	1,206	1,061	1,002	985	971	1,144	12,959
血管専門	34	25	36	29	20	37	22	30	38	29	25	19	344
乳腺甲状腺外科	323	294	329	322	284	286	318	288	317	271	271	351	3,654
呼吸器内科	383	395	419	421	429	387	444	385	390	402	401	409	4,865
腎臓内科	95	113	107	120	103	106	106	128	111	106	95	86	1,276
合計	15,749	16,117	16,788	16,635	16,752	14,957	17,429	15,901	16,152	15,728	15,301	16,668	194,177

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
小林　栄喜	筑波総合クリニック名誉院長	脳神経外科	常（CL）
飯田　　要	筑波総合クリニック管理者	循環器内科	常（CL）
飯田　啓治	筑波総合クリニック副院長	循環器内科	常（CL）
垣花　昌明		循環器内科	非（CL）
長井　恭子	眼科診療科長	眼科	常（CL）
杉山雄太郎		消化器内科	非（CL）
石塚幹太郎		血液内科	非（CL）
寺田　　真		神経内科	非（CL）
三宅　善嗣		神経内科	非（CL）
白岩　伸子		神経内科	非（CL）
松島　照彦		代謝内科	非（CL）
山下亀次郎		代謝内科	非（CL）
竹越　一博		代謝内科	非（CL）
松田ひとみ		代謝内科	非（CL）
石垣　直美		代謝内科	非（CL）
松野　洋輔		呼吸器内科	非（CL）
下田　　貢		消化器外科	非（CL）
戸泉　　篤		消化器外科	非（CL）
柳原　隆宏		呼吸器外科	非（CL）
上田　　翔		呼吸器外科	非（CL）
岩井　武尚		心臓血管外科	非（CL）
井上　堯文		心臓血管外科	非（CL）
佐藤　博明		脳神経外科	非（CL）
三原　忠紘		脳神経外科	非（CL）
向井　直樹		整形外科	非（CL）
金森　章浩		整形外科	非（CL）
三島　　初		整形外科	非（CL）
兵頭康次郎		整形外科	非（CL）
大島　純弥		形成外科	非（CL）
沢田　　歩		形成外科	非（CL）
品川　樹美		眼科	非（CL）
森川　翔平		眼科	非（CL）
吉岡　華子		皮膚科	非（CL）
中村　貴之		皮膚科	非（CL）
宮川恵美子		小児科	非（CL）
堀米　ゆみ		小児科	非（CL）
竹田　一則		小児科	非（CL）
宮本　信也		小児科	非（CL）
近藤　裕也		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
本田　文香		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
戸村　成男		腎臓内科	非（CL）
角田　亮也		腎臓内科	非（CL）
相吉　悠治		乳腺甲状腺外科	非（CL）
原　　尚人		乳腺甲状腺外科	非（CL）
橋本　幸枝		乳腺甲状腺外科	非（CL）
澤　　文		乳腺甲状腺外科	非（CL）
和久　夏衣		泌尿器科	非（CL）
内田　将央		泌尿器科	非（CL）
鏑木　直人		泌尿器科	非（CL）
長尾　　剛		泌尿器科	非（CL）
鴨田　直博		泌尿器科	非（CL）
新田　　聡		泌尿器科	非（CL）
岡田　充生		泌尿器科	非（CL）
東田　俊彦	顧問	内科	非（CL）
斉藤　　剛		内科	非（CL）

つくばトータルヘルスプラザ

【総括】

1．2018 年度の実績報告

2017 年度と比べて 2018 年度の受診者数は、全体で 1.1% の受診者数増加があった。人間ドック 2.2% と巡回健診 2.3% の受診者数増加がみられた。主な要因としては、エコーの機械を 1 台追加したことにより、腹部エコー検査数を増やし、人間ドック数を増やせたことが挙げられる。また、巡回健診の新規事業所を増やしたことも考えられる。しかし、2018 年度の目標であった 1 月～ 3 月の人間ドック受診者数 1,000 名／月に対しては、どの月も達成することが出来なかった。

フェニックスの延べ来館者数は、2017 年度に比べて 3.9％増加した。1 日平均延べ来館者数は 106.91 名と目標である 1 日 105 名を超えた。通所リハビリテーションは、月曜日から金曜日の午前中の営業時間を増やし利用者数を伸ばしている。引き続き広報活動に力を入れていきたい。

学会や講演会活動は、人間ドック学会学術大会に 1 演題を発表した。2016 年度よりスタートした各企業への講演活動も保健師、理学療法士、トレーナーが連携を取りながら継続した。

2．2019 年度の課題・目標

2019 年度は閑散期である 1 月～ 3 月の人間ドック受診者数を 1,000 名／月とする。また、人間ドック終了後の当日保健指導数を増加させる。学会活動についても、日本総合健診学会に演題発表を行っていく。

［ 文責：福原圭介 ］

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	消化器内科	常（HP）
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	リウマチ・アレルギー科	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	消化器内科	常（HP）
小松あかね	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	婦人科	常（HP）
設楽佐代子		消化器内科	常（HP）
清水　郁子		代謝内科	常（HP）
助川慎一郎		血液内科	非（THP）
真家紘一郎		血液内科	非（THP）
丸山ゆみ子		血液内科	非（THP）
小原　　直		血液内科	非（THP）
宮内　　卓		循環器内科	非（THP）
芳賀　厚子		循環器内科	非（THP）
長谷川純朗		循環器内科	非（THP）
中森　　容		消化器内科	非（THP）
福田由紀子		消化器内科	非（THP）
岡田　純代		代謝内科	非（THP）
金津　赫生		内科	非（THP）
島　さつき		内科	非（THP）
廣瀬　千尋		内科	非（THP）

柳　　久子		内科	非（THP）
江辺　厚子		内科	非（THP）
中村　優子		婦人科	非（THP）
小竹　文雄		放射線科	非（THP）
野中美喜子		小児科	非（THP）
小川　英恵		内科	非（THP）
百瀬　春佳		血液内科	非（THP）

【業務実績】

人間ドック、健康診断受診者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	日帰り	753	978	1,231	1,192	1,227	1,050	1,194	1,113	983	807	930	771	12,229
	一泊	0	1	0	1	1	0	1	0	2	1	0	0	7
	脳ドック	22	51	53	61	58	31	47	50	51	28	38	28	518
	レディース	7	14	23	18	18	10	10	16	15	25	29	68	253
ドック		772	1,010	1,283	1,232	1,268	1,076	1,230	1,152	1,021	858	961	843	12,706
院　内		494	851	1,559	1,609	1,611	1,410	1,667	1,604	1,531	1,402	1,473	1,193	16,404
巡　回		4,424	1,757	2,357	1,427	2,245	1,425	1,744	2,165	361	155	1,274	646	19,980

検査別実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡検査	307	322	317	334	336	272	345	324	288	286	292	319	3,742
乳腺エコー検査	306	325	538	585	600	520	673	586	586	570	607	470	6,366
マンモグラフィ検査	146	172	449	445	456	415	502	478	442	402	389	285	4,581
子宮細胞診検査	300	378	782	765	766	754	909	826	788	736	740	557	8,301

（件）

部位別精検指示及び実施者数

		胃部X線	胃内視鏡	胸部X線	心電図	便	腹部超音波	乳房	子宮細胞診
精検指示者数	2017年度	1,148	129	434	1,030	1,284	380	372	132
	上半期	627	83	332	450	625	177	163	48
精検実施者数	2017年度	636	61	204	81	284	209	199	101
	上半期	268	40	164	41	165	130	98	34

フェニックス延べ来館者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,516	2,609	3,011	2,885	2,769	2,574	2,877	2,556	2,258	2,277	2,370	2,516	31,218

フェニックスイベント

名　　称	件数	開催日
ノルディックウォーキング体験会	12名	2018.5.27
ノルディックウォーキング体験会	12名	2018.5.27
ボッチャ大会	21名	2018.6.24
夏祭りイベント	6名	2018.8.28
ノルディックウォーキング体験会	11名	2018.10.18
体力測定・健康相談	3名	2018.10.23
体力測定・健康相談	10名	2018.10.26

体力測定・健康相談	8 名	2018.10.30
卓球バレー大会	10 名	2018.12.23
ノルディックウォーキング体験会	12 名	2018.12.23
ノルディックウォーキング体験会	9 名	2019.1.27
ボッチャ大会	7 名	2019.1.27
卓球バレー大会	5 名	2019.3.31
ノルディックウォーキング体験会	10 名	2019.3.31

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
興野千春、坂本真樹、二瓶久美子	スマートライフプログラム「生活を見直してみませんか」食事指導 運動指導：ロコモ予防運動	講演（企業）	つくば	2018.4
設楽佐代子、関澤智光	職場における腰痛予防対策	講演（企業）	つくば	2018.5
野口須美子、興野千春、関澤智光	若いうちから寝たきり予防「ロコモに負けない身体作り」 運動指導：ロコモ予防運動	講演（企業）	つくば	2018.8
野口須美子、興野千春、関澤智光	若いうちから寝たきり予防「ロコモに負けない身体作り」 運動指導：ロコモ予防運動	講演（企業）	つくば	2018.9
中原　朗	最近の話題（喫煙・感染症など）	講演（企業）	つくば	2018.10
野口須美子、興野千春、篠原一哉、関澤智光	若いうちから寝たきり予防「ロコモに負けない身体作り」 運動指導：ロコモ予防運動	講演（企業）	つくば	2018.10
中原　朗	最近の話題（喫煙・感染症など）	講演（企業）	つくば	2018.10
野口須美子、興野千春、篠原一哉、二瓶久美子	若いうちから寝たきり予防「ロコモに負けない身体作り」 運動指導：ロコモ予防運動	講演（企業）	つくば	2018.11
野口須美子、興野千春、篠原一哉、関澤智光	若いうちから寝たきり予防「ロコモに負けない身体作り」 運動指導：ロコモ予防運動	講演（企業）	つくば	2018.11
本橋　歩	メンタルヘルス	講演（企業）	つくば	2018.12
野口須美子、興野千春、篠原一哉、二瓶久美子	タバコと健康 運動指導：手軽に出来る呼吸・筋ストレッチ	講演（企業）	つくば	2019.2
本橋　歩	眼の健康	講演（企業）	つくば	2019.3
二瓶久美子	ストレッチ、エアロビクス、ピラティス	出張指導（団体）	下妻	2018.4 ～ 2019.3
塚田優子	ストレッチ、頭の体操、低強度の筋トレ、チェアエクササイズ	出張指導（団体）	つくば	2018.4 ～ 2019.3
山口可奈、古徳卓也	集団でのボール運動、模倣ゲーム、ストレッチ体操等	出張指導（市町村）	つくば	2018.6 ～ 2019.3
関澤智光、二瓶久美子	職場フィットネスルームでのサーキットトレーニング	出張指導（企業）	つくば	2018.4 ～ 2019.3
二瓶久美子	食生活の見直しとロコモ予防運動	出張指導（企業）	つくば	2018.4
秋山泰蔵、関澤智光	看護の日（ロコモ度テスト、転倒予防体操）	出張指導	つくば	2018.5
関澤智光	腰痛予防体操と職場でできる体操	出張指導（企業）	つくば	2018.5
二瓶久美子、関澤智光	ピラティス、姿勢と歩き方について、生活習慣病予防（血圧と運動の関係）	出張指導（企業）	つくば	2018.7 ～ 2019.2
神宮史明、古徳卓也、二瓶久美子	体力測定・20～50歳代	出張指導（企業）	つくば	2018.7
二瓶久美子	特定保健指導（運動指導）	出張指導（企業）	つくば	2018.8
関澤智光	ロコモ予防	出張指導（企業）	つくば	2018.8
関澤智光	ロコモ予防と体力測定の集計結果報告	出張指導（企業）	つくば	2018.10

二瓶久美子	若いうちから寝たきり予防（ロコモに負けない身体作り）	出張指導（企業）	つくば	2018.11
関澤智光	若いうちから寝たきり予防（ロコモ度チェックと予防のトレーニング）	出張指導（企業）	つくば	2018.11
雨澤隆穂	ストレッチ、集団エクササイズ（パンチ系）、筋力トレーニング	出張指導	つくば	2019.1
二瓶久美子	タバコと健康	出張指導（企業）	つくば	2019.2
神宮史明	アストロプラネッツ（野球球団）トレーニングとメディカルサポート	出張指導（企業）	つくば、水戸	2019.3

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

介護老人保健施設　つくばケアセンター

【総括】

1．2018 年度の実績

昨年度、当施設では介護報酬改定により在宅支援型から加算型（在宅復帰･在宅療養支援機能加算（Ⅰ）を算定）に移行した施設基準等を維持することを目標として運営に取り組んできた。その結果、在宅復帰率 33％強、平均入所者数（入所・ショートステイ）は 97.1％を達成し、現在に至っている。そして、ご利用者またはご家族の希望に沿った看取り介護の実施し、施設医との連絡体制、併設医療機関である筑波記念病院との連携、吸引等の看護処置体制を整備し、看取り介護を実施している。一方、通所リハビリテーションでは年度中盤から利用者数が増えてはきたものの、やはり増員が課題である。

訪問リハビリテーションは過去最高の実績であったが、訪問セラピスト一人あたりの平均実施回数は 9.4 件であった。訪問セラピスト一人あたりの実施回数を増やすために、人員調整、訪問ルート調整、間接業務の見直しなどを年度末より始めたところなので、来年度の実績につながるように努力する。

2．2019 年度の課題・目標

入所では、在宅支援型から強化型（在宅復帰･在宅療養支援機能加算（Ⅱ）を算定）の施設基準等を目標とし、ご利用者とご家族の満足度向上を目指し、今年度も職員の研修を重点的に行っていく。通所では、昨年に引き続き、デイケアの特徴を活かしつつ、ご利用者が楽しめるプログラムを行い、利用者数 1 日平均 30 名を目標とする。訪問リハビリでは、実施回数の目標を訪問セラピスト一人あたり 1 日 12 回とし、より多くの利用者様に利用していただけるよう取り組むとともに、日々の安全運転を心がける。

［文責：磯山誠次］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入　　所	106	101	102	102	108	103	103	98	101	103	104	100	1,231
ショートステイ（予防含む）	13	11	12	15	19	13	17	16	12	17	10	15	170
通所リハビリ（予防含む）	83	83	85	87	87	91	98	98	97	95	88	93	1,085
訪問リハビリ（予防含む）	294	291	301	306	305	309	317	308	305	297	299	305	3,637

（単位：名）

【資格保有者数】

正看護師	14 名
准看護師	4 名
介護福祉士	33 名
社会福祉士	2 名
ケアマネジャー	7 名
ヘルパー 2 級	0 名
理学療法士	27 名
作業療法士	9 名
言語聴覚士	6 名

（2018 年 4 月 1 日現在）

【年間行事】

	行事内容	備　　考
4 月	お花見会	
5 月	母の日会	
6 月	父の日会	
7 月	七夕会	
9 月	納涼祭	ご家族参加者:大人166名､ボランティア18名
	祝寿会	
10 月	運動会	
11 月	演奏会	
12 月	クリスマス会	
1 月	新年会	
2 月	豆まき会	
3 月	ひなまつり会	

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

つくば訪問看護ステーション

【総括】

1．2018 年度の実績報告

看護師 6 名、作業療法士 2 名（法人内兼務）、事務 1 名（医事課兼務）で、スタートした。6 月と 12 月に 1 名ずつ看護師が配属され、看護師 8 名となった。実績を見ると、延べ訪問件数は 2017 年度より上回り、目標の 4,500 件は達成した。しかし、12 月から 2 月まで訪問利用者実数・訪問看護件数とも減少している。この時期は、利用者の入退院やショートステイ利用が増えたことが影響したと考える。

2018 年度は、訪問看護事業協会の満足度調査表を用いてアンケートを実施した。今回のアンケートの結果、全体的に満足度は向上した。特に前回のアンケートの結果で課題とした 3 項目「訪問看護師による差」「多職種との連携」「看護師からの説明」では、それぞれ 13%、3%、6%と満足度が増加した。

2．2019 年度の課題・目標

利用者が入院せず在宅療養が継続できるよう、生活指導や主治医等との連携を密にしていく。また、地域包括ケアシステム構築に貢献できるよう、多職種との連携に努める。

人事異動により看護師 3 名は、訪問看護経験 1 年未満である。訪問看護の底上げを図るため、人材育成には力をいれていく。

訪問件数の目標は、5,500 件以上を目指す。

［文責：鈴木房江］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2017 年度延べ訪問看護件数	316	311	335	318	346	304	336	356	412	410	408	388	4,240
2018 年度延べ訪問看護件数	368	446	474	452	477	446	526	482	457	431	400	436	5,395
2017 年度利用者実数	69	67	70	65	71	67	70	79	82	79	82	85	886
2018 年度利用者実数	83	87	90	86	94	97	95	97	96	96	89	89	1,099

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波記念病院　統　計

患　者　統　計

科別外来患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2017	191	233	169	223	189	220	194	180	227	287	236	237	2,586
	2018	204	150	224	209	234	206	288	272	317	430	247	228	3,009
消化器内科	2017	730	732	838	856	850	855	889	788	961	891	840	854	10,084
	2018	670	718	790	740	807	750	852	807	851	985	769	840	9,579
血液内科	2017	466	514	514	535	589	552	554	504	589	659	623	549	6,648
	2018	530	515	543	516	570	518	550	526	573	596	537	581	6,555
神経内科	2017	62	69	71	61	66	64	68	57	61	55	52	60	746
	2018	80	75	70	69	74	72	67	61	61	59	50	57	795
代謝内科	2017	43	41	42	44	49	45	49	105	86	111	74	80	769
	2018	101	83	86	87	94	100	86	79	73	106	96	74	1,065
呼吸器内科	2017	68	82	49	70	56	51	59	60	56	108	60	49	768
	2018	38	20	29	35	43	31	28	42	67	29	48	36	446
消化器外科	2017	173	189	172	175	182	169	175	149	147	170	157	131	1,989
	2018	161	159	174	158	155	157	162	146	145	148	143	120	1,828
呼吸器外科	2017	55	59	80	96	66	70	70	83	57	82	59	57	834
	2018	90	80	71	73	68	88	69	64	121	56	54	68	902
心臓血管外科	2017	129	146	174	148	160	165	185	183	162	232	168	201	2,053
	2018	148	143	163	159	167	179	174	143	151	141	117	122	1,807
脳神経外科	2017	143	160	153	131	151	155	140	109	177	137	116	161	1,733
	2018	119	96	93	89	99	91	105	118	93	119	84	121	1,227
整形外科	2017	385	471	437	490	535	528	435	376	499	524	497	631	5,808
	2018	541	563	594	602	651	595	625	566	652	652	594	661	7,296
婦 人 科	2017	20	22	14	7	25	25	20	11	28	20	19	22	233
	2018	22	22	21	23	26	23	43	26	35	37	31	33	342
眼　　科	2017	13	15	11	15	7	16	29	13	17	13	12	14	175
	2018	11	12	18	12	3	11	9	15	16	8	13	14	142
耳鼻咽喉科	2017	47	30	37	43	33	38	46	57	37	33	32	42	475
	2018	51	41	41	53	40	30	50	54	43	32	26	46	507
皮 膚 科	2017	1	2	1	2	0	0	3	1	0	0	0	2	12
	2018	1	2	5	2	1	1	0	2	1	2	4	0	21
小 児 科	2017	595	629	626	669	660	640	652	633	651	622	615	735	7,727
	2018	645	624	677	683	738	669	706	656	618	575	555	643	7,789
精 神 科	2017	565	592	442	297	334	286	334	309	311	301	295	309	4,375
	2018	321	340	335	353	375	344	335	383	333	315	330	334	4,098
麻 酔 科	2017	37	36	41	35	40	39	31	40	23	35	31	35	423
	2018	39	44	49	42	46	29	46	44	34	52	40	42	507
放射線科	2017	48	40	52	53	47	52	47	42	50	32	29	64	556
	2018	26	42	52	47	44	44	58	45	47	46	31	44	526
リハビリテーション科	2017	86	105	132	97	130	118	108	103	84	70	79	83	1,195
	2018	83	88	96	104	105	86	87	92	69	92	100	92	1,094
リウマチ・アレルギー科	2017	6	5	5	4	8	5	6	7	7	5	13	8	79
	2018	6	8	4	5	4	4	8	4	2	1	3	1	50

形成外科	2017	5	11	8	6	7	7	8	6	6	6	10	7	87
	2018	9	7	13	14	25	7	17	11	10	2	10	9	134
腎臓内科	2017	2	2	6	5	5	7	6	9	14	9	16	10	91
	2018	7	3	7	8	6	16	7	14	10	6	6	8	98
乳腺甲状腺外科	2017	169	146	180	190	191	151	195	177	168	159	160	203	2,089
	2018	195	170	162	173	160	164	178	162	166	155	132	155	1,972
泌尿器科	2017	25	28	28	19	18	27	26	27	34	22	20	19	293
	2018	16	28	30	35	29	32	39	24	32	32	25	30	352
内　　科	2017	36	7	5	13	40	18	35	23	26	20	44	22	289
	2018	42	28	36	33	35	23	42	43	25	43	34	40	424
一般外科	2017	21	19	9	22	13	11	6	5	20	16	7	3	152
	2018	4	1	9	6	4	6	6	7	7	10	2	5	67
救　　急	2017	151	152	239	131	189	78	174	195	108	247	249	280	2,193
	2018	216	42	100	59	270	150	249	214	122	247	128	92	1,889
合　　計	2017	4,272	4,537	4,535	4,437	4,640	4,392	4,544	4,252	4,606	4,866	4,513	4,868	54,462
	2018	4,376	4,104	4,492	4,389	4,873	4,426	4,886	4,620	4,674	4,976	4,209	4,496	54,521

救急車搬送患者記録

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
患者数（搬送台数）		2017	225名	250名	204名	253名	222名	228名	266名	238名	247名	324名	242名	218名	2,917名
			223台	245台	201台	250台	220台	224台	257台	235台	271台	321台	239台	217台	2,903台
		2018	219名	211名	219名	288名	242名	204名	271名	248名	261名	306名	236名	239名	2,944名
			217台	208台	216台	287台	240台	204台	263台	247台	256台	305台	233台	237台	2,913台
症度別	入　院	2017	133名	149名	107名	139名	112名	129名	155名	132名	162名	174名	114名	130名	1,636名
			59.1%	59.6%	52.5%	54.9%	50.5%	56.6%	58.3%	55.5%	65.6%	53.7%	47.1%	59.6%	56.1%
	外　来		92名	101名	97名	114名	110名	99名	111名	106名	112名	150名	128名	88名	1,308名
			40.9%	40.4%	47.5%	45.1%	49.5%	43.4%	41.7%	44.5%	45.3%	46.3%	52.9%	40.4%	44.8%
	入　院	2018	119名	126名	122名	120名	109名	95名	124名	136名	109名	170名	122名	119名	1,471名
			54.3%	59.7%	55.7%	41.7%	45.0%	46.6%	45.8%	54.8%	41.8%	55.6%	51.7%	49.8%	50.0%
	外　来		100名	85名	97名	168名	133名	109名	147名	112名	152名	136名	114名	120名	1,473名
			45.7%	40.3%	44.3%	58.3%	55.0%	53.4%	54.2%	45.2%	58.2%	44.4%	48.3%	50.2%	50.0%
診療科別	内科系	2017	114名	134名	107名	125名	107名	109名	121名	129名	137名	179名	144名	129名	1,535名
			50.7%	53.6%	52.5%	49.4%	48.2%	47.8%	45.5%	54.2%	55.5%	55.2%	59.5%	59.2%	52.6%
	外科系		59名	75名	57名	79名	57名	76名	78名	65名	86名	98名	69名	60名	859名
			26.2%	30.0%	27.9%	31.2%	25.7%	33.3%	29.3%	27.3%	34.8%	30.2%	28.5%	27.5%	29.4%
	救急科		53名	41名	40名	49名	58名	43名	67名	44名	51名	47名	29名	29名	310名
			23.6%	16.4%	19.6%	19.4%	26.1%	18.9%	25.2%	18.5%	20.6%	14.5%	12.0%	13.3%	10.6%
	内科系	2018	108名	96名	116名	150名	129名	95名	109名	128名	114名	166名	124名	119名	1,454名
			49.3%	45.5%	53.0%	52.1%	53.3%	46.6%	40.2%	51.6%	43.7%	54.2%	52.5%	49.8%	49.4%
	外科系		71名	65名	57名	84名	70名	68名	102名	83名	93名	94名	74名	76名	937名
			32.4%	30.8%	26.0%	29.2%	28.9%	33.3%	37.6%	33.5%	35.6%	30.7%	31.4%	31.8%	31.8%
	救急科		40名	50名	46名	54名	43名	41名	60名	37名	54名	46名	38名	44名	320名
			18.3%	23.7%	21.0%	18.8%	17.8%	20.1%	22.1%	14.9%	20.7%	15.0%	16.1%	18.4%	10.9%
交通事故		2017	18名	25名	25名	25名	9名	30名	34名	21名	29名	22名	10名	13名	308名
			15%	17%	13%	14%	14%	16%	14%	15%	13%	10%	13%	9%	13.4%
		2018	19名	13名	17名	20名	12名	14名	36名	19名	39名	11名	18名	20名	238名
			8.7%	6.2%	7.8%	6.9%	5.0%	6.9%	13.3%	7.7%	14.9%	3.6%	7.6%	8.4%	8.1%

ドクターヘリ搬送患者数

年　度	合　計
2017	17 名
2018	14 名

平均在院日数（一般病棟）

	年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平　均
循環器内科	2017	12.1	9.4	9.1	9.1	9.8	10.1	10.1	11.2	9.8	14.9	13.4	11.3	10.9
	2018	10.3	10.5	12.2	13.5	12.9	12.8	11.6	12.8	9.7	13.8	13.7	12.4	12.2
消化器内科	2017	16.0	13.8	17.1	14.5	15.7	14.3	14.2	14.1	11.8	14.8	15.9	12.8	14.6
	2018	14.3	13.5	14.2	13.6	15.9	14.1	13.9	16.0	14.5	14.1	14.6	15.3	14.5
血液内科	2017	19.5	22.1	20.5	20.7	24.9	18.7	20.0	18.4	17.0	19.5	20.7	26.1	20.7
	2018	21.9	20.5	18.7	25.8	23.1	24.7	23.5	20.7	23.2	21.9	20.3	23.0	22.3
神経内科	2017		12.0	5.0	8.0						24.7	4.0	34.0	14.6
	2018		3.0		18.0		16.0	10.0		6.0				10.6
代謝内科	2017	14.7	26.5	18.7	16.7	14.8	16.3	9.0	17.4	15.0	21.8	11.0	15.5	16.5
	2018	10.1	12.3	15.7	9.4	9.2	12.3	15.6	16.6	14.5	18.0	21.9	15.1	14.2
呼吸器内科	2017	19.9	20.1	21.8	16.6	16.8	17.2	16.9	20.4	19.7	29.6	21.1	21.9	20.2
	2018	24.0	19.6	16.0	17.4	16.8	12.4	15.5	15.4	16.9	19.2	19.1	25.3	18.1
消化器外科	2017	15.3	14.9	16.3	18.1	14.9	15.6	16.1	14.4	13.9	14.8	18.4	17.3	15.8
	2018	14.9	13.4	15.4	12.8	15.3	14.0	13.5	13.2	11.0	14.4	11.4	13.7	13.6
呼吸器外科	2017	14.3	17.2	11.5	14.0	10.2	13.2	11.7	11.5	10.5	10.6	10.2	10.2	12.1
	2018	11.1	12.3	15.6	13.4	13.9	15.8	13.6	10.5	13.1	19.1	15.9	16.3	14.2
心臓血管外科	2017	8.7	7.7	7.7	8.8	8.0	7.2	8.8	9.2	10.4	10.3	10.1	9.7	8.9
	2018	11.3	10.0	8.2	9.0	11.3	11.8	11.4	10.2	8.7	10.6	12.5	10.3	10.4
脳神経外科	2017	19.2	17.0	16.6	15.3	15.7	13.8	15.0	16.9	16.4	19.6	20.8	18.9	17.1
	2018	22.0	19.8	17.9	24.3	19.6	20.2	20.8	18.7	18.4	24.0	22.5	27.8	21.3
整形外科	2017	21.6	23.1	22.1	20.3	18.1	18.6	21.2	22.2	19.1	18.7	17.0	16.6	19.9
	2018	17.9	20.5	20.5	20.9	16.2	21.5	21.1	20.8	18.4	18.9	22.0	19.7	19.9
婦 人 科	2017	9.8	9.6	8.4	7.2	10.9	5.8	10.0	6.8	8.8	5.7	6.8	7.4	8.1
	2018	6.9	7.0	8.4	7.5	5.6	7.2	6.6	5.0	6.6	5.5	6.0	4.8	6.4
眼　　科	2017	1.4	1.2	1.4	1.9	1.2	2.3	1.9	1.8	1.5	1.2	0.9	1.9	1.6
	2018	1.2	2.0	1.7	2.3	2.0	1.4	1.1	1.4	1.1	1.7	1.3	2.2	1.6
耳鼻咽喉科	2017	7.2	4.8	8.5	7.6	4.6	5.0	4.8	7.5	7.2	7.2	5.8	6.4	6.4
	2018	5.6	5.2	5.1	8.0	7.7	7.6	5.2	9.6	5.0	6.6	6.3	6.2	6.5
皮 膚 科	2017													
	2018											14.0		
合　　計	2017	14.9	14.5	14.6	14.4	14.3	13.4	14.1	14.7	13.3	15.7	15.7	14.9	14.5
	2018	14.9	14.5	14.6	15.5	15.2	15.5	14.9	14.7	13.8	15.9	15.9	16.2	15.1

※回復期リハ、療養病棟を除く

入院延べ患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2017	1,300	1,355	1,183	962	1,047	1,116	1,077	1,185	1,316	1,473	1,195	1,185	14,394
	2018	899	1,100	1,143	1,235	1,118	1,073	1,415	1,586	1,438	1,763	1,449	1,484	15,703
消化器内科	2017	1,576	1,538	1,511	1,437	1,619	1,617	1,615	1,600	1,451	1,517	1,522	1,672	18,675
	2018	1,416	1,488	1,403	1,581	1,685	1,578	1,567	1,593	1,512	1,520	1,474	1,615	18,432
血液内科	2017	1,752	1,965	2,018	2,123	1,956	1,690	1,916	1,776	1,612	1,915	1,611	1,824	22,158
	2018	1,547	1,511	1,366	1,719	1,863	1,808	1,813	1,589	1,665	1,778	1,545	1,445	19,649
神経内科	2017	64	111	129	164	206	122	66	53	37	69	78	83	1,182
	2018	54	67	120	108	154	138	236	193	143	67	55	109	1,444
代謝内科	2017	224	350	281	172	232	224	185	221	287	301	254	302	3,033
	2018	226	350	269	291	232	262	361	351	375	409	386	366	3,878
呼吸器内科	2017	736	869	797	650	626	596	664	652	760	1,034	714	670	8,768
	2018	591	544	490	536	558	393	495	463	530	497	599	735	6,431
消化器外科	2017	981	971	896	947	884	810	988	858	794	790	829	766	10,514
	2018	802	611	856	831	792	858	764	787	794	599	632	606	8,932
呼吸器外科	2017	315	341	280	279	251	358	361	380	306	307	179	178	3,535
	2018	227	240	292	306	338	401	266	199	302	416	317	323	3,627
心臓血管外科	2017	473	459	454	436	477	418	454	553	481	583	467	466	5,721
	2018	593	458	392	425	519	462	474	538	428	486	685	464	5,924
脳神経外科	2017	1,427	1,276	1,359	1,372	1,435	1,274	1,345	1,458	1,516	1,788	1,838	2,061	18,149
	2018	1,700	1,726	1,650	1,683	1,419	1,083	1,379	1,507	1,468	1,607	1,414	1,794	18,430
整形外科	2017	2,309	2,156	2,259	2,542	2,414	2,146	2,403	2,422	2,272	2,160	2,274	2,257	27,614
	2018	2,160	2,462	2,500	2,395	2,307	2,042	2,221	2,323	2,371	2,242	2,396	2,517	27,936
婦 人 科	2017	40	68	70	18	92	43	35	30	59	32	48	44	579
	2018	69	30	77	54	37	58	67	20	48	32	63	19	574
眼　　科	2017	37	52	50	61	28	61	60	67	58	68	41	62	645
	2018	41	80	58	65	35	24	52	56	51	51	42	77	632
耳鼻咽喉科	2017	147	114	191	151	101	142	129	126	180	156	91	112	1,640
	2018	138	130	102	158	243	138	139	216	119	112	107	99	1,701
皮 膚 科	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2018	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	14
リハビリテーション科	2017	648	645	485	510	552	648	779	679	625	495	411	457	6,934
	2018	553	668	634	611	667	751	814	698	885	873	721	836	8,711
形成外科	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2018	24	56	47	82	85	119	57	52	51	59	54	18	704
そ の 他	2017	170	275	210	278	188	264	269	250	392	550	415	279	3,540
	2018	180	190	247	240	262	127	100	197	232	200	163	178	2,316
合　　計	2017	12,199	12,545	12,173	12,102	12,108	11,529	12,346	12,310	12,146	13,238	11,967	12,418	147,081
	2018	11,220	11,711	11,646	12,320	12,314	11,315	12,220	12,368	12,412	12,711	12,116	12,685	145,038

新入院患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2017	68	98	79	75	74	87	86	75	96	72	64	74	948
	2018	74	90	75	75	66	66	98	93	86	105	76	82	986
消化器内科	2017	81	88	88	84	99	91	100	95	94	92	82	97	1,091
	2018	76	91	73	89	78	79	80	79	83	102	86	84	1,000
血液内科	2017	69	82	82	78	63	67	83	74	72	93	66	56	885
	2018	55	65	66	54	73	58	59	59	53	70	61	40	713
神経内科	2017	0	3	2	3	2	0	2	3	1	1	2	0	19
	2018	0	1	2	3	4	1	4	0	0	0	1	1	17
代謝内科	2017	13	6	9	5	14	8	13	9	11	9	12	15	124
	2018	14	25	14	19	16	20	16	19	15	18	13	15	204
呼吸器内科	2017	25	31	16	28	23	25	19	24	23	21	12	18	265
	2018	21	20	25	20	22	19	27	26	23	21	22	19	265
消化器外科	2017	61	57	53	53	56	54	59	44	49	56	46	36	624
	2018	42	43	55	57	44	54	49	60	57	49	53	31	594
呼吸器外科	2017	19	17	17	18	23	24	20	21	13	21	16	20	229
	2018	15	20	15	21	21	27	13	21	21	20	16	17	227
心臓血管外科	2017	54	56	66	48	54	48	54	57	37	66	40	45	625
	2018	45	45	42	50	50	40	48	47	45	48	48	41	549
脳神経外科	2017	40	40	46	53	49	49	57	59	62	51	47	64	617
	2018	42	50	48	43	35	32	45	54	37	50	36	47	519
整形外科	2017	61	58	65	82	75	81	76	72	68	82	84	81	885
	2018	80	78	87	67	92	58	83	71	86	87	80	76	945
婦 人 科	2017	6	9	11	1	10	7	2	8	7	7	8	7	83
	2018	11	6	9	8	8	9	11	4	8	9	10	5	98
眼　　科	2017	24	25	25	29	15	24	27	26	20	29	21	28	293
	2018	22	34	26	28	14	17	23	26	19	26	22	31	288
耳鼻咽喉科	2017	20	21	23	17	14	21	23	17	18	19	13	16	222
	2018	24	24	17	15	27	16	22	21	19	15	18	15	233
皮 膚 科	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2018	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
リハビリテーション科	2017	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	5
	2018	0	1	2	2	2	3	4	3	4	4	1	2	28
形成外科	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2018	1	4	9	9	8	12	11	16	8	6	8	7	99
そ の 他	2017	22	24	18	23	18	17	10	18	21	21	11	5	208
	2018	4	5	7	9	10	6	4	9	12	12	3	4	85
合　　計	2017	563	616	600	597	589	603	633	603	592	640	524	563	7,123
	2018	526	602	572	569	570	517	597	608	576	642	555	517	6,851

手術件数（入院・外来）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	入院	33	24	33	27	29	17	39	35	34	24	32	39	366
	外来	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
消化器内科	入院	29	37	27	40	39	31	34	50	35	38	37	38	435
	外来	48	57	46	66	53	44	53	54	51	53	44	42	611
血液内科	入院	3	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	0	11
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	入院	32	25	34	32	40	36	41	36	41	27	28	28	400
	外来	12	4	8	5	10	11	12	5	8	5	2	4	86
呼吸器外科	入院	4	10	12	4	12	8	7	6	5	8	7	4	87
	外来	3	7	6	5	5	4	2	7	5	3	0	6	53
心臓血管外科	入院	36	31	27	33	33	21	29	29	28	27	34	27	355
	外来	5	6	4	4	8	4	10	6	6	2	1	5	61
脳神経外科	入院	16	13	15	16	16	7	18	15	12	9	7	10	154
	外来	1	0	2	3	2	3	0	4	2	0	0	0	17
整形外科	入院	71	70	75	62	86	59	78	65	86	76	81	70	879
	外来	15	9	14	18	10	13	7	7	9	3	12	16	133
婦 人 科	入院	9	4	12	8	7	8	8	3	8	7	15	3	92
	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
眼　　科	入院	22	36	28	31	14	14	27	29	22	22	17	27	289
	外来	7	9	14	9	1	11	9	11	9	6	10	10	106
耳鼻咽喉科	入院	6	6	5	9	6	8	8	4	7	5	5	5	74
	外来	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
皮 膚 科	入院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	外来	0	1	2	1	1	1	0	0	1	0	0	0	7
形成外科	入院	2	9	7	11	10	12	10	14	5	7	12	3	102
	外来	5	1	1	3	7	1	6	0	4	2	0	7	37
合　　計	入院	263	265	275	278	292	222	299	286	286	250	276	254	3,246
	外来	96	94	97	115	97	93	100	94	95	74	69	90	1,114

※手術室・血管造影室・内視鏡室・救急処置室で行ったもの全て

手術件数（入院のみ・時間帯別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	日勤	29	21	30	26	28	16	35	32	33	22	29	36	337
	緊急	4	3	3	1	1	1	4	3	1	2	3	3	29
消化器内科	日勤	27	35	26	38	33	30	30	48	32	37	36	32	404
	緊急	2	2	1	2	6	1	4	2	3	1	1	6	31
血液内科	日勤	3	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	0	11
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	日勤	28	22	33	32	38	29	40	34	40	25	27	27	375
	緊急	4	3	1	0	2	7	1	2	0	2	1	1	24
呼吸器外科	日勤	3	10	12	4	10	8	7	5	5	8	7	4	83
	緊急	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	4
心臓血管外科	日勤	33	28	26	29	33	20	25	29	23	23	30	25	324
	緊急	3	3	1	4	0	1	4	0	5	4	4	2	31
脳神経外科	日勤	12	11	14	14	14	5	15	12	12	7	7	9	132
	緊急	4	2	1	2	2	2	3	3	0	2	0	1	22
整形外科	日勤	69	69	73	61	85	56	78	63	84	73	80	69	860
	緊急	2	1	2	1	1	3	0	2	0	3	1	1	17
婦 人 科	日勤	9	4	12	8	7	8	8	3	8	7	15	3	92
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼　　科	日勤	29	36	28	31	14	14	27	29	22	22	17	27	296
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	日勤	6	6	5	9	6	7	7	4	7	5	5	5	72
	緊急	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
皮 膚 科	日勤	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	日勤	2	9	7	4	10	12	10	14	5	7	12	3	95
	緊急	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合　　計	日勤	250	251	266	261	278	206	282	273	274	236	266	240	3,083
	緊急	20	14	9	11	14	16	17	13	9	14	10	14	161

病床利用率

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般病棟	2017	87.0%	87.9%	86.8%	83.1%	84.3%	82.9%	85.0%	88.5%	82.8%	89.1%	90.3%	84.5%
	2018	79.8%	83.0%	84.0%	84.0%	83.3%	80.5%	84.0%	88.4%	85.2%	87.4%	94.8%	85.7%
特定集中	2017	87.5%	77.0%	85.4%	67.3%	52.4%	57.1%	65.7%	77.9%	71.0%	75.0%	82.1%	71.8%
	2018	58.3%	64.9%	77.1%	77.4%	74.6%	63.3%	78.2%	68.8%	67.7%	75.8%	79.5%	85.5%
回復期リハ	2017	96.8%	92.7%	95.5%	93.9%	96.0%	89.9%	96.3%	97.2%	97.2%	96.3%	97.9%	93.2%
	2018	96.9%	101.1%	101.5%	101.1%	99.6%	97.7%	97.4%	100.8%	99.4%	99.3%	100.3%	99.8%
地域包括ケア	2017	78.8%	76.6%	80.4%	72.8%	70.9%	70.1%	75.7%	78.0%	80.5%	96.8%	90.9%	79.9%
	2018	62.3%	60.2%	69.7%	80.1%	87.0%	63.6%	70.4%	71.2%	80.8%	77.6%	79.1%	79.7%
療養病棟	2017	90.1%	86.8%	89.1%	91.7%	85.3%	88.9%	90.3%	89.2%	88.9%	95.3%	97.0%	96.1%
	2018	85.3%	71.1%	76.4%	82.6%	83.2%	84.1%	90.8%	94.4%	90.8%	87.2%	85.6%	98.0%
合　　計	2017	87.6%	87.2%	87.3%	84.1%	84.3%	83.0%	85.9%	88.4%	84.7%	91.3%	91.9%	86.2%
	2018	80.5%	81.4%	83.6%	85.3%	85.4%	81.0%	84.8%	88.7%	86.8%	87.7%	92.8%	87.9%

主な指導料・管理料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
救急医療管理加算1	458	440	416	555	502	510	634	705	653	670	650	603	566
救急医療管理加算2（その他）	449	599	580	757	721	758	770	720	809	918	845	741	722
夜間休日緊急搬送医学管理料	103	73	72	103	84	84	103	93	119	129	89	83	95
特定集中治療室管理料3（7日以内）	128	131	161	120	106	92	153	136	97	154	147	153	132
特定集中治療室管理料3（14日以内）	13	27	20	29	21	24	19	13	23	18	21	33	22
麻酔管理料1（閉鎖循環式全身麻酔）	97	97	117	82	102	78	116	100	114	133	139	121	108
麻酔管理料1（脊椎麻酔）（硬膜外麻酔）	3	1	1	0	2	0	0	0	0	3	0	2	1
病理組織標本作製	285	298	336	332	347	289	382	318	342	299	294	293	318
画像診断管理加算1（単純撮影）	801	849	901	860	852	761	910	831	908	864	832	778	846
画像診断管理加算2（CT、MRI）	910	942	936	980	1,007	887	1,006	964	1,017	970	925	977	960
外来化学療法加算2（ベルケイド含む）	80	110	100	93	83	76	81	87	100	114	115	123	97
外来栄養食事指導料　初回・2回目	80	73	72	96	74	76	82	73	82	69	75	86	78
入院栄養食事指導料1　初回・2回目	102	124	123	102	95	99	116	98	105	67	92	106	102
集団栄養食事指導料	0	8	8	13	5	6	3	4	3	3	1	8	5
薬剤管理指導料　※1・2含む	706	825	699	657	769	586	777	756	652	559	645	561	683
退院時薬剤情報管理指導料	160	190	179	144	151	153	177	188	218	124	164	184	169
薬剤情報提供料	273	246	224	337	334	268	253	238	299	618	298	262	304
無菌治療室管理加算	216	216	204	192	144	191	233	218	204	135	151	140	187
無菌製剤処理料1	211	221	203	230	207	201	263	202	206	173	175	189	207
無菌製剤処理料2	59	72	84	76	162	82	100	104	111	82	59	94	90
リハビリ総合計画評価料	598	639	609	627	669	549	676	660	651	577	655	630	628
退院時リハビリテーション指導料	151	175	180	174	194	174	182	210	237	120	177	187	180
在宅患者訪問リハビリ指導料	27	32	32	28	37	34	27	25	30	19	17	22	28
医療機器安全管理料	21	21	29	35	29	26	26	22	24	34	27	21	26
初診料	432	437	405	481	496	392	445	396	591	788	437	377	473
選定療養費（初診）※自費 2,160円	168	176	111	183	207	133	117	110	262	437	148	118	181
診療情報提供料（Ⅰ）	192	218	226	221	214	216	262	216	259	212	203	226	222
診療情報提供料（Ⅱ）	1	0	4	1	1	2	3	4	1	4	3	2	2
退院前訪問指導料	20	30	31	30	40	24	20	36	27	27	17	21	27
在宅療養指導料	2	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1
在宅患者訪問診療料	2	0	0	8	19	11	14	6	7	7	8	6	7
訪問看護指示料	3	12	9	3	10	10	6	12	3	9	3	7	7
在宅自己注射指導管理料	21	24	19	20	26	21	26	19	23	17	23	25	22
在宅人工呼吸、酸素療法、持続陽圧呼吸療法指導管理料	13	11	14	10	16	11	17	18	15	20	30	19	16
在宅寝たきり患者処置指導管理料	0	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1
悪性腫瘍特異物質治療管理料	112	118	144	134	139	136	153	135	147	151	141	152	139
特定薬剤治療管理料	42	55	61	79	50	71	78	57	51	35	56	61	58
特定薬剤治療管理料（4箇月目移行）	4	10	8	7	7	5	7	4	3	4	4	4	6
特定薬剤治療管理加算（臓器移植）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定薬剤治療管理加算（臓器移植以外）	7	16	7	12	7	13	15	13	5	8	12	6	10
肺血栓塞栓症予防管理料	99	94	112	104	113	83	114	104	104	92	108	91	102
褥瘡評価実施加算（療養病棟）	8	11	8	12	9	7	13	9	12	2	8	12	9
介護支援連携指導料	18	25	31	35	57	42	48	51	37	45	64	56	42
栄養サポートチーム加算	74	89	77	70	78	78	96	101	116	77	62	94	84
退院支援加算1　イ　一般病棟	3	3	4	2	3	2	5	1	2	1	3	2	3
退院支援加算1　ロ　療養病棟	288	534	483	566	458	419	488	481	491	476	629	518	486

地域がん登録部位別件数

部位名	第１段階　ICD-O-2　形態コード	第２段階　ICD-O-3　形態コード	件数
口腔・咽頭		C00-14	3
食道		C15	8
胃		C16	69
小腸		C17	6
結腸		C18	70
直腸		C19	28
肝臓		C22	13
胆嚢・胆管		C23-24	16
膵臓		C25	16
喉頭		C32	
肺		C33-34	39
骨・軟部			
皮膚（黒色腫含む）		C44	
乳房		C50	2
子宮頚部		C53	1
子宮体部		C54	
子宮		C55	
卵巣		C56	
前立腺		C61	1
膀胱		C67	
腎・他の尿路		C67,C64-66,C68	6
脳・中枢神経系		C700,C71,C722-C729,C751-753	1
甲状腺		C73	2
悪性リンパ腫	959-972/974-975	リンパ腫	36
多発性骨髄腫	973,976	骨髄腫	10
白血病	980-994	白血病	11
他の造血器腫瘍	995-998	造血器腫瘍	16
その他（原発不明）		その他	5
			359

院内・院外　研修・講演会一覧

医局（内科カンファレンス）

内　　容	発　表　者	場　　所	年　月　日	参加者数
抄読会「急性呼吸器感染症での PCT ガイドによる抗菌薬治療：患者レベルメタ解析」	水草真実	筑波記念病院	2018.5.9	28
症例報告「正中弓状靱帯による腹腔動脈根部の狭小化が原因と考えられた膵十二指腸動脈瘤破裂の一例」	岩﨑友哉	筑波記念病院	2018.5.9	28
抄読会「Tofacitinib as Induction and Maintenance Therapy for Ulcerative Colitis」	小島才明	筑波記念病院	2018.5.16	30
症例報告「尿道カテーテルによる膀胱穿孔の１例」	新井　陽	筑波記念病院	2018.5.16	30
予演会「血栓性血小板減少性紫斑病との鑑別が困難であったビタミン B12 欠乏症」	河野慈恵	筑波記念病院	2018.5.30	31
抄読会「Causes of macrocytic anemia 628 patients : mean corpuscular volumes of 114 and 130 fL as critical markers for categorization	勝山陽太	筑波記念病院	2018.6.13	18
症例報告「EMRを試行し得た無色素性直腸悪性黒色腫の一例	川嶋久雄	筑波記念病院	2018.6.13	18
抄　読　会「Tenofovir versus Placebo to Prevent Perinatal Transmission of Hepatitis B」	河瀬京太郎	筑波記念病院	2018.7.4	19
症例報告「右冠動脈を責任病変とする急性心筋梗塞に対して緊急PCIを施行した一例」	小島才明	筑波記念病院	2018.7.4	19
予演会「シクロフォスファミド長期投与で貧血の改善を得た顆粒リンパ球増多症関連赤芽球癆の１例」	矢野輝久	筑波記念病院	2018.7.4	19
CPC「出血性膀胱炎と敗血症を繰り返した重症再生不良性貧血の１例」	臨床側：新井　陽 病理側：臺　勇一	筑波記念病院	2018.7.11	23
CPC「大量腹水・肝腎症候群を呈した肝不全の１例」	臨床側：山田健人 病理側：臺　勇一	筑波記念病院	2018.7.11	22
抄読会「Reticulocyte hemoglobin equivalent as a potential marker for diagnosis of iron deficiency」	森島康介	筑波記念病院	2018.7.25	20
症例報告「横紋筋融解症を合併した熱中症の１例」	矢野輝久	筑波記念病院	2018.7.25	20
症例報告（循環器内科）	須藤彰仁	筑波記念病院	2018.9.5	22
抄読会「A Simple , Evidence-Based Approach to Help Guide Diagnosis of Heart Failure With Preserved Ejection Fraction」	矢野輝久	筑波記念病院	2018.9.12	22
症例報告「食道静脈瘤破裂を契機に診断された原発性胆汁性胆管炎の２例」	勝山陽太	筑波記念病院	2018.9.12	22
症例報告「成人発症 IgA 血管炎の一例」	末益将仁	筑波記念病院	2018.10.10	35
症例報告「診断に苦慮した急性腹症の一例」	河野慈恵	筑波記念病院	2018.10.17	18
予演会「複数の薬物誤嚥を認めた高齢者の一例」	角田健太	筑波記念病院	2018.10.17	18
抄読会「Acute Myocardial Infarction after Laboratory-Confirmed Influenza Infection」	山田健人	筑波記念病院	2018.10.31	18
症例報告「急性発症Ｉ型糖尿病」	蒲原玲南	筑波記念病院	2018.10.31	18
抄読会「転移性非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブと化学療法の併用療法」	末益将仁	筑波記念病院	2018.11.14	18
症例報告「血小板減少症で発症した悪性リンパ腫の一例」	宮崎慎一	筑波記念病院	2018.11.14	18
症例報告「老人性全身性アミロイドーシスの心病変として心アミロイドーシスが疑われた一例」	菊池裕一	筑波記念病院	2018.11.28	21
症例報告「ループレコーダー挿入が失神の原因疾患の診断に結びついた一例」	末益貴仁	筑波記念病院	2018.12.5	20
抄読会「進展型小細胞肺癌の一時治療としてのアテゾリズマブと化学療法との併用	米倉みなみ	筑波記念病院	2018.12.19	16

症例報告「糖尿病有する高度石灰化を伴った多肢病変狭心症の一例」	渋谷泰弘	筑波記念病院	2019.1.16	12
抄読会「糖尿病患者の一次予防におけるアスピリンの効果」	末益貴仁	筑波記念病院	2019.1.30	20
症例報告「微小残存病変消失後自己抹消血幹細胞移植を行った急性前骨髄球性白血病」	吉澤有紀	筑波記念病院	2019.1.30	20
CPC「Ph1 陽性 ALL の治療中に急死した 1 例」	臨床側：森島康介 病理側：臺　勇一	筑波記念病院	2019.2.6	23
抄読会「Helicobacter pylori Therapy for the Prevention of Metachronous Gastric Cancer」	秋本　健	筑波記念病院	2019.2.13	13
予演会「一過性の TCR 遺伝子再構成陽性 CD8+T リンパ球増多を示した CMV 感染症」	山田健人	筑波記念病院	2019.2.20	16
症例報告「潰瘍性大腸炎（UC）に アメーバ腸炎を合併した1例」	坂本百萌	筑波記念病院	2019.2.27	20
症例報告「ST 上昇型急性下壁梗塞に対して発症 4 日目に PCI を行い、概ね良好な入院経過を辿った一例」	河瀬京太郎	筑波記念病院	2019.3.13	19
症例報告「急性膵炎を契機に Lemmel 症候群と診断された 1 例」	森島康介	筑波記念病院	2019.3.13	19
抄読会「FOLFIRINOX or Gemcitabine as Adjuvant Therapy for Pancreatic Cancer]」	渋谷泰弘	筑波記念病院	2019.3.13	19
ＣＰＣ「急激な心不全をきたした多発性骨髄腫　患者の一剖検例」	末益将仁	筑波記念病院	2019.3.20	14
抄読会「Relationship of Overt and Silent Brain Lesions with Cognitive Function in Patients with Atrial Fibillation]	河野慈恵	筑波記念病院	2019.3.27	23
症例報告「CMLに対しスプリセルが奏功した一例」	米倉みなみ	筑波記念病院	2019.3.27	23

地域医療連携部（地域医療連携公開講座）

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
今後の医療情勢におけるＮＳＴの有用性と当院における管理栄養士の取り組み	矢部　義人	筑波記念病院	2018.4.20	74
当院におけるＤＯＡＣの使用状況	榎本　強志			
心房細動患者の脳梗塞予防におけるＤＯＡＣの役割 －現状と問題点－	埼玉医科大学 国際医療センター 棚橋　紀夫			
心不全を合併した糖尿病に対する薬物治療選択	神栖済生会病院 山本　昌良	筑波記念病院	2018.5.18	61
循環器内科からみた SGLT-2 阻害薬の可能性 ～臨床経験から学ぶ	東海大学医学部 伊苅　裕二			
平成 30 年度　診療報酬改定について	株式会社ニチイ学館 小澤　央子	筑波記念病院	2018.6.15	68
在宅での排便コントロールの事例紹介	市川　理恵子	筑波記念病院	2018.7.20	54
増える在宅患者～慢性便秘症診療をどうするべきか～	藤元総合病院 馬見塚　勝郎			
男の急所“前立腺” －プライマリーケアと新たな診断、治療戦略－	東海大学医学部付属 八王子病院 小路　直	筑波記念病院	2018.8.10	60
Part Ⅰ　傷あと・瘢痕制御との戦いの最前線 動脈硬化や糖尿病に対する薬も未来の治療薬かもしれません Part Ⅱ　筑波記念病院形成外科の病診連携 本年より常勤専門医が勤務し、より地域に貢献します	東京医科大学病院 松村　一	筑波記念病院	2018.9.14	52

がん性疼痛治療の基礎知識	土浦協同病院 堀越　健一	筑波記念病院	2018.9.28	43
がんに合併した静脈血栓症の診断と治療　当院10年間のまとめ	新潟県立がんセンター新潟病院 大倉　裕二			
もしかしてVTE？静脈血栓塞栓症発見のコツと診断・検査のテクニック	和田　英明	筑波記念病院	2018.10.19	55
日本人AF患者のリアルワールドデータからみる抗凝固療法の診療実態	慶應義塾大学医学部 澤野　充明			
第10回つくば内視鏡ライブセミナー	国立がん研究センター東病院 矢野　友規	筑波記念病院	2018.11.17	69
ライブデモンストレーション　ESD治療のポイント				
本日の症例を振り返って	筑波大学附属病院 消化器内科 溝上　裕士			
第10回地域連携PEGの会	谷口　麻理	つくば国際会議場	2019.1.12	52
地域包括ケア病棟におけるレスパイト患者受け入れの課題 シームレス看護の重要性				
当法人における訪問リハビリテーションの展開	渡辺　崇			
地域で食べるを支えるということ ～在宅支援から見えてきたこと～	日本歯科大学 多摩クリニック 菊谷　武			
ハイブリッド手術室装置紹介 －低侵襲治療を目指して－	株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン 佐山　春香	筑波記念病院	2019.1.25	26
ハイブリッド手術室装置の使用経験 －当院での症例紹介－	古谷　亘			
高次脳機能障害に対するモバイル型支援について	茨城県高次脳機能障害支援センター 小原　昌之	筑波記念病院	2019.3.22	81
高次脳機能障害を考える～その概念、評価と生活指導～	安岡　利一			

茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
小児領域Aコース	岸本光夫	筑波記念病院	2018.8.25・26	32
小児領域Bコース	岸本光夫・根本浩則（茨城西南医療センター病院）	筑波記念病院	2018.12.28・29	22
茨城シーティングセミナー2018 第1回『シーティングの基礎』	山崎泰広（一般財団法人日本車椅子シーティング財団　理事）	筑波記念病院	2018.11.13	81
茨城シーティングセミナー2018 第2回『高齢者が快適に車椅子へ座るための7つのポイント』	羽賀章郎（ラックヘルスケア㈱）	筑波記念病院	2018.12.6	47
茨城シーティングセミナー2018 第3回『地域包括ケアシステムにおけるシーティング』	木之瀬　隆（㈱シーティング研究所　代表）	筑波記念病院	2019.3.5	43
卒後研修 Advanced OSCE（客観的臨床能力試験）		筑波記念病院	2018.11.24・25	28

茨城県指定地域リハ・ステーション

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
つくば地域リハ・セミナー第27回症例検討会		筑波記念病院	2018.9.15	69
つくば地域リハ・セミナー第28回症例検討会		筑波記念病院	2019.3.9	67

茨城県指定小児リハ・ステーション

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
第 51 回小児リハビリテーションネットワーク会議 平成 29 年度事例検討の経過報告、他		筑波記念病院	2018.5.11	34
第 52 回小児リハビリテーションネットワーク会議　事例検討会		筑波記念病院	2018.7.17	46
第 53 回小児リハビリテーションネットワーク会議　事例検討会		筑波記念病院	2018.12.11	54

医療法人社団 筑波記念会 2018年度年報

発行者：医療法人社団 筑波記念会
〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299
TEL 029-864-1212
FAX 029-864-8135
http://tsukuba-kinen.or.jp/

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL